学生確保の見通し等を記載した書類

＜目次＞

１　学生確保の見通し及び申請者としての取り組み状況　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　1
（１）学生確保の見通し　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　1
　１）定員充足の見込み　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　1
　２）定員充足の根拠となる客観的なデータ概要　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　2
　３）学生納付金の設定の考え方　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　3

（２）学生確保に向けた具体的な取り組み状況　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　3
　１）学生確保に向けた広報方針　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　3
　２）具体的な取り組み　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　3
　３）各種広報媒体による広報　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　3

２　人材需要の動向等社会の要請　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　4
（１）人材の育成に関する目的その他の教育研究上の目的　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　4

（２）上記（１）が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠　4
　１）農林業分野における人材需要動向　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　4
　２）静岡県における農林業人材の需要　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　6
　３）人材需要の動向の根拠となる調査結果の概要　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　7

１　学生確保の見通し及び申請者としての取組状況

（１）学生確保の見通し

本学の設置学部と同分野への全国的な志願動向、静岡県内における 18 歳人口の動向や大学進学状況、本学設置予定の静岡県及び周辺地域（東海地域）における同学部学科の設置状況や近年の志願動向などを踏まえ、生産環境経営学部生産環境経営学科の定員を２４人に設定した。

１）　定員充足の見込み

①　静岡県における大学進学者の状況

県内にある大学への進学者（約 8,000 人）の状況を見ると、約４割が首都圏や関西圏、隣県などの県外からであり、本学への進学希望者は県外から見込まれる。

一方、県内高校の出身者の大学進学状況を見ると、大学進学者（約 17,000 人）のうち、県外の大学へ進学する割合は約７割であり、多くが首都圏や関西圏、隣県などに進学していた。県内に進学できる大学が増え、これまで県外に進学せざるを得なかった学生の一部が、本学へ進学を希望する可能性は高い。

【資料１】静岡県における大学進学者の状況

②大学への進学状況

高校の全学科の大学への進学状況をみると、全国及び静岡県共に卒業者総数は減少傾向にあるものの、大学進学率は上昇傾向にある。特に、普通科は 60%近くが大学へ進学している。

一方、農業科の大学等進学率は、全国及び静岡県ともに 15～20%と他の学科と比較して低い水準にあり、今後の上昇が見込まれるとともに、本学の設置により、農業科の進学先となることが見込まれる。

【資料２】大学の志願者数及び進学状況

③農学系学部への志願動向

全国における近年の大学（全学部）への志願者動向をみると、平成 29 年度における志願者数が 4,414,843 人であり、平成 25 年度からの５年間では 11.2%の伸び率を示している。一方、農学系学部を見ると、平成 29 年度における志願者数が 130,743 人であり、平成 25 年度からの５年間では 1.2%の伸び率を示している。以上から、大学（全学部）及び農学系学部への志願者は増加傾向にあり、今後もこの傾向が継続していくことが見込まれる。

また、本学が設置される静岡県及びその周辺地域である東海地区には 2018 年４月時点で、７校の農学系大学がある。このうち、本校と類似する国立４校の志願状況を見ると、安定して２倍以上の高い志願倍率を維持している。

【資料３】大学（学部）への入学志願者及び入学者動向

【資料４】東海地区における農学系学部の設置状況

【資料５】近隣農学系大学（学部）の設置状況と志願状況

④１８歳人口の推移

県内の大学進学者数について増減を予測すべく、18 歳人口の推移を調査した。全国の 18 歳人口は徐々に減少しており、平成 43 年は平成 29 年と比較して 16.6%減少すると予想される。また、静岡県でも、平成 30 年以降徐々に減少し、平成 43 年には平成 29 年度と比較して 16.3%減少すると予想される。

以上から、18 歳人口は減少傾向にあるが、県内は全国と同程度であり、大学進学者数が大幅に減少することはないと推察される。

【資料６】１８歳人口の推移

２） 定員充足の根拠となる客観的なデータ概要

大学を新設するにあたり、本学の学生確保の見通しを客観的かつ定量的に把握するため、主な学生募集エリアである静岡県と近隣県（愛知県、神奈川県、山梨県、岐阜県、三重県）に所在する 2020 年度３月に卒業見込みの生徒（開設年度に入学対象の学年、主に高校２年生）に対し、第三者機関によるアンケート調査を行った。実施に当たっては、アンケート用紙の配布に併せて静岡県立農林環境専門職大学及び静岡県立農林環境専門職大学短期大学部の概要を示したリーフレットを配布した。調査概要は下記のとおりである。

アンケート調査概要

調査名	静岡県立農林環境専門職大学（仮称）及び静岡県立農林環境専門職大学短期大学部（仮称）への入学意向に関するアンケート調査		
調査エリア	静岡県、愛知県、神奈川県、山梨県、岐阜県、三重県		
調査対象	2020 年３月に卒業見込みの生徒（主に高校２年生）		
調査方法	留め置き調査	依頼数	175 校　40,410 人
		回答数	161 校　28,164 人
調査時期	平成 30 年７月～９月		

静岡県立農林環境専門職大学への興味・関心について調査した結果、回答者 28,164 人のうち、398 人（1.4%）が「４年制の静岡県立農林環境専門職大学に興味・関心がある」、1,475 人（5.2%）が「４年制の静岡県立農林環境専門職大学にすこし興味・関心がある」と回答した。

「４年制の静岡県立農林環境専門職大学に興味・関心がある」もしくは「４年制の静岡県立農林環境専門職大学にすこし興味・関心がある」と回答した 1,873 人の受験意向を調査したところ、「受験したい」が 90 人（4.8%）、「受験先として検討したい」が 296 人（15.8%）であり、合計 386 人（20.6%）が本学への受験意向を示していた。

さらに、受験意向を示した 386 人に合格した場合の入学意向について調査したところ、「入学を希望する」が 173 人（44.8%）、「わからない」が 193 人（50.0%）、「入学を希望しない」が 16 人（4.1%）となり、173 人が入学意向を示しており、予定している入学定員 24 人の 7.2 倍の入学意向者数となった。

以上のように、本学への興味・関心や期待が高いことが窺え、学生確保が十分見込まれると考えられる。

【資料７】静岡県立農林環境専門職大学（仮称）及び静岡県立農林環境専門職大学短期大学部（仮称）への入学意向に関するアンケート調査報告

３）学生納付金の設定の考え方

学生納付金のうち、授業料については、幅広い学生に門戸を開くため、他の国公立大学よりも低く抑え、年額を 322,300 円として設定した。

また、入学金について、県内出身者は 141,000 円、県外出身者は 366,600 円として設定した。県内出身者と県外出身者で入学金に差を設けるのは本学が県立大学であることから県民税などを負担している県内の方に負担軽減を行うという考え方に基づくものであり、静岡県立大学や静岡文化芸術大学と同額に設定している。

【資料８】学生納付金

（２）学生確保に向けた具体的な取組状況

１）学生確保に向けた広報方針

本学は、基礎的な生産能力に加え、経営体の経営革新を推進する、加工・流通・販売の知識や経営管理能力、先端技術への対応力を有した地域社会における未来のリーダーとして、自然と共生し、農山村の景観や環境を磨き上げ、幅広い教養と豊かな人間性を備え地域の文化伝統を守っていくことのできる農林業者を人材育成目標としており、農林業現場と結びついた教育・研究活動を行う予定である。

学生確保に向けた取組について、全学体制として行い、開学に向けて、広報のための組織を作り、積極的に進めていく。

２）具体的な取組

①進学相談会/オープンキャンパス

年間を通じ、進学相談会やオープンキャンパスを実施し、大学見学や圃場見学など高校生や保護者が大学に直接触れる機会を設ける。また、外部業者が開催する進学説明会にも随時参加する。

②学校訪問・高校内ガイダンス

静岡県内に所在する高校を中心に訪問し、高校教員への情報提供や情報収集を行う。

③出張講義

農林業やその関連産業に関わる研究活動への興味関心を喚起するため、本学教員が高校にて出張講義を行う。静岡県内の農業科等の農林業関係の学科を持つ高校を中心に、普通科でも広く行う予定である。

３）各種広報媒体による広報

①ＷＥＢサイト

静岡県内だけでなく、近隣県や首都圏からも学生を積極的に募集するため、ＷＥＢを利用した広報活動を積極的に行う。大学サイトだけでなく、Twitter や Instagram、FACEBOOK などのＳＮＳを用い、双方向での情報共有を行う予定である。

認可前には、静岡県庁ＨＰ（https://www.pref.shizuoka.jp/sangyou/sa-330/index.html）にて、本学の特徴や学長メッセージを掲載し、随時イベント情報を掲載する。また、認可後は大学サイトを立ち上げ、就任予定教員や、予定される研究室なども掲載し、学生が進路を決定するにあたり、より具体的な情報を掲載していく。

②静岡県立農林環境専門職大学リーフレットの作成配布

設置に関するアンケート調査の実施に際し、本学の構想を説明するためのリーフレット（Ａ３版、両面）を作成した。本リーフレットは、静岡県内の高校の主に２年生を対象に配布したものであり、高校生が将来の進学先を検討する際の資料として活用することも想定して作成した。

平成 31 年春からは、ホームページでの本学の資料請求に対応する仕組みを整える。ホームページ上で資料申し込みを受け付け、希望者には大学案内用の小冊子を送付する。また、大学設置認可後、大学案内及び募集要項の請求に対応する。

③静岡県広報誌の活用

静岡県広報誌の特集として、本学設置の構想について紹介を行う。誌面は、県内の高校２年生が本学の学部学科の構成やキャンパスについて紹介する構成とし、将来の進学を考える高校生が読者層となることを想定したものとする。

④外部情報媒体の積極的な活用

受験雑誌や関連サイト、新聞広告を利用した学生確保にむけたＰＲ活動を行う。

２　人材需要の動向等社会の要請

（１）人材の育成に関する目的その他の教育研究上の目的

農林業では、就業者の高齢化や減少が進み、担い手不足による生産基盤の脆弱化が進行している。農林業の持続的発展のためには、就業者の確保に加え、次世代の担い手が、付加価値の向上、規模拡大や投資を通じた生産性の向上に挑戦し、効率的かつ安定的な経営を実現していくことが重要である。また、農山村や森林は、農林業の持続的な発展の基盤であり、また、生産活動を通じて国土の保全や水源の涵養、生物多様性の保全、良好な景観の形成、文化の伝承等の多面的機能の発揮の場となっている。このような多面的機能の効果は、農山村地域の住民だけでなく国民全体が享受しており、将来にわたって守っていくことが必要である。

静岡県では、個々の農林業経営体の規模が拡大し、応用可能な技術革新が進展してきたことから、基礎的な生産能力に加えて、加工・流通・販売の知識や経営管理能力、生産性を高める先端技術への対応能力を持ち、経営改革を主導できる人材が求められている。また、農業・農村や森林が有する多面的機能の維持と発揮のため、農山村の自然と共生し、景観や環境を保全していくとともに、地域の文化や伝統を守り育み、地域社会を支えていく農林業者が求められている。

このため、本学では「基礎的な生産能力に加え、経営体の経営革新を推進する、加工・流通・販売の知識や経営管理能力、先端技術への対応力を有するとともに、地域社会における未来のリーダーとして、自然と共生し、農山村の景観や環境を磨き上げ、幅広い教養と豊かな人間性を備え地域の文化伝統を守っていくことのできる農林業者」を人材育成目標に掲げ、農林業現場の担い手育成を目指す。

農学分野の大学学部は県内には静岡大学農学部のみであるが、静岡大学農学部卒業生で農林業現場に就職する者はごくわずかであり、県内で農林業に就業を希望する高校生等の十分な受け皿とはなっていないため、県立の高等教育機関を整備することで本学が将来農林業を志す人材の受け皿となることが十分期待できる。

（２）上記（１）が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

１）農林業分野における人材需要動向

①農業就業者の動向

我が国農林業では、担い手の高齢化や減少が課題となっており、担い手の確保は喫緊の課題である。農業就業者数（全国）は、平成 17 年は 2,703 千人（全産業就業者数 61,506 千人の約 4.3%）であったが、平成 27 年は 2,004 千人（全産業就業者数 58,919 千人の約 3.4%）となっており、減少傾向にあるものの、若年層の減少率は全体と比較して低く、特に 30 代は増加傾向にある。

次に全国の就業形態別新規就農者の推移を見ると、新規自営農業就農者は年による変動が大きいが、新規雇用就農者及び新規参入者は増加傾向にある。また、49 歳以下の新規就農者は増加傾向に

あり、平成26年以降は２万人台で推移している。

【資料９】農業への就業者状況（全国）

②林業就業者の動向

林業就業者数（全国）は増加傾向にあり、平成17年は46千人（全産業就業者数61,506千人の約0.07%）から平成27年は63千人（全産業就業者数58,919千人の約0.10%）となっており、特に若年層の増加が顕著である。

次に、全国の林業新規就業者数の推移を見ると、平成22年は4千人を超えているものの、３千人台で推移している。

【資料10】林業への就業者状況（全国）

③大卒者の農林業への就業状況

大卒者（全学部）の就職状況を見ると、産業別では「卸売業、小売業」（16.0%）、「医療、福祉」（12.6%）、「製造業」（11.6%）、「情報通信業」（9.0%）、「金融業、保険業」（8.8%）の順に多くなっており、「農業、林業」は0.2%と1%にも満たない。

一方、大卒者（農学部）の産業別就職状況を見ると、「製造業」（20.4%）、「卸売業、小売業」（17.8%）、「公務」（11.9%）、「学術研究、専門・技術」（9.7%）、「情報通信業」（4.7%）の順に多くなっており、「農業、林業」は4.3%となっている。

以上のように、大卒者（農学部）の農業・林業分野への就職者数の割合は全学部よりも高いが、その数は少なく、農林業現場に十分な人材を供給していない。

【資料11】大卒者の産業別就職者数

④農林業の経営体数の推移

全国の農業経営体数は、平成17年の2,009千経営体から、平成27年の1,377千経営体へと10年間で31.5%減少しているが、法人経営体は平成17年の19千経営体から平成27年の27千経営体へ41.6%増加している。経営規模別面積で見ると、10ha未満の経営体数は減少傾向にあるが、10ha以上の経営体数は増加傾向にある。

一方、全国の林家・林業経営体数を見ると、林家は平成17年の920千戸から平成27年の829千戸へ9.9%減、林業経営体は平成17年の200千経営体から平成27年の87千経営体へと56.4%減少している。このうち法人経営体数は、平成17年の9千経営体から平成27年の6千経営体へ34.1%減少している。経営規模別面積で見ると、保有山林面積100ha以上の林家は増加傾向にあり、また、保有山林面積10ha以上の林業経営体は全体と比較して、減少比率が低い傾向にあった。

【資料12】経営体数等の推移

⑤人材確保に向けた取組

農林業では従事者数の減少が進む一方で、若年層は増加傾向にある。しかしながら、大学から農林業分野への就業者は少ないのが現状である。

また、農林業の個々の経営体等の規模拡大が進んでいるが、農林業の競争力を強化に向けて、この動きを加速化する必要がある。そのためには経営管理能力を持った人材や、生産現場を支える専門的な能力を備えた人材が不可欠である。

農林水産省では、次世代の農業の担い手を育成するための「農業次世代人材投資事業」、林業の新

規就業者対策である「緑の雇用事業」、農林業の構造改革及び農業大学校の専門職大学化などを推進し、若年層の担い手確保を目指している。

２）静岡県における農林業人材の需要

①農業就業者の動向

静岡県における農業就業者数は、平成 17 年が 91,645 人（全産業就業者数 1,990,647 人の 4.6%）であったが、平成 27 年は 65,030 人（全産業就業者数 1,897,194 人の 3.4%）へと 29.0%減少している。年代別に見ると若年層の減少幅は狭く、特に 30 代は増加傾向にある。

また、新規就農者数は増加傾向にあり、過去 10 年では「法人就農」及び「自立就農」が高い伸びを示している。さらに、年齢別に見ると、49 歳以下が９割近くを占めている。

【資料 13】農業への就業者状況（静岡県）

②林業就業者の動向

静岡県における林業就業者数は、平成 17 年の 1,046 人（全産業就業者数 1,990,647 人の 0.05%）から平成 27 年の 1,660 人（全産業就業者数 1,897,194 人の 0.08%）に増加している。また、林業への新規就業者数は、80～100 人の間で推移している。

【資料 14】林業への就業状況（静岡県）

③近隣大学卒業者の就職状況

近隣の大学である静岡大学卒業生の就職状況をみると、「製造業」（20.8%）、「公務員」（17.1%）、「教育・学習支援業」（16.9%）、「情報通信業」（13.1%）、「金融・保険業」（7.5%）の順に多く、「農業・林業・漁業」は 0.6%であった。このうち、農学部の卒業生の就職状況をみると、「製造業」（34.5%）、「公務員」（27.4%）、「農業、林業、漁業」（6.0%）、「小売業、小売業」（6.0%）、「鉱業、建設業」（6.0%）となっており、第１次産業である農林漁業への就職者数は少ない。

なお、農学部は食糧や環境まで含めた農学分野で活躍する人材の育成を目指しており、農林業現場の担い手育成を目指す本学とは目的が異なる。

【資料 15】近隣大学の産業別就職者数

④農林業の経営体数等の推移

農業経営体数を見ると、平成 17 年の 47,209 経営体から平成 27 年の 33,143 経営体へ 29.8%減少する中、法人経営は平成 17 年の 473 経営体から平成 27 年の 562 経営体へと 18.8%増加している。経営規模別に見ると、10ha 以上の経営耕地面積を持つ経営体数が大幅に増加している。

林家・林業経営体数を見ると、林家数は平成 17 年の 19,617 戸から平成 27 年の 19,169 戸へ 10 年間で 2.3%減少、林業経営体は平成 17 年の 4,259 経営体から平成 27 年の 1,964 経営体へ 10 年間で 53.9%減少している。経営規模別にみると、100ha 以上の保有山林面積を持つ林家は増加傾向にある。また、50ha 以上の保有山林面積を持つ林業経営体は全体よりも減少率が低い傾向にあった。

【資料 16】経営体数等の推移

⑤人材確保に向けた取組

農業分野では担い手の高齢化や廃業が進む一方で、法人化や規模拡大が進んでおり、現場の即戦力となる高い生産技術や経営管理能力を持った人材が不可欠となっている。

また、林業分野では 60 才以上の林業就業者数が７割近くを占め、今後は退職などにより人手不足が見込まれる。その一方で、県内の木材生産量は平成 22 年を底に回復しており、林業の成長産業化に向けた森林・林業に関する幅広い知識を習得し、森林の多面的機能の向上と林業の持続的な林業経営に貢献できる人材の育成が求められている。

このため、本県では農林大学校から専門職大学へ移行し、次代の農林業を支える人材の養成を行う。また、若年層の農林業への就業者数が増加する中、現状の大学では農林業現場を担う人材養成は十分に行われていないため、実践的な農林業について学ぶことの出来る本学の社会的ニーズは高い。

【資料 17】「静岡県経済産業ビジョン 2018～2021」
【資料 18】静岡県における木材生産量の推移

３）人材需要の動向の根拠となる調査結果の概要

①アンケート結果

本学が養成する人物像及び研究教育上の目的が、社会的、地域的な需要の動向を踏まえたものであるかを客観的に調査すべく、農林業関係や地域企業（事業所）の各種データを調べ、「静岡県立農林環境専門職大学（仮称）及び静岡県立農林環境専門職大学短期大学部（仮称）の卒業生に対する企業等の採用意向に関するアンケート調査」を実施し、考察を行った。

アンケート調査は、第三者機関に依頼し、卒業生の就職が見込まれる農林業関わる企業等を中心とした 1,890 社の採用担当者にアンケート調査への協力を依頼した。

その結果、回答のあった企業等 526 件のうち、「採用したい」が 124 件（23.6%）、「採用を検討したい」が 221 件（42.0%）、「採用は考えない」が 179 件（34.0%）であり、「採用したい」と「採用を検討したい」を合算すると、345 件（65.6%）となった。また、「採用したい」、「採用を検討したい」と回答した企業等の採用人数について質問し、その結果を集計した。採用意向人数を「採用したい」のみで合計した場合、168 人分となった。入学定員は 24 名であるため、7.0 倍の採用意向を確保できた。さらに、「採用したい」、「採用を検討したい」を合計した場合、採用意向人数は 397 人となり、入学定員に対し 16.5 倍となった（下表）。

以上より、本学人材への需要は高いことが確認され、卒業後の進路は十分に確保できるものと考える。さらに、本学では、臨地実務実習などの授業において長期のインターン・シップを行うため、地域の農林業経営体と密着した大学となる。このため、インターン・シップを通して、農林業経営体とのマッチングを図ることができ、地域の産業界の人材需要へ適切に応えることができると考える。

アンケート調査概要

調査名	静岡県立農林環境専門職大学（仮称）及び静岡県立農林環境専門職大学短期大学部（仮称）の卒業生に対する企業等の採用意向に関するアンケート調査
調査目的	静岡県立農林環境専門職大学（仮称）及び静岡県立農林環境専門職大学短期大学部（仮称）の卒業生に対する企業等の採用意向を把握することを目的とする。
調査対象	卒業生の就職が見込まれる農林業に関わる企業等を中心とした 1,890 社
調査方法	郵送調査
調査実施期間	平成 30 年 7 月～8 月
調査委託先	一般財団法人　日本開発構想研究所

静岡県立農林環境専門職大学卒業生の採用人数

回答数（件） 人数（人）	「採用したい」のみ			「採用したい」・「採用を検討したい」の合計		
	件数	合計		件数	合計	
１人(A)	58(a)	(A)×(a)	58	131(a)	(A)×(a)	131
２人(B)	23(b)	(B)×(b)	46	32(b)	(B)×(b)	64
３人(C)	3(c)	(C)×(c)	9	3(c)	(C)×(c)	9
４人(D)	1(d)	(D)×(d)	4	1(d)	(D)×(d)	4
５人以上(E)	3(e)	(E)×(e)	15	3(e)	(E)×(e)	15
人数は未確定(F)	36(f)	(F)×(f)	36	174(f)	(F)×(f)	174
無回答	－	－	－	1	－	－
合計採用意向			168 人			397 人

※「人数未確定」とは、農林環境専門職大学卒業生の採用意向について、「採用したい」、「採用を検討したい」と回答し将来的な採用意向は示すが、アンケート調査の時点では将来的な採用人数について確定していないものである。したがって、本調査では「人数は未確定」の将来的な採用人数を最低数である「１人として」計算した。

【資料 19】アンケート調査報告書

②法人に対するヒヤリング結果

県内の農林業法人等 10 団体に対しヒヤリング調査を行った。その結果、経営能力を備えた人材を求める声が多かった。また、林業団体から専門職大学設置について要望が出ている

【資料 20】ヒヤリング調査報告書

【資料 21】関係団体からの要望

添付資料一覧

＜目次＞

【資料１】静岡県における大学進学者の状況
【資料２】大学の志願者数及び進学状況
【資料３】大学（学部）への入学志願者及び入学者動向
【資料４】東海地区における農学系学部の設置状況
【資料５】近隣農学系大学（学部）の設置状況と志願状況
【資料６】１８歳人口の推移
【資料７】静岡県立農林環境専門職大学（仮称）及び静岡県立農林環境専門職大学短期大学部（仮称）への入学意向に関するアンケート調査報告
【資料８】学生納付金
【資料９】農業への就業者状況（全国）
【資料 10】林業への就業者状況（全国）
【資料 11】大卒者の産業別就職者数
【資料 12】経営体数等の推移
【資料 13】農業への就業者状況（静岡県）
【資料 14】林業への就業状況（静岡県）
【資料 15】近隣大学の産業別就職者数
【資料 16】経営体数等の推移
【資料 17】「静岡県経済産業ビジョン 2018～2021」（抜粋）
【資料 18】静岡県における木材生産量の推移
【資料 19】静岡県立農林環境専門職大学（仮称）及び静岡県立農林環境専門職大学短期大学部（仮称）の卒業生に対する企業等の採用意向に関するアンケート調査報告
【資料 20】ヒヤリング調査報告書
【資料 21】関係団体からの要望

【資料１】

大学進学者流出・流入状況

県内大学への進学状況

（単位：人）

年度	平成25年度		平成26年度		平成27年度		平成28年度		平成29年度	
総数	8,111		8,075		8,113		8,000		8,157	
県内流入総数 （総数に対する比率）	3,144 (38.8%)		3,258 (40.3%)		3,283 (40.5%)		3,284 (41.1%)		3,255 (39.9%)	
1	愛　知	623	愛　知	659	愛　知	609	愛　知	636	愛　知	616
2	東　京	241	東　京	231	東　京	242	東　京	230	東　京	234
3	神奈川	205	神奈川	194	神奈川	227	神奈川	209	神奈川	192
4	岐　阜	174	岐　阜	173	岐　阜	161	岐　阜	148	岐　阜	165
5	山　梨	164	山　梨	140	山　梨	147	三　重	132	長　野	122
6	長　野	129	茨　城	126	長　野	116	千　葉	127	北海道	117
7	三　重	112	千　葉	122	千　葉	108	山　梨	118	山　梨	116
8	千　葉	105	北海道	105	北海道	107	長　野	117	千　葉	112
9	茨　城	87	長　野	105	三　重	105	茨　城	105	三　重	110
10	北海道	84	三　重	105	茨　城	96	北海道	98	茨　城	97
県内進学者 （総数に対する比率）	4,967 (61.2%)		4,817 (59.7%)		4,830 (59.5%)		4,716 (59.0%)		4,902 (60.1%)	

（出典：文部科学省「学校基本調査」）

県内高校出身者の大学進学状況

（単位：人）

年度	平成25年度		平成26年度		平成27年度		平成28年度		平成29年度	
総数	17,635		16,965		17,407		16,890		17,323	
県外流出総数 （総数に対する比率）	12,668 (71.8%)		12,148 (71.6%)		12,577 (72.3%)		12,174 (72.1%)		12,421 (71.7%)	
1	東　京	3,534	東　京	3,452	東　京	3,578	東　京	3,461	東　京	3,527
2	神奈川	2,253	神奈川	2,169	神奈川	2,332	神奈川	2,190	神奈川	2,187
3	愛　知	2,128	愛　知	1,947	愛　知	1,905	愛　知	1,951	愛　知	2,078
4	千　葉	657	千　葉	572	千　葉	670	千　葉	631	千　葉	658
5	埼　玉	596	埼　玉	569	埼　玉	580	京　都	520	埼　玉	529
6	京　都	580	京　都	566	京　都	535	埼　玉	510	京　都	525
7	山　梨	366	山　梨	362	山　梨	344	山　梨	323	大　阪	315
8	大　阪	283	大　阪	253	大　阪	280	大　阪	257	山　梨	311
9	北海道	215	北海道	170	北海道	190	北海道	193	北海道	191
10	石　川	173	石　川	159	石　川	182	石　川	183	茨　城	160
県内進学者 （総数に対する比率）	4,967 (28.2%)		4,817 (28.4%)		4,830 (27.7%)		4,716 (27.9%)		4,902 (28.3%)	

（出典：文部科学省「学校基本調査」）

【資料２】

大学の志願者数及び進学状況

全国の志願者数及び進学状況

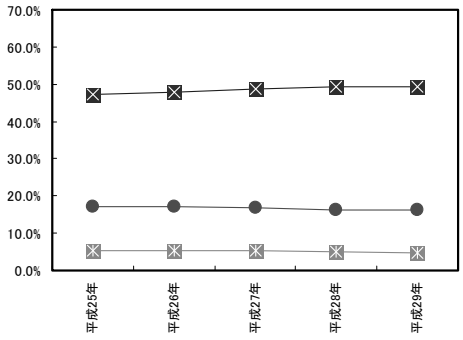
学科	年	総数	大学等進学数	（進学率）	大学（学部）	（進学率）	短期大学（本科）	（進学率）	専修学校（専門課程）進学数	（進学率）
全学科	平成25年	1,088,124	578,554	(53.2%)	514,905	(47.3%)	58,605	(5.4%)	185,378	(17.0%)
	平成26年	1,047,392	563,268	(53.8%)	502,279	(48.0%)	55,924	(5.3%)	178,530	(17.0%)
	平成27年	1,064,376	579,938	(54.5%)	519,132	(48.8%)	55,620	(5.2%)	177,827	(16.7%)
	平成28年	1,059,266	579,738	(54.7%)	521,320	(49.2%)	53,273	(5.0%)	173,396	(16.4%)
	平成29年	1,069,568	585,184	(54.7%)	528,686	(49.4%)	51,426	(4.8%)	173,676	(16.2%)
普通科	平成25年	794,230	494,133	(62.2%)	450,669	(56.7%)	42,922	(5.4%)	122,390	(15.4%)
	平成26年	760,578	480,684	(63.2%)	439,448	(57.8%)	40,757	(5.4%)	117,835	(15.5%)
	平成27年	774,721	495,329	(63.9%)	454,580	(58.7%)	40,213	(5.2%)	118,191	(15.3%)
	平成28年	771,878	494,878	(64.1%)	456,035	(59.1%)	38,341	(5.0%)	114,974	(14.9%)
	平成29年	781,366	499,610	(63.9%)	462,193	(59.2%)	36,955	(4.7%)	115,026	(14.7%)
農業科	平成25年	27,605	3,817	(13.8%)	2,464	(8.9%)	1,274	(4.6%)	7,043	(25.5%)
	平成26年	26,599	3,523	(13.2%)	2,278	(8.6%)	1,170	(4.4%)	6,834	(25.7%)
	平成27年	26,312	3,642	(13.8%)	2,382	(9.1%)	1,192	(4.5%)	6,331	(24.1%)
	平成28年	26,267	3,567	(13.6%)	2,291	(8.7%)	1,205	(4.6%)	6,355	(24.2%)
	平成29年	26,856	3,934	(14.6%)	2,664	(9.9%)	1,223	(4.6%)	6,802	(25.3%)

（出典：文部科学省「学校基本調査」）

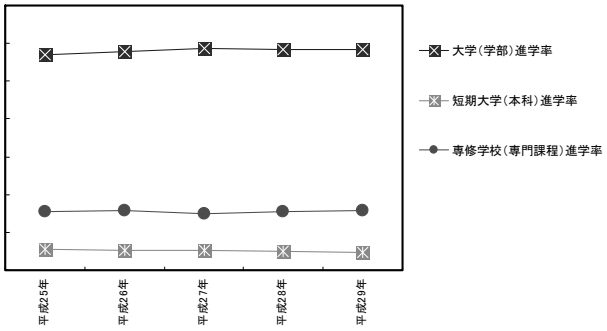
静岡県の志願者数及び進学状況

学科	年	総数	大学等進学数	（進学率）	大学（学部）	（進学率）	短期大学（本科）	（進学率）	専修学校（専門課程）進学数	（進学率）
全学科	平成25年	33,516	17,786	(53.1%)	16,051	(47.9%)	1,711	(5.1%)	5,543	(16.5%)
	平成26年	31,726	16,838	(53.1%)	15,314	(48.3%)	1,499	(4.7%)	5,450	(17.2%)
	平成27年	32,404	17,450	(53.9%)	15,922	(49.1%)	1,499	(4.6%)	5,296	(16.3%)
	平成28年	32,058	17,007	(53.1%)	15,521	(48.4%)	1,462	(4.6%)	5,388	(16.8%)
	平成29年	32,825	17,364	(52.9%)	15,941	(48.6%)	1,401	(4.3%)	5,640	(17.2%)
普通科	平成25年	23,188	14,547	(62.7%)	13,236	(57.1%)	1,301	(5.6%)	3,565	(15.4%)
	平成26年	21,560	13,636	(63.2%)	12,493	(57.9%)	1,133	(5.3%)	3,414	(15.8%)
	平成27年	22,005	14,047	(63.8%)	12,904	(58.6%)	1,132	(5.1%)	3,310	(15.0%)
	平成28年	21,796	13,801	(63.3%)	12,701	(58.3%)	1,094	(5.0%)	3,366	(15.4%)
	平成29年	22,045	13,900	(63.1%)	12,847	(58.3%)	1,045	(4.7%)	3,453	(15.7%)
農業科	平成25年	810	164	(20.2%)	110	(13.6%)	54	(6.7%)	197	(24.3%)
	平成26年	812	137	(16.9%)	86	(10.6%)	50	(6.2%)	289	(35.6%)
	平成27年	792	139	(17.6%)	88	(11.1%)	50	(6.3%)	188	(23.7%)
	平成28年	767	116	(15.1%)	75	(9.8%)	40	(5.2%)	215	(28.0%)
	平成29年	785	136	(17.3%)	94	(12.0%)	42	(5.4%)	278	(35.4%)

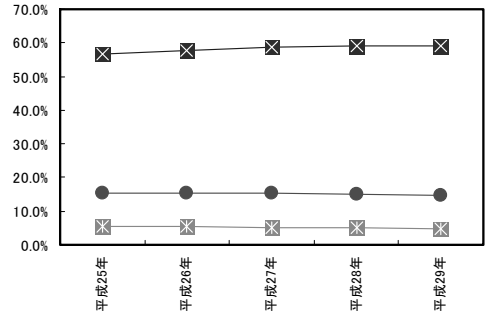
（出典：文部科学省「学校基本調査」）



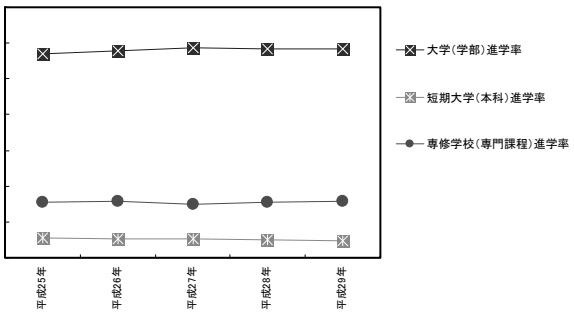
進学率及び就職率の推移（全国・全学科）



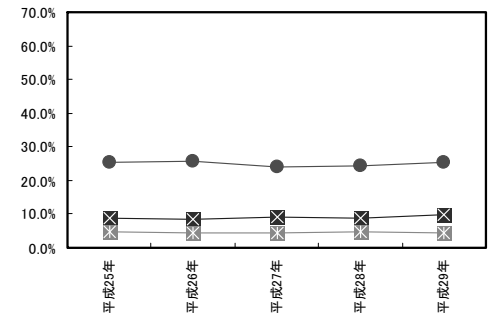
進学率及び就職率の推移（静岡県・普通科）



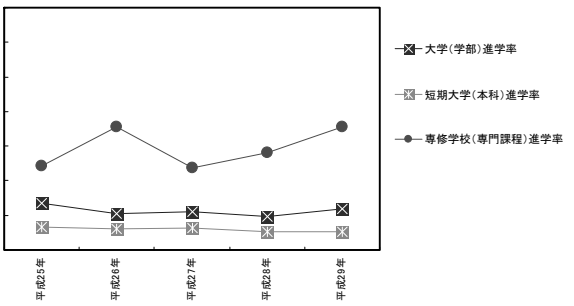
進学率及び就職率の推移（全国・普通科）



進学率及び就職率の推移（静岡県・普通科）



進学率及び就職率の推移（全国・農業科）



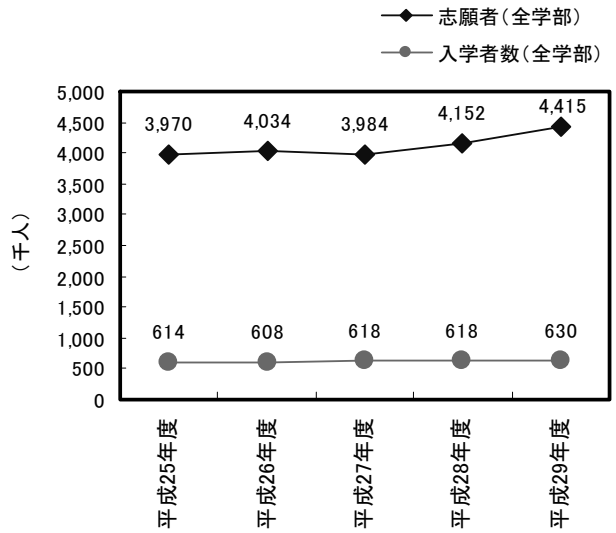
進学率及び就職率の推移（静岡県・農業科）

【資料３】

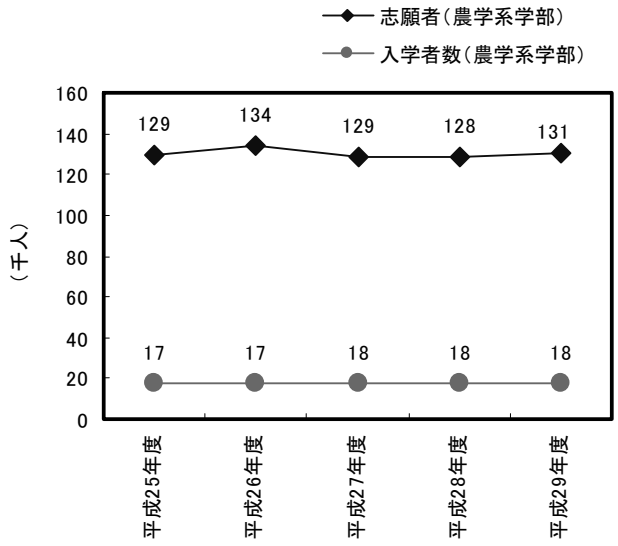
大学（学部）への入学志願者及び入学者動向

分類	区分	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	増加率（29年/25年）
全学部	志願者（人） （前年比）	3,970,026 (104.9%)	4,034,385 (101.6%)	3,983,778 (98.7%)	4,151,981 (104.2%)	4,414,843 (106.3%)	11.2%
	入学者数（人）	614,183	608,247	617,507	618,423	629,733	2.5%
農学系学部	志願者（人） （前年比）	129,151 (104.0%)	133,989 (103.7%)	128,875 (96.2%)	128,326 (99.6%)	130,743 (101.9%)	1.2%
	入学者数（人）	17,278	17,294	17,696	17,866	17,798	3.0%

（出典：文部科学省「学校基本調査」）



大学（学部）への入学志願者及び入学者動向



農業系学部への入学志願者及び入学者動向

【資料４】

東海地区における農学系学部の設置状況

No	所在地	区分	大学名	学部名	学科名
1	静岡	国立	静岡大学	農学部	生物資源科学科
2	愛知	国立	名古屋大学	農学部	応用生命科学科
3		私立	中部大学	応用生物学部	環境生物科学科
4		私立	人間環境大学	人間環境学部	環境科学科
5		私立	名城大学	農学部	生物資源学科
6	岐阜	国立	岐阜大学	応用生物科学部	生産環境科学課程
7	三重	国立	三重大学	生物資源学部	資源循環学科

【資料５】

近隣農学系大学（学部）の設置状況と志願状況

大学名	学部名	学科名	受験年度	日程等	募集人員	志願者数	志願倍率	受験者数	受験倍率	合格者数	入学者数
静岡大学[1)]	農学部	共生ﾊﾞｲｵｻｲｴﾝｽ学科	H26	前期	30	64	2.1	32	1.7	32	30
				後期	14	81	5.8	31	1.6	20	15
				推薦入試	16	34	2.1	34	2.1	16	16
				合計	60	179	3.0	118	2.0	68	61
			H27	前期	30	84	2.8	75	2.5	32	30
				後期	14	103	7.4	45	3.2	23	19
				推薦入試	16	29	1.8	29	1.8	15	15
				合計	60	216	3.6	149	2.5	70	64
		環境森林科学科	H26	前期	20	31	1.6	28	1.4	23	22
				後期	12	43	3.6	18	1.5	15	11
				推薦入試	8	14	1.8	14	1.8	8	8
				合計	40	88	2.2	60	1.5	46	41
			H27	前期	20	38	1.9	31	1.6	23	22
				後期	12	54	4.5	26	2.2	16	14
				推薦入試	8	13	1.6	13	1.6	8	8
				合計	40	105	2.6	70	1.8	47	44
		生物資源科学科	H28	前期	45	104	2.3	82	1.8	50	50
				後期	25	112	4.5	37	1.5	26	18
				推薦入試	25	45	1.8	45	1.8	25	25
				AO入試	15	29	1.9	29	1.9	15	15
				合計	110	290	2.6	193	1.8	116	108
			H29	前期	45	158	3.5	136	3.0	48	48
				後期	25	217	8.7	104	4.2	35	26
				推薦入試	25	52	2.1	52	2.1	25	25
				AO入試	15	40	2.7	40	2.7	15	15
				合計	110	467	4.2	332	3.0	123	114
			H30	前期	45	98	2.2	80	1.8	46	46
				後期	25	149	6.0	54	2.2	39	33
				推薦入試	25	56	2.2	56	2.2	25	25
				AO入試	15	43	2.9	43	2.9	15	15
				合計	110	346	3.1	233	2.1	125	119
名古屋大学[2)]	農学部	応用生命科学科	H26	前期	66	186	2.8	168	2.5	69	66
				推薦入試	14	67	4.8	67	4.8	15	15
			H27	前期	66	190	2.9	170	2.6	70	70
				推薦入試	14	67	4.8	67	4.8	16	16
			H28	前期	66	191	2.9	170	2.6	70	65
				推薦入試	14	59	4.2	59	4.2	15	15
			H29	前期	66	169	2.6	151	2.3	69	68
				推薦入試	14	43	3.1	22	1.6	15	15
			H30	前期	66	184	2.8	161	2.4	69	68
				推薦入試	14	33	2.4	21	1.5	15	15

1）平成28年度から学部再編が行われている。
2）留学生向け入試は含まない

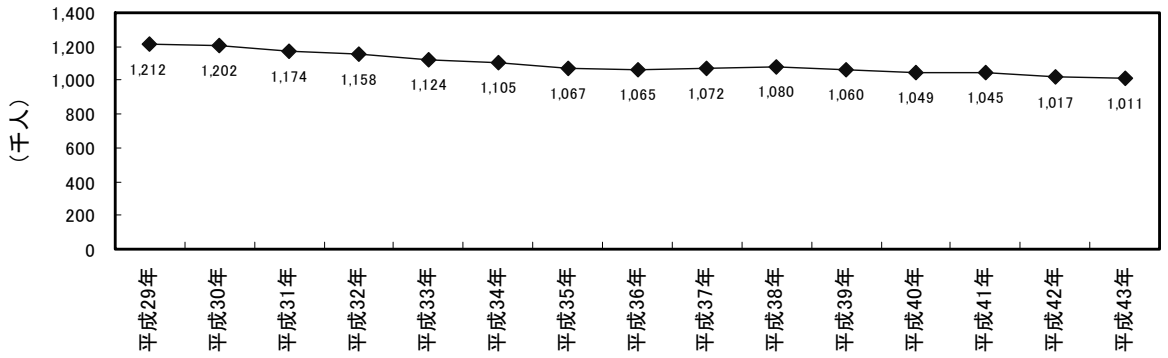
大学名	学部名	学科名	受験年度	日程等	募集人員	志願者数	志願倍率	受験者数	受験倍率	合格者数	入学者数
岐阜大学	応用生物化学部	生産環境学課程	H26	前期	50	135	2.7	131	2.6	55	52
				後期	10	86	8.6	41	4.1	14	11
				推薦入試	10	30	3.0	27	2.7	10	10
				合計	70	251	3.6	199	2.8	79	73
			H27	前期	50	120	2.4	110	2.2	55	54
				後期	10	82	8.2	28	2.8	15	12
				推薦入試	10	38	3.8	36	3.6	10	10
				合計	70	240	3.4	174	2.5	80	76
			H28	前期	50	120	2.4	110	2.2	55	54
				後期	10	82	8.2	28	2.8	15	12
				推薦入試	10	38	3.8	36	3.6	10	10
				合計	70	240	3.4	174	2.5	80	76
			H29	前期	50	132	2.6	117	2.3	55	52
				後期	10	71	7.1	21	2.1	14	10
				推薦入試	10	43	4.3	39	3.9	10	10
				合計	70	246	3.5	177	2.5	79	72
			H30	前期	50	121	2.4	106	2.1	53	52
				後期	10	75	7.5	31	3.1	10	7
				推薦入試	10	29	2.9	28	2.8	10	10
				合計	70	225	3.2	165	2.4	73	69
三重大学	生物資源学部	資源循環学科	H26	前期	30	73	2.4	65	2.2	39	39
				後期	10	107	10.7	43	4.3	13	12
				合計	40	180	4.5	108	2.7	52	51
			H27	前期	33	94	2.8	89	2.7	48	46
				後期	15	101	6.7	36	2.4	26	21
				合計	48	195	4.1	125	2.6	74	67
			H28	前期	33	69	2.1	62	1.9	34	31
				後期	15	98	6.5	29	1.9	35	24
				合計	48	167	3.5	91	1.9	69	55
			H29	前期	33	79	2.4	71	2.2	52	47
				後期	15	122	8.1	55	3.7	23	17
				合計	48	201	4.2	126	2.6	75	64
			H30	前期	33	127	3.8	114	3.5	46	42
				後期	15	170	11.3	79	5.3	25	19
				合計	48	297	6.2	193	4.0	71	61

【資料６】

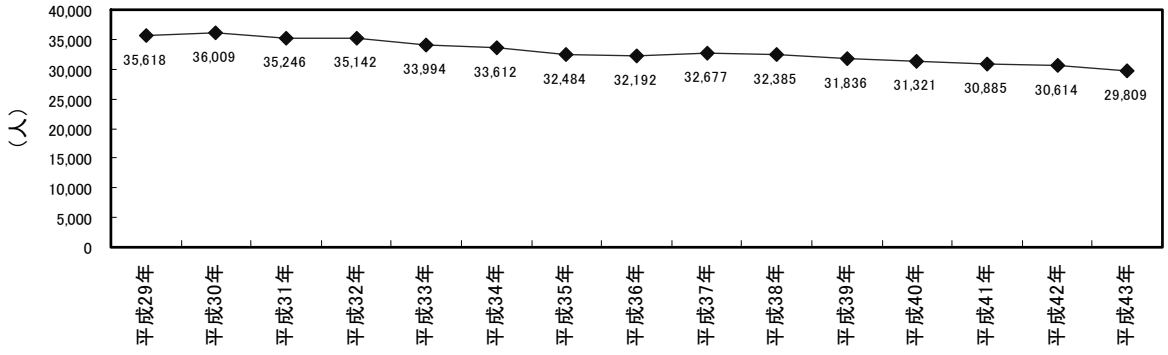
１８歳人口の推移

年	平成29年	平成30年	平成31年	平成32年	平成33年	平成34年	平成35年	平成36年
平成29年 年齢	18歳	17歳	16歳	15歳	14歳	13歳	12歳	11歳
全国（千人）	1,212	1,202	1,174	1,158	1,124	1,105	1,067	1,065
静岡県（人）	35,618	36,009	35,246	35,142	33,994	33,612	32,484	32,192

年	平成37年	平成38年	平成39年	平成40年	平成41年	平成42年	平成43年	減少率 (42/29)
平成29年 年齢	10歳	9歳	8歳	7歳	6歳	5歳	4歳	
全国（千人）	1,072	1,080	1,060	1,049	1,045	1,017	1,011	−16.6%
静岡県（人）	32,677	32,385	31,836	31,321	30,885	30,614	29,809	−16.3%



18歳人口の推移（全国）
（出典：総務省統計局「人口推計」）
※平成30年以降はデータより推計



18歳人口の推移（静岡県）
（出典：総務省統計局「人口推計」）
※平成30年以降はデータより推計

【資料7】

静岡県立農林環境専門職大学（仮称）及び
静岡県立農林環境専門職大学短期大学部（仮称）への
入学意向に関するアンケート調査報告

平成３０年１０月

一般財団法人　日本開発構想研究所

静岡県立農林環境専門職大学（仮称）及び
静岡県立農林環境専門職大学短期大学部（仮称）への入学意向に関する
アンケート調査報告

１．調査概要

（1）　調査目的

平成 32 年 4 月に予定している静岡県立農林環境専門職大学（仮称）及び静岡県立農林環境専門職大学短期大学部（仮称）の開設に向けて、静岡県立農林環境専門職大学（仮称）及び静岡県立農林環境専門職大学短期大学部（仮称）への入学意向を把握することを目的とする。

（2）　調査対象高校及び対象者

静岡県に加え近隣 6 県（静岡県、愛知県、神奈川県、山梨県、岐阜県、三重県）に所在する高等学校及び高等専修学校の在学者で平成 32 年度大学進学対象となる 2020 年 3 月卒業見込みの生徒（主に高校 2 年生）。

（3）　調査方法

静岡県に加え近隣県に所在する高等学校等 175 校へアンケート用紙及び静岡県立農林環境専門職大学（仮称）及び静岡県立農林環境専門職大学短期大学部（仮称）の概要を示したリーフレットを送付し、教室等で直接アンケート用紙に記入する方法により実施。回答用紙は一般財団法人日本開発構想研究所へ高校から直接郵送。

この結果、28,164 人から有効回答（有効回収率約 69.6%）があった。

集計結果より、静岡県立農林環境専門職大学（仮称）及び静岡県立農林環境専門職大学短期大学部（仮称）への入学意向を分析した。

（4）　調査実施期間

平成 30 年 7 月～平成 30 年 10 月

（5）　有効回収率等

調査対象者数：高等学校 175 校 40,410 人

有効回答者数：高等学校 161 校 28,164 人

有効回収率　：約 69.6%（有効回答者 28,164 人÷調査対象者 40,410 人）

※設置を構想している静岡県立農林環境専門職大学及び静岡県立農林環境専門職大学短期大学部は仮称であるが、本文中ではその旨の表示を省略した。

※静岡県立農林環境専門職大学及び静岡県立農林環境専門職大学短期大学部はそれぞれ単科であるため、学部名、学科名は省略した。

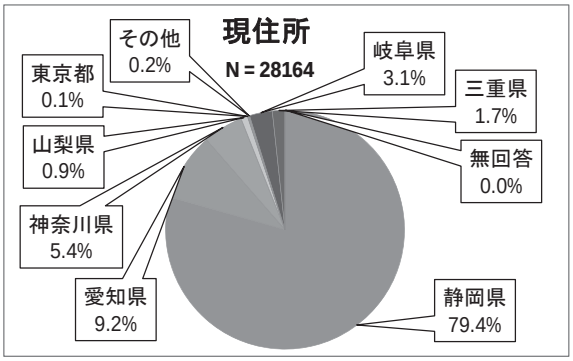
２．調査結果

（1）現住所について

現住所について調査した結果、高校２年生 28,164 人のうち、「静岡県」が 22,366 人（79.4%）と最も多く、次いで「愛知県」2,600 人（9.2%）、「神奈川県」1,512 人（5.4%）、「岐阜県」885 人（3.1%）、「三重県」475 人（1.7%）、「山梨県」245 人（0.9%）、「その他」45 人（0.2%）、「東京都」30 人（0.1%）の順になっている。　※「無回答」6 人（0.0%）

問3　現住所

№.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	静岡県	22,366	79.4
2	愛知県	2,600	9.2
3	神奈川県	1,512	5.4
4	山梨県	245	0.9
5	東京都	30	0.1
6	その他	45	0.2
7	岐阜県	885	3.1
8	三重県	475	1.7
	無回答	6	0.0
	N（%ﾍﾞｰｽ）	28,164	100

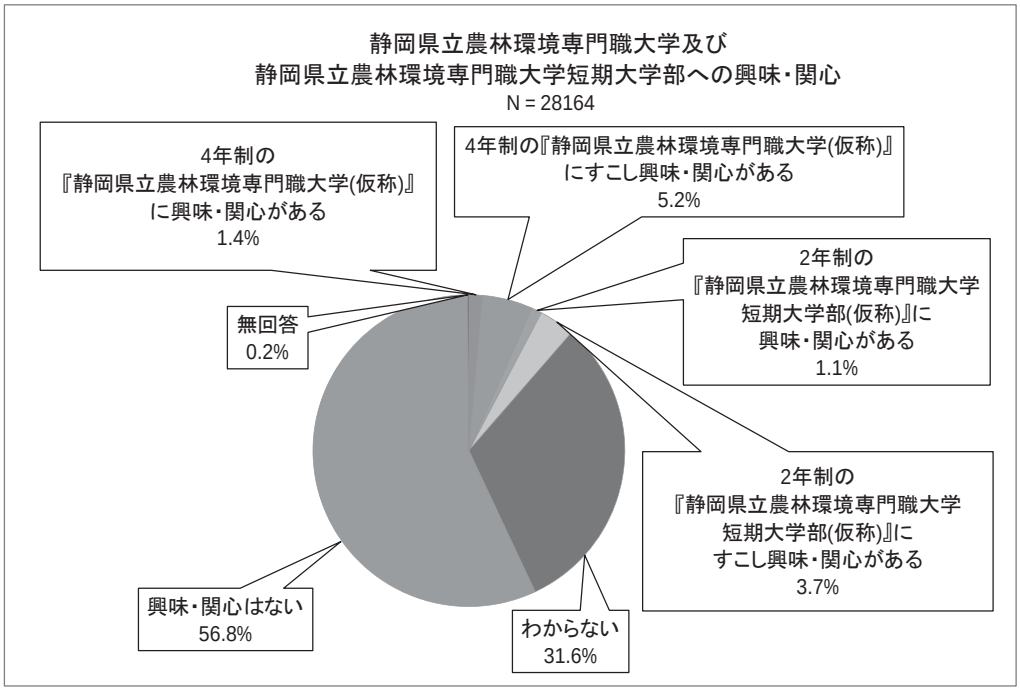


（2）静岡県立農林環境専門職大学及び静岡県立農林環境専門職大学短期大学部への興味・関心

静岡県立農林環境専門職大学及び静岡県立農林環境専門職大学短期大学部への興味・関心について調査した結果、高校 2 年生 28,164 人のうち、398 人（1.4%）が「4 年制の『静岡県立農林環境専門職大学(仮称)』に興味・関心がある」と回答しており、「4 年制の『静岡県立農林環境専門職大学(仮称)』にすこし興味・関心がある」が 1,475 人（5.2%）、「2 年制の『静岡県立農林環境専門職大学短期大学部(仮称)』に興味・関心がある」が 302 人（1.1%）、「2 年制の『静岡県立農林環境専門職大学短期大学部(仮称)』にすこし興味・関心がある」が 1,031（3.7%）、「わからない」が 8,909 人（31.6%）、「興味・関心はない」が 16,006 人（56.8%）の順になっている。　※「無回答」43 人（0.2%）

静岡県立農林環境専門職大学及び静岡県立農林環境専門職大学短期大学部への興味・関心

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	4年制の『静岡県立農林環境専門職大学(仮称)』に興味・関心がある	398	1.4
2	4年制の『静岡県立農林環境専門職大学(仮称)』にすこし興味・関心がある	1,475	5.2
3	2年制の『静岡県立農林環境専門職大学短期大学部(仮称)』に興味・関心がある	302	1.1
4	2年制の『静岡県立農林環境専門職大学短期大学部(仮称)』にすこし興味・関心がある	1,031	3.7
5	わからない	8,909	31.6
6	興味・関心はない	16,006	56.8
	無回答	43	0.2
	N（%ﾍﾞｰｽ）	28,164	100



（3）興味・関心の理由

3-1　4 年制　興味・関心の理由(第 1 位)について

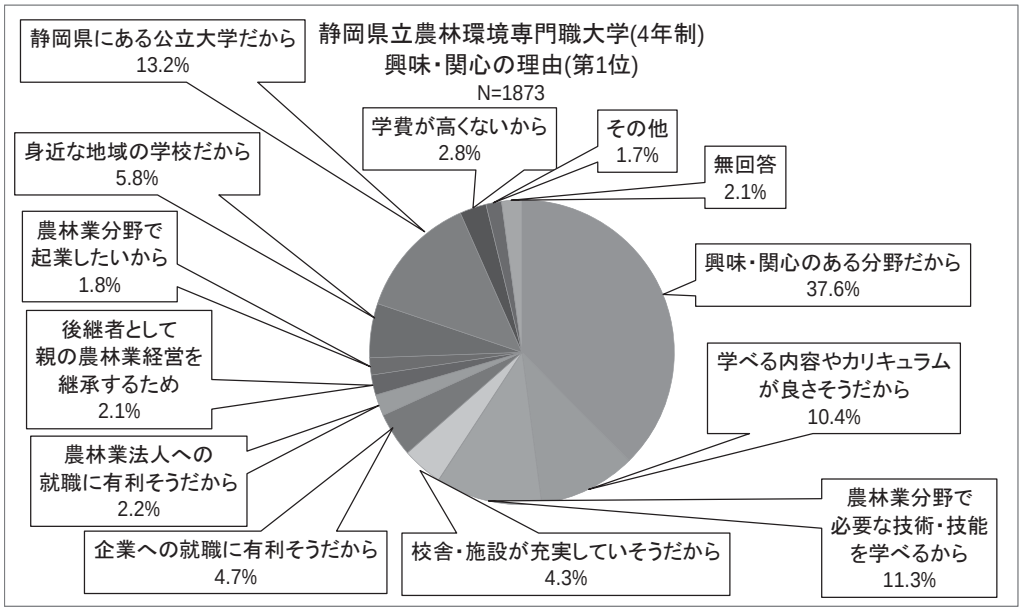
「(2) 静岡県立農林環境専門職大学及び静岡県立農林環境専門職大学短期大学部への興味・関心について」の回答者のうち、「4 年制の静岡県立農林環境専門職大学に興味・関心がある」、「4 年制の静岡県立農林環境専門職大学にすこし興味・関心がある」と回答した 1,873 人に、興味・関心の理由（第 1 位）について調査した。

その結果は、5.0%以上の割合を占めたものを挙げると、「興味・関心のある分野だから」が 704 人（37.6%）と最も多く、次いで「静岡県にある公立大学だから」247 人（13.2%)、「農林業分野で必要な技術・技能を学べるから」211 人（11.3%)、「学べる内容やカリキュラムが良さそうだから」194 人（10.4%)、「身近な地域の学校だから」108 人（5.8%）の順になっている。

※「無回答」40 人（2.1%）

静岡県立農林環境専門職大学(4年制) 興味・関心の理由(第1位)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	興味・関心のある分野だから	704	37.6
2	学べる内容やカリキュラムが良さそうだから	194	10.4
3	農林業分野で必要な技術・技能を学べるから	211	11.3
4	校舎・施設が充実していそうだから	81	4.3
5	企業への就職に有利そうだから	88	4.7
6	農林業法人への就職に有利そうだから	42	2.2
7	後継者として親の農林業経営を継承するため	40	2.1
8	農林業分野で起業したいから	34	1.8
9	身近な地域の学校だから	108	5.8
10	静岡県にある公立大学だから	247	13.2
11	学費が高くないから	53	2.8
12	その他	31	1.7
	無回答	40	2.1
	N（%ﾍﾞｰｽ）	1,873	100



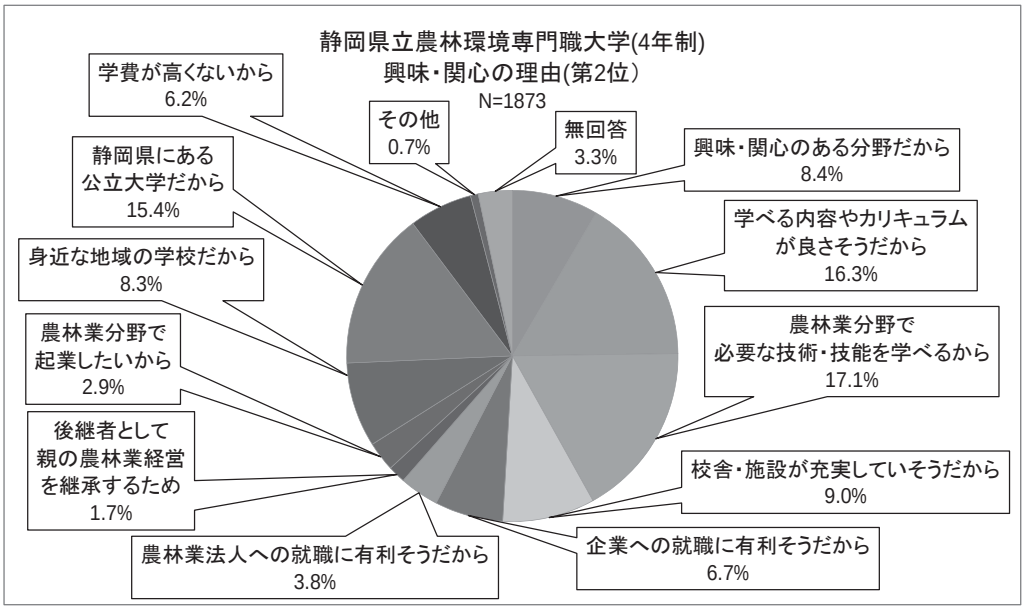
3-2　4 年制　興味・関心の理由(第 2 位)について

「(2) 静岡県立農林環境専門職大学及び静岡県立農林環境専門職大学短期大学部への興味・関心について」の回答者のうち、「4 年制の静岡県立農林環境専門職大学に興味・関心がある」、「4 年制の静岡県立農林環境専門職大学にすこし興味・関心がある」と回答した 1,873 人に、興味・関心の理由（第 2 位）について調査した。

その結果は、5.0%以上の割合を占めたものを挙げると、「農林業分野で必要な技術・技能を学べるから」が 321 人（17.1%）と最も多く、次いで「学べる内容やカリキュラムが良さそうだから」306 人（16.3%)、「静岡県にある公立大学だから」289 人（15.4%)、「校舎・施設が充実していそうだから」169 人（9.0%)、「興味・関心のある分野だから」158 人（8.4%)、「身近な地域の学校だから」155 人（8.3%)、「企業への就職に有利そうだから」125 人（6.7%)、「学費が高くないから」116 人（6.2%）の順になっている。　※「無回答」62 人（3.3%）

静岡県立農林環境専門職大学(4年制) 興味・関心の理由(第2位)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	興味・関心のある分野だから	158	8.4
2	学べる内容やカリキュラムが良さそうだから	306	16.3
3	農林業分野で必要な技術・技能を学べるから	321	17.1
4	校舎・施設が充実していそうだから	169	9.0
5	企業への就職に有利そうだから	125	6.7
6	農林業法人への就職に有利そうだから	72	3.8
7	後継者として親の農林業経営を継承するため	32	1.7
8	農林業分野で起業したいから	54	2.9
9	身近な地域の学校だから	155	8.3
10	静岡県にある公立大学だから	289	15.4
11	学費が高くないから	116	6.2
12	その他	14	0.7
	無回答	62	3.3
	N（%ベース）	1,873	100



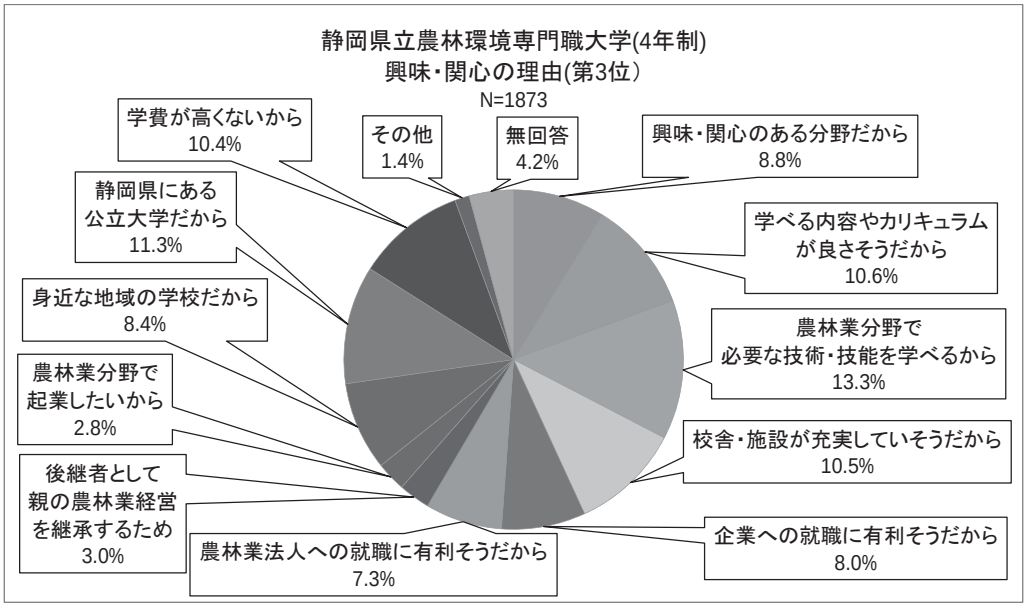
3-3　4 年制　興味・関心の理由(第 3 位)について

「(2) 静岡県立農林環境専門職大学及び静岡県立農林環境専門職大学短期大学部への興味・関心について」の回答者のうち、「4 年制の静岡県立農林環境専門職大学に興味・関心がある」、「4 年制の静岡県立農林環境専門職大学にすこし興味・関心がある」と回答した 1,873 人に、興味・関心の理由（第 3 位）について調査した。

その結果は、5.0%以上の割合を占めたものを挙げると、「農林業分野で必要な技術・技能を学べるから」が 249 人（13.3%）と最も多く、次いで「静岡県にある公立大学だから」211 人（11.3%)、「学べる内容やカリキュラムが良さそうだから」198 人（10.6%)、「校舎・施設が充実していそうだから」197 人（10.5%)、「学費が高くないから」195 人（10.4%)、「興味・関心のある分野だから」164 人（8.8%)、「身近な地域の学校だから」158 人（8.4%)、「企業への就職に有利そうだから」150 人（8.0%)、「農林業法人への就職に有利そうだから」137 人（7.3%）の順になっている。　※「無回答」79 人（4.2%）

静岡県立農林環境専門職大学(4年制) 興味・関心の理由(第3位)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	興味・関心のある分野だから	164	8.8
2	学べる内容やカリキュラムが良さそうだから	198	10.6
3	農林業分野で必要な技術・技能を学べるから	249	13.3
4	校舎・施設が充実していそうだから	197	10.5
5	企業への就職に有利そうだから	150	8.0
6	農林業法人への就職に有利そうだから	137	7.3
7	後継者として親の農林業経営を継承するため	56	3.0
8	農林業分野で起業したいから	53	2.8
9	身近な地域の学校だから	158	8.4
10	静岡県にある公立大学だから	211	11.3
11	学費が高くないから	195	10.4
12	その他	26	1.4
	無回答	79	4.2
	N（%ベース）	1,873	100



（4）興味のある分野について

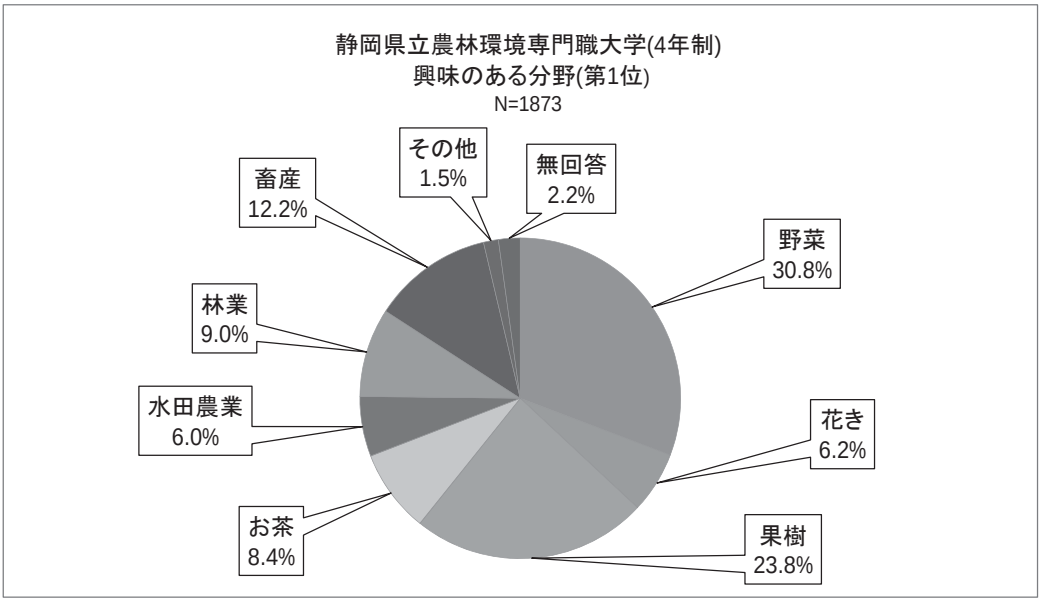
4-1　興味のある生産分野（第 1 位）について

「（2）静岡県立農林環境専門職大学及び静岡県立農林環境専門職大学短期大学部への興味・関心について」の回答者のうち、「4 年制の静岡県立農林環境専門職大学に興味・関心がある」、「4 年制の静岡県立農林環境専門職大学にすこし興味・関心がある」と回答した 1,873 人に、興味のある生産分野（第 1 位）について調査した。

その結果は、「野菜」が 576 人（30.8%）と最も多く、次いで「果樹」446 人（23.8%）、「畜産」228 人（12.2%）、「林業」168 人（9.0%）、「お茶」157 人（8.4%）、「花き」116 人（6.2%）、「水田農業」113 人（6.0%）、「その他」28 人（1.5%）の順になっている。　※「無回答」41 人（2.2%）

静岡県立農林環境専門職大学(4年制) 興味のある分野(第1位)

No.		件数	(全体)%
1	野菜	576	30.8
2	花き	116	6.2
3	果樹	446	23.8
4	お茶	157	8.4
5	水田農業	113	6.0
6	林業	168	9.0
7	畜産	228	12.2
8	その他	28	1.5
	無回答	41	2.2
	N（%ﾍﾞｰｽ）	1,873	100



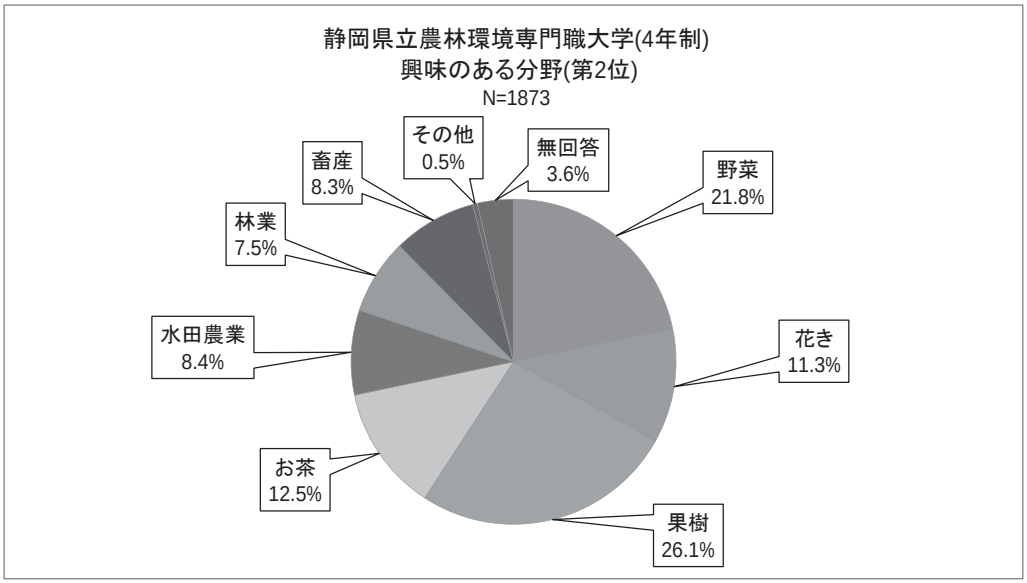
4-2　興味のある生産分野（第 2 位）について

「(2) 静岡県立農林環境専門職大学及び静岡県立農林環境専門職大学短期大学部への興味・関心について」の回答者のうち、「4 年制の静岡県立農林環境専門職大学に興味・関心がある」、「4 年制の静岡県立農林環境専門職大学にすこし興味・関心がある」と回答した 1,873 人に、興味のある生産分野（第 2 位）について調査した。

その結果は、「果樹」が 489 人（26.1%）と最も多く、次いで「野菜」408 人（21.8%)、「お茶」234（12.5%)、「花き」212 人（11.3%)、「水田農業」158 人（8.4%)、「畜産」156 人（8.3%)、「林業」140 人（7.5%)、「その他」9 人（0.5%）の順になっている。　※「無回答」67 人（3.6%）

静岡県立農林環境専門職大学(4年制) 興味のある分野(第2位)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	野菜	408	21.8
2	花き	212	11.3
3	果樹	489	26.1
4	お茶	234	12.5
5	水田農業	158	8.4
6	林業	140	7.5
7	畜産	156	8.3
8	その他	9	0.5
	無回答	67	3.6
	N（%ﾍﾞｰｽ）	1,873	100



（5）4 年制の静岡県立農林環境専門職大学への受験意向について

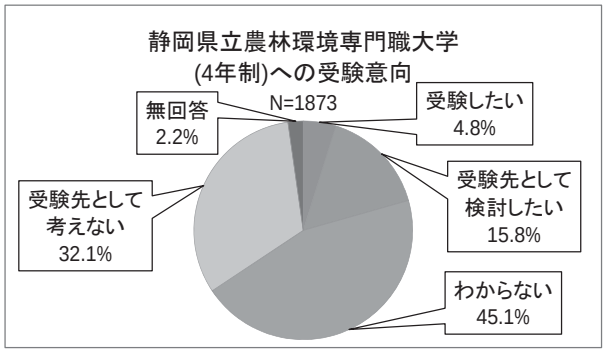
「（2）静岡県立農林環境専門職大学及び静岡県立農林環境専門職大学短期大学部への興味・関心について」の回答者のうち、「4 年制の静岡県立農林環境専門職大学に興味・関心がある」、「4 年制の静岡県立農林環境専門職大学にすこし興味・関心がある」と回答した 1,873 人に静岡県立農林環境専門職大学への受験意向について調査した。

その結果は、「受験したい」90 人（4.8%）、「受験先として検討したい」296 人（15.8%）の合計 386 人（20.6%）が 4 年制の静岡県立農林環境専門職大学への受験意向を示している。

※「無回答」42 人（2.2%）

静岡県立農林環境専門職大学(4年制)への受験意向

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	受験したい	90	4.8
2	受験先として検討したい	296	15.8
3	わからない	844	45.1
4	受験先として考えない	601	32.1
	無回答	42	2.2
	N（%ﾍﾞｰｽ）	1,873	100



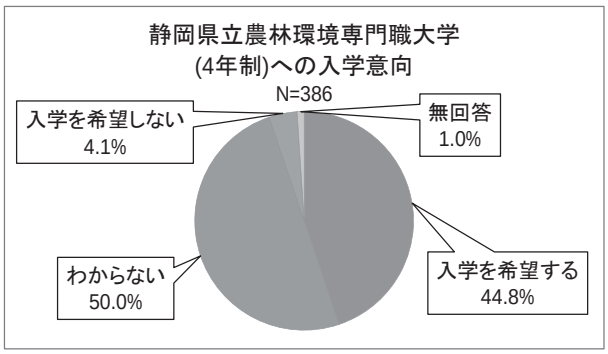
（6）4 年制の静岡県立農林環境専門職大学への入学意向について

「（5）4 年制の静岡県立農林環境専門職大学への受験意向について」の回答者のうち、「受験したい」「受験先として検討したい」と回答した 386 人に、4 年制の静岡県立農林環境専門職大学を受験し、合格した場合の入学意向について調査した。

その結果は、「入学を希望する」が 173 人（44.8%）、「わからない」が 193 人（50.0%）、「入学を希望しない」が 16 人（4.1%）となり、173 人（44.8%）が 4 年制の静岡県立農林環境専門職大学への入学意向を示している。　※「無回答」4 人（1.0%）

静岡県立農林環境専門職大学(4年制)への入学意向

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	入学を希望する	173	44.8
2	わからない	193	50.0
3	入学を希望しない	16	4.1
	無回答	4	1.0
	N（%ﾍﾞｰｽ）	386	100



（7）興味・関心の理由

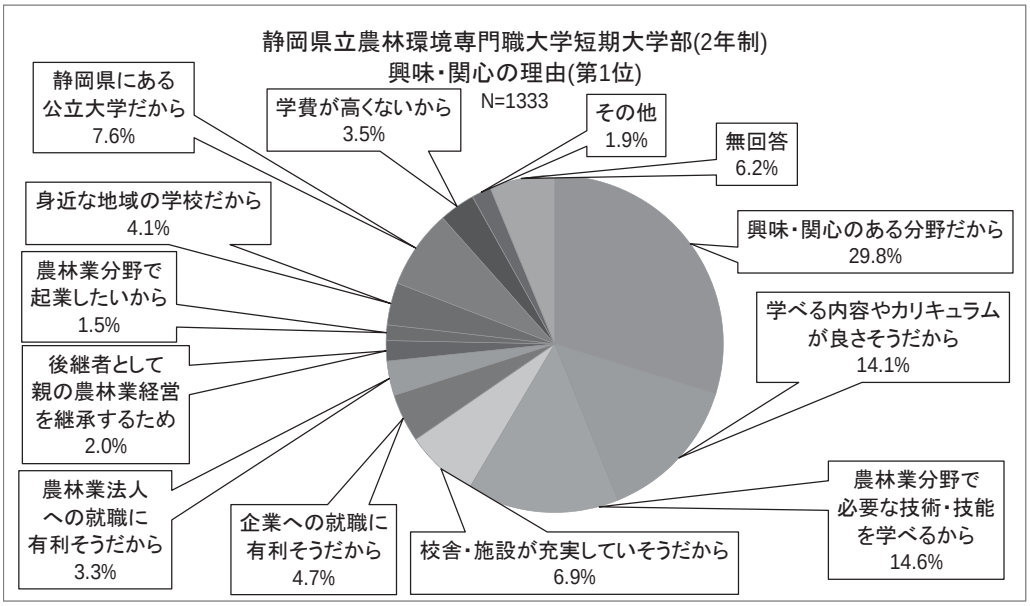
7-1　2 年制　興味・関心の理由(第 1 位)について

「(2) 静岡県立農林環境専門職大学及び静岡県立農林環境専門職大学短期大学部への興味・関心について」の回答者のうち、「2 年制の静岡県立農林環境専門職大学短期大学部に興味・関心がある」、「2 年制の静岡県立農林環境専門職大学短期大学部にすこし興味・関心がある」と回答した 1,333 人に、興味・関心の理由（第 1 位）について調査した。

その結果は、5.0%以上の割合を占めたものを挙げると、「興味・関心のある分野だから」が 397 人（29.8%）と最も多く、次いで「農林業分野で必要な技術・技能を学べるから」195 人（14.6%)、「学べる内容やカリキュラムが良さそうだから」188 人（14.1%)、「静岡県にある公立大学だから」101 人（7.6%)、「校舎・施設が充実していそうだから」92 人（6.9%）の順になっている。　※「無回答」83 人（6.2%）

静岡県立農林環境専門職大学短期大学部(2年制) 興味・関心の理由(第1位)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	興味・関心のある分野だから	397	29.8
2	学べる内容やカリキュラムが良さそうだから	188	14.1
3	農林業分野で必要な技術・技能を学べるから	195	14.6
4	校舎・施設が充実していそうだから	92	6.9
5	企業への就職に有利そうだから	62	4.7
6	農林業法人への就職に有利そうだから	44	3.3
7	後継者として親の農林業経営を継承するため	26	2.0
8	農林業分野で起業したいから	20	1.5
9	身近な地域の学校だから	54	4.1
10	静岡県にある公立大学だから	101	7.6
11	学費が高くないから	46	3.5
12	その他	25	1.9
	無回答	83	6.2
	N（%ﾍﾞｰｽ）	1,333	100



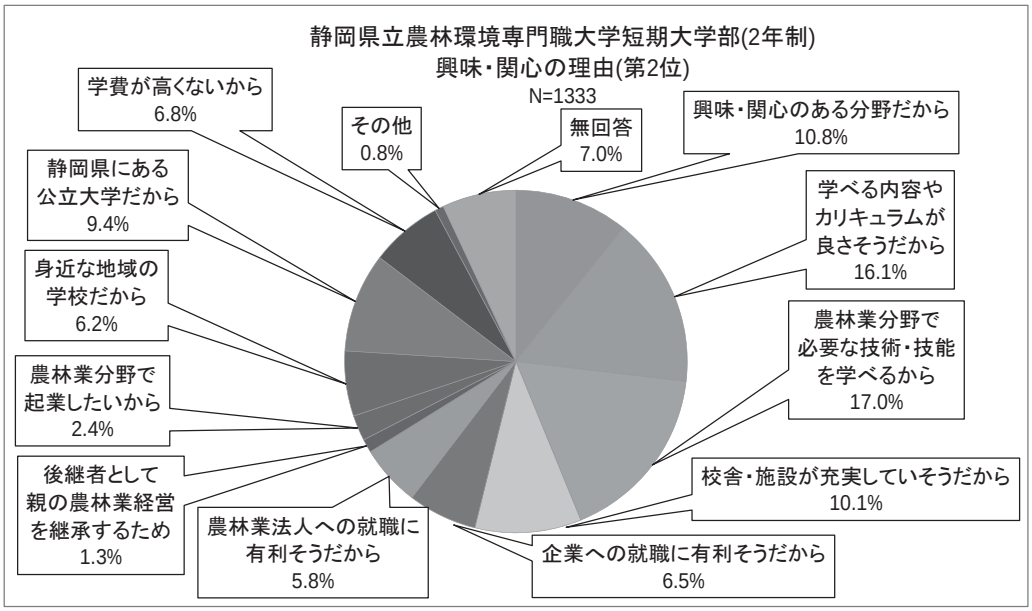
7-2　2 年制　興味・関心の理由(第 2 位)について

「(2) 静岡県立農林環境専門職大学及び静岡県立農林環境専門職大学短期大学部への興味・関心について」の回答者のうち、「2 年制の静岡県立農林環境専門職大学短期大学部に興味・関心がある」、「2 年制の静岡県立農林環境専門職大学短期大学部にすこし興味・関心がある」と回答した 1,333 人に、興味・関心の理由（第 2 位）について調査した。

その結果は、5.0%以上の割合を占めたものを挙げると、「農林業分野で必要な技術・技能を学べるから」が 226 人（17.0%）と最も多く、次いで「学べる内容やカリキュラムが良さそうだから」214 人（16.1%）、「興味・関心のある分野だから」144 人（10.8%）、「校舎・施設が充実していそうだから」134 人（10.1%）、「静岡県にある公立大学だから」125 人（9.4%）、「学費が高くないから」91 人（6.8%）、「企業への就職に有利そうだから」87 人（6.5%）、「身近な地域の学校だから」82 人（6.2%）、「農林業法人への就職に有利そうだから」77 人（5.8%）の順になっている。　※「無回答」93 人（7.0%）

静岡県立農林環境専門職大学短期大学部(2年制) 興味・関心の理由(第2位)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	興味・関心のある分野だから	144	10.8
2	学べる内容やカリキュラムが良さそうだから	214	16.1
3	農林業分野で必要な技術・技能を学べるから	226	17.0
4	校舎・施設が充実していそうだから	134	10.1
5	企業への就職に有利そうだから	87	6.5
6	農林業法人への就職に有利そうだから	77	5.8
7	後継者として親の農林業経営を継承するため	17	1.3
8	農林業分野で起業したいから	32	2.4
9	身近な地域の学校だから	82	6.2
10	静岡県にある公立大学だから	125	9.4
11	学費が高くないから	91	6.8
12	その他	11	0.8
	無回答	93	7.0
	N（%ﾍﾞｰｽ）	1,333	100



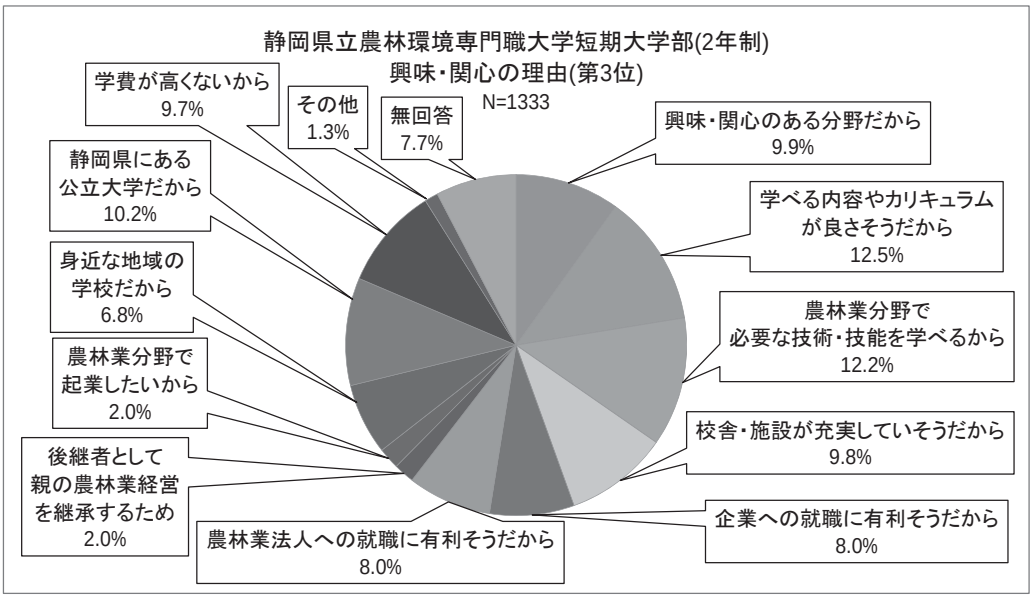
7-3　2 年制　興味・関心の理由(第 3 位)について

「(2) 静岡県立農林環境専門職大学及び静岡県立農林環境専門職大学短期大学部への興味・関心について」の回答者のうち、「2 年制の静岡県立農林環境専門職大学短期大学部に興味・関心がある」、「2 年制の静岡県立農林環境専門職大学短期大学部にすこし興味・関心がある」と回答した 1,333 人に、興味・関心の理由（第 3 位）について調査した。

その結果は、5.0%以上の割合を占めたものを挙げると、「学べる内容やカリキュラムが良さそうだから」167 人（12.5%）と最も多く、次いで「農林業分野で必要な技術・技能を学べるから」163 人（12.2%)、「静岡県にある公立大学だから」136 人（10.2%)、「興味・関心のある分野だから」132 人（9.9%)、「校舎・施設が充実していそうだから」131 人（9.8%)、「学費が高くないから」129 人（9.7%)、「企業への就職に有利そうだから」107 人（8.0%)、「農林業法人への就職に有利そうだから」106 人（8.0%)、「身近な地域の学校だから」90 人（6.8%）の順になっている。　※「無回答」102 人（7.7%）

静岡県立農林環境専門職大学短期大学部(2年制) 興味・関心の理由(第3位)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	興味・関心のある分野だから	132	9.9
2	学べる内容やカリキュラムが良さそうだから	167	12.5
3	農林業分野で必要な技術・技能を学べるから	163	12.2
4	校舎・施設が充実していそうだから	131	9.8
5	企業への就職に有利そうだから	107	8.0
6	農林業法人への就職に有利そうだから	106	8.0
7	後継者として親の農林業経営を継承するため	26	2.0
8	農林業分野で起業したいから	27	2.0
9	身近な地域の学校だから	90	6.8
10	静岡県にある公立大学だから	136	10.2
11	学費が高くないから	129	9.7
12	その他	17	1.3
	無回答	102	7.7
	N（%ﾍﾞｰｽ）	1,333	100



（8）興味のある分野について

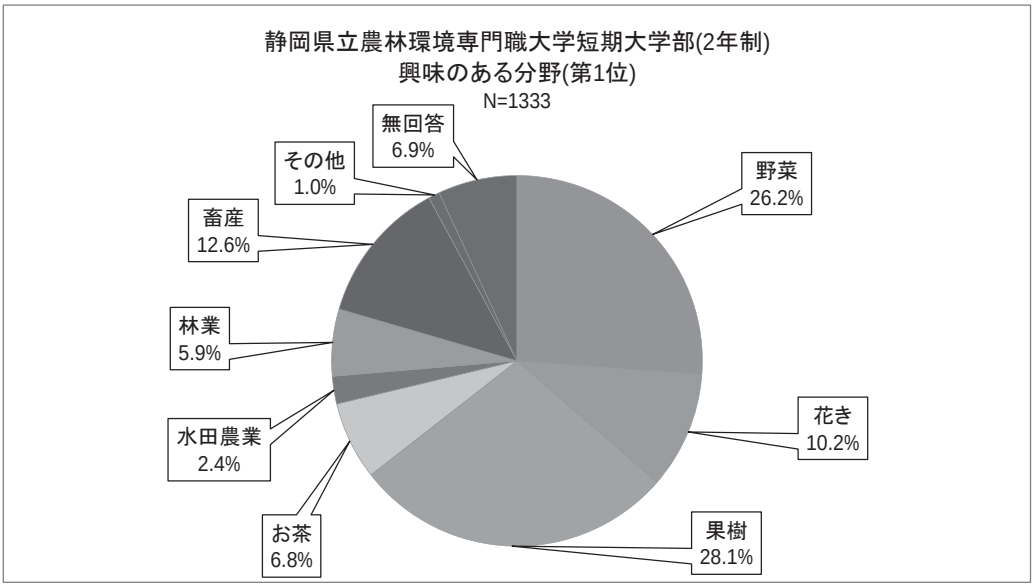
8-1　興味のある生産分野（第 1 位）について

「(2) 静岡県立農林環境専門職大学及び静岡県立農林環境専門職大学短期大学部への興味・関心について」の回答者のうち、「2 年制の静岡県立農林環境専門職大学短期大学部に興味・関心がある」、「2 年制の静岡県立農林環境専門職大学短期大学部にすこし興味・関心がある」と回答した 1,333 人に、興味のある生産分野（第 1 位）について調査した。

その結果は、「果樹」が 374 人（28.1%）と最も多く、次いで「野菜」349 人（26.2%)、「畜産」168 人（12.6%)、「花き」136 人（10.2%)、「お茶」91 人（6.8%)、「林業」78 人（5.9%)、「水田農業」32 人（2.4%)、「その他」13 人（1.0%）の順になっている。　※「無回答」92 人（6.9%）

静岡県立農林環境専門職大学短期大学部(2年制)
興味のある分野(第1位)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	野菜	349	26.2
2	花き	136	10.2
3	果樹	374	28.1
4	お茶	91	6.8
5	水田農業	32	2.4
6	林業	78	5.9
7	畜産	168	12.6
8	その他	13	1.0
	無回答	92	6.9
	N（%ベース）	1,333	100



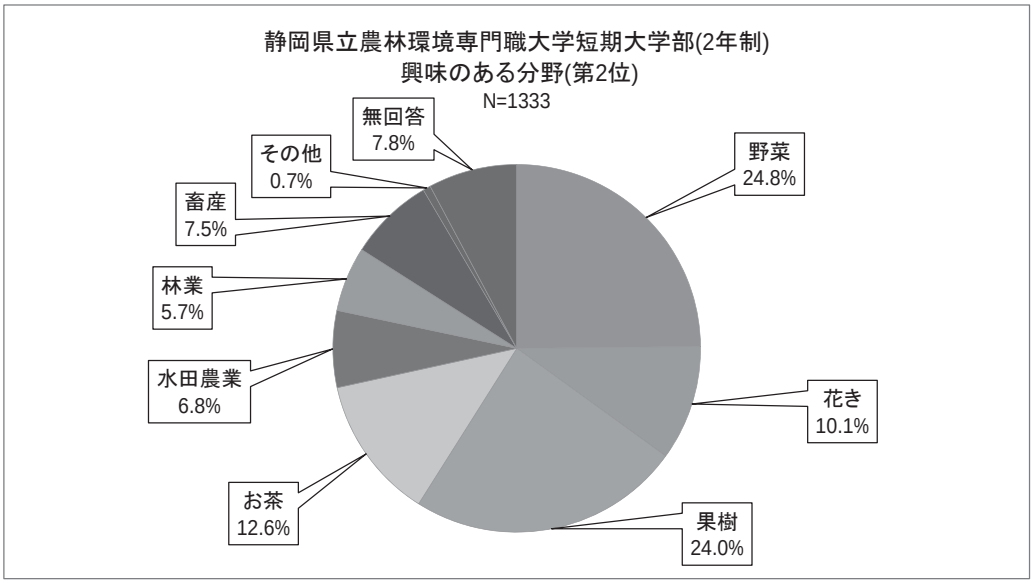
8-2　興味のある生産分野（第 2 位）について

「(2) 静岡県立農林環境専門職大学及び静岡県立農林環境専門職大学短期大学部への興味・関心について」の回答者のうち、「2 年制の静岡県立農林環境専門職大学短期大学部に興味・関心がある」、「2 年制の静岡県立農林環境専門職大学短期大学部にすこし興味・関心がある」と回答した 1,333 人に、興味のある生産分野（第 2 位）について調査した。

その結果は、「野菜」が 331 人（24.8%）と最も多く、次いで「果樹」320 人（24.0%)、「お茶」168 人（12.6%)、「花き」135 人（10.1%)、「畜産」100 人（7.5%)、「水田農業」90 人（6.8%)、「林業」76 人（5.7%)、「その他」9 人（0.7%）の順になっている。　※「無回答」104 人（7.8%）

静岡県立農林環境専門職大学短期大学部(2年制)
興味のある分野(第2位)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	野菜	331	24.8
2	花き	135	10.1
3	果樹	320	24.0
4	お茶	168	12.6
5	水田農業	90	6.8
6	林業	76	5.7
7	畜産	100	7.5
8	その他	9	0.7
	無回答	104	7.8
	N（%ベース）	1,333	100



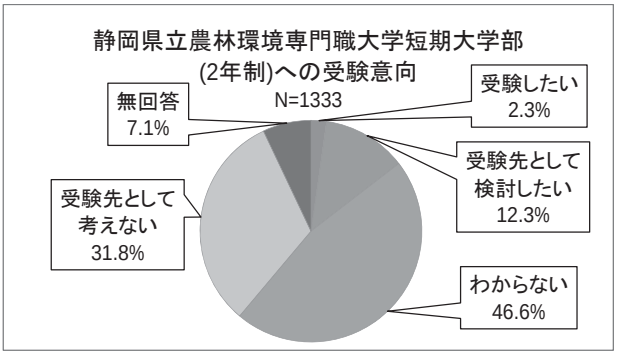
（9）2 年制の静岡県立農林環境専門職大学短期大学部への受験意向について

「(2) 静岡県立農林環境専門職大学及び静岡県立農林環境専門職大学短期大学部への興味・関心について」の回答者のうち、「2 年制の静岡県立農林環境専門職大学短期大学部に興味・関心がある」、「2 年制の静岡県立農林環境専門職大学短期大学部にすこし興味・関心がある」と回答した 1,333 人に 2 年制の静岡県立農林環境専門職大学短期大学部への受験意向について調査した。

その結果は、「受験したい」30 人（2.3%）、「受験先として検討したい」164 人（12.3%）の合計 194 人（14.6%）が 2 年制の静岡県立農林環境専門職大学短期大学部への受験意向を示している。　※無回答 94 人（7.1%）

静岡県立農林環境専門職大学短期大学部(2年制)への受験意向

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	受験したい	30	2.3
2	受験先として検討したい	164	12.3
3	わからない	621	46.6
4	受験先として考えない	424	31.8
	無回答	94	7.1
	N（%ベース）	1,333	100



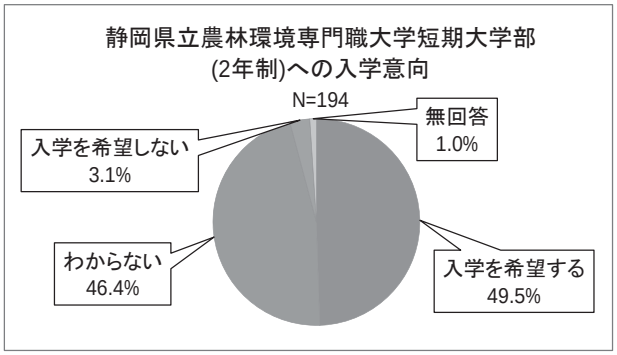
（10）2 年制の静岡県立農林環境専門職大学短期大学部への入学意向について

「(9) 2 年制の静岡県立農林環境専門職大学短期大学部への受験意向について」の回答者のうち、「受験したい」30 人（2.3%）、「受験先として検討したい」164 人（12.3%）と回答した 194 人に、2 年制の静岡県立農林環境専門職大学短期大学部を受験し、合格した場合の入学意向について調査した。

その結果は、「入学を希望する」96 人（49.5%）、「わからない」90 人（46.4%）、「入学を希望しない」6 人（3.1%）となり、96 人（49.5%）が 2 年制の静岡県立農林環境専門職大学短期大学部への入学意向を示している。　※無回答 2 人（1.0%）

静岡県立農林環境専門職大学短期大学部(2年制)への入学意向

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	入学を希望する	96	49.5
2	わからない	90	46.4
3	入学を希望しない	6	3.1
	無回答	2	1.0
	N（%ベース）	194	100



３．調査結果のまとめ

（1）静岡県立農林環境専門職大学への入学意向について

「(6) 4 年制の静岡県立農林環境専門職大学への入学意向について」にて、173 人が入学意向を示している。

これは静岡県立農林環境専門職大学の入学定員 24 人に対し、約 7.2 倍の入学意向を示している。

静岡県立農林環境専門職大学(4年制)への入学意向

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	入学を希望する	173	44.8
2	わからない	193	50.0
3	入学を希望しない	16	4.1
	無回答	4	1.0
	N（%ﾍﾞｰｽ）	386	100

（2）静岡県立農林環境専門職大学短期大学部への入学意向について

「(10) 2 年制の静岡県立農林環境専門職大学短期大学部への入学意向について」にて、96 人が入学意向を示している。

これは静岡県立農林環境専門職大学短期大学部の入学定員 100 人に対し、0.96 倍の入学意向を示している。

静岡県立農林環境専門職大学短期大学部(2年制)への入学意向

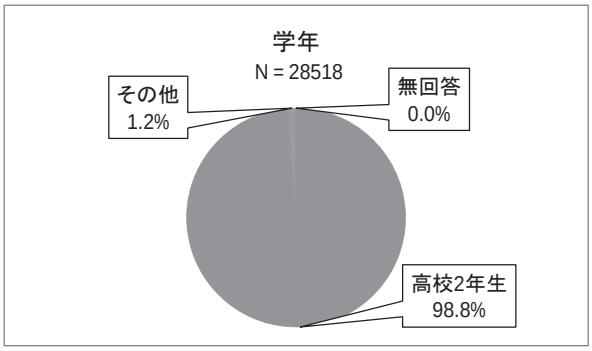
No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	入学を希望する	96	49.5
2	わからない	90	46.4
3	入学を希望しない	6	3.1
	無回答	2	1.0
	N（%ﾍﾞｰｽ）	194	100

以上の調査結果と、調査対象の高等学校等以外からの高校生の進学も考えられることから、静岡県立農林環境専門職大学及び静岡県立農林環境専門職大学短期大学部の入学定員を満たす学生は確保できるものと考える。

単純集計表

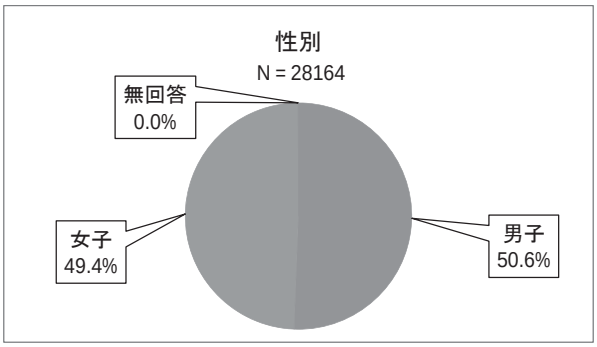
学年

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	高校2年生	28,164	98.8
2	その他	348	1.2
	無回答	6	0.0
	N（%ﾍﾞｰｽ）	28,518	100



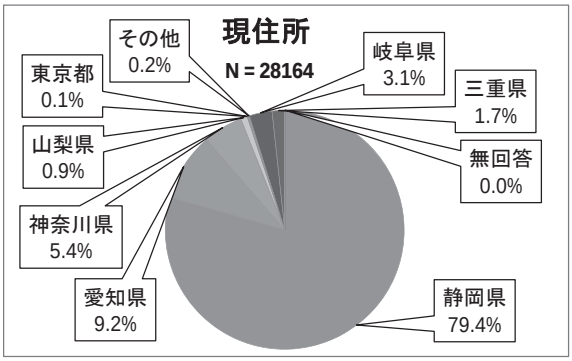
性別

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	男子	14,256	50.6
2	女子	13,899	49.4
	無回答	9	0.0
	N（%ﾍﾞｰｽ）	28,164	100



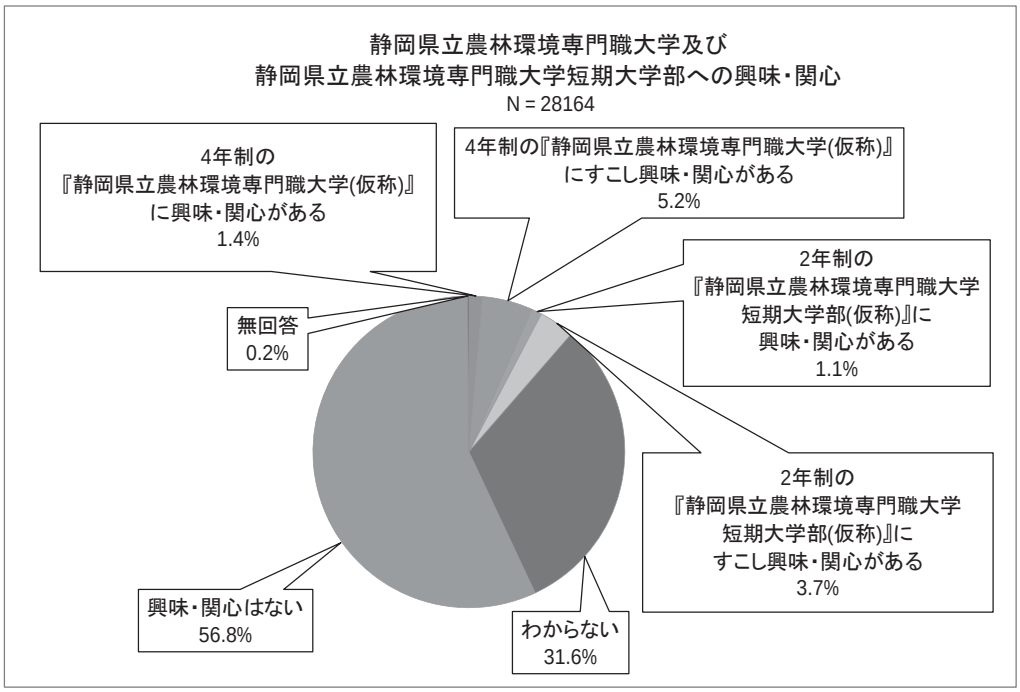
問3　現住所

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	静岡県	22,366	79.4
2	愛知県	2,600	9.2
3	神奈川県	1,512	5.4
4	山梨県	245	0.9
5	東京都	30	0.1
6	その他	45	0.2
7	岐阜県	885	3.1
8	三重県	475	1.7
	無回答	6	0.0
	N（%ﾍﾞｰｽ）	28,164	100



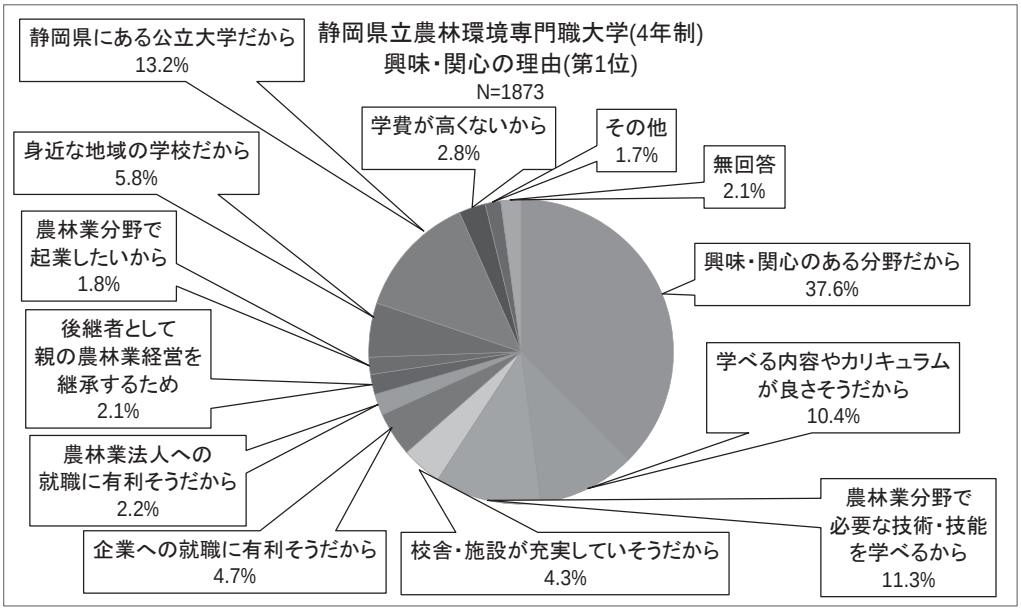
静岡県立農林環境専門職大学及び静岡県立農林環境専門職大学短期大学部への興味・関心

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	4年制の『静岡県立農林環境専門職大学(仮称)』に興味・関心がある	398	1.4
2	4年制の『静岡県立農林環境専門職大学(仮称)』にすこし興味・関心がある	1,475	5.2
3	2年制の『静岡県立農林環境専門職大学短期大学部(仮称)』に興味・関心がある	302	1.1
4	2年制の『静岡県立農林環境専門職大学短期大学部(仮称)』にすこし興味・関心がある	1,031	3.7
5	わからない	8,909	31.6
6	興味・関心はない	16,006	56.8
	無回答	43	0.2
	N（%ベース）	28,164	100



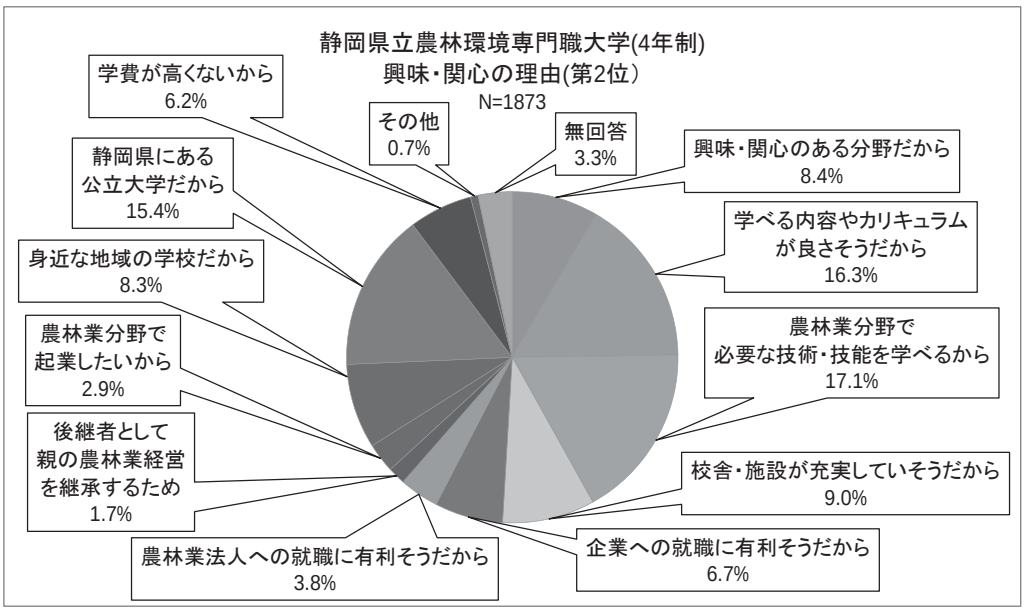
静岡県立農林環境専門職大学(4年制) 興味・関心の理由(第1位)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	興味・関心のある分野だから	704	37.6
2	学べる内容やカリキュラムが良さそうだから	194	10.4
3	農林業分野で必要な技術・技能を学べるから	211	11.3
4	校舎・施設が充実していそうだから	81	4.3
5	企業への就職に有利そうだから	88	4.7
6	農林業法人への就職に有利そうだから	42	2.2
7	後継者として親の農林業経営を継承するため	40	2.1
8	農林業分野で起業したいから	34	1.8
9	身近な地域の学校だから	108	5.8
10	静岡県にある公立大学だから	247	13.2
11	学費が高くないから	53	2.8
12	その他	31	1.7
	無回答	40	2.1
	N（%ベース）	1,873	100



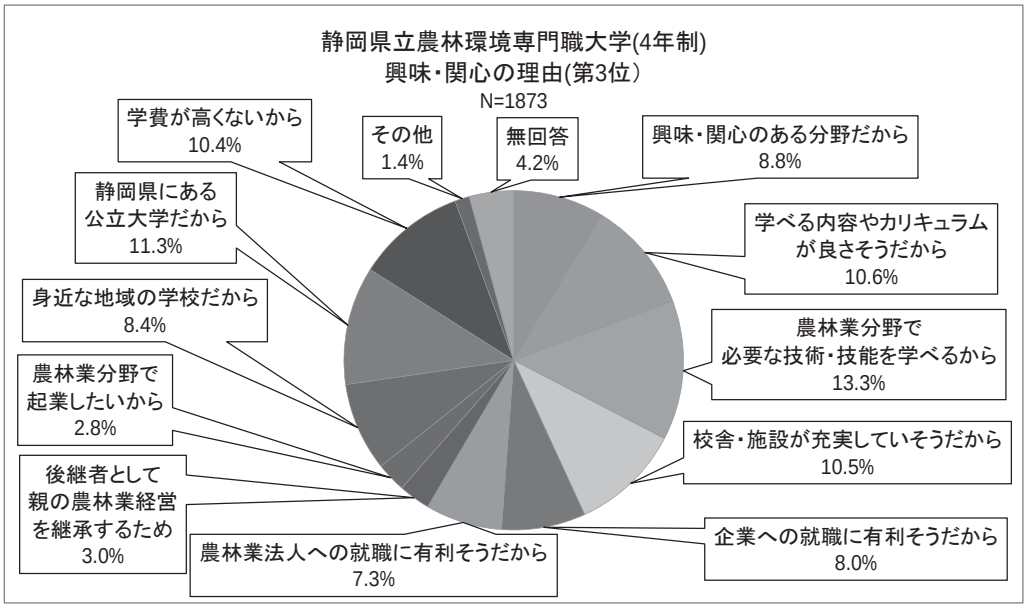
静岡県立農林環境専門職大学(4年制) 興味・関心の理由(第2位)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	興味・関心のある分野だから	158	8.4
2	学べる内容やカリキュラムが良さそうだから	306	16.3
3	農林業分野で必要な技術・技能を学べるから	321	17.1
4	校舎・施設が充実していそうだから	169	9.0
5	企業への就職に有利そうだから	125	6.7
6	農林業法人への就職に有利そうだから	72	3.8
7	後継者として親の農林業経営を継承するため	32	1.7
8	農林業分野で起業したいから	54	2.9
9	身近な地域の学校だから	155	8.3
10	静岡県にある公立大学だから	289	15.4
11	学費が高くないから	116	6.2
12	その他	14	0.7
	無回答	62	3.3
	N (%ベース)	1,873	100



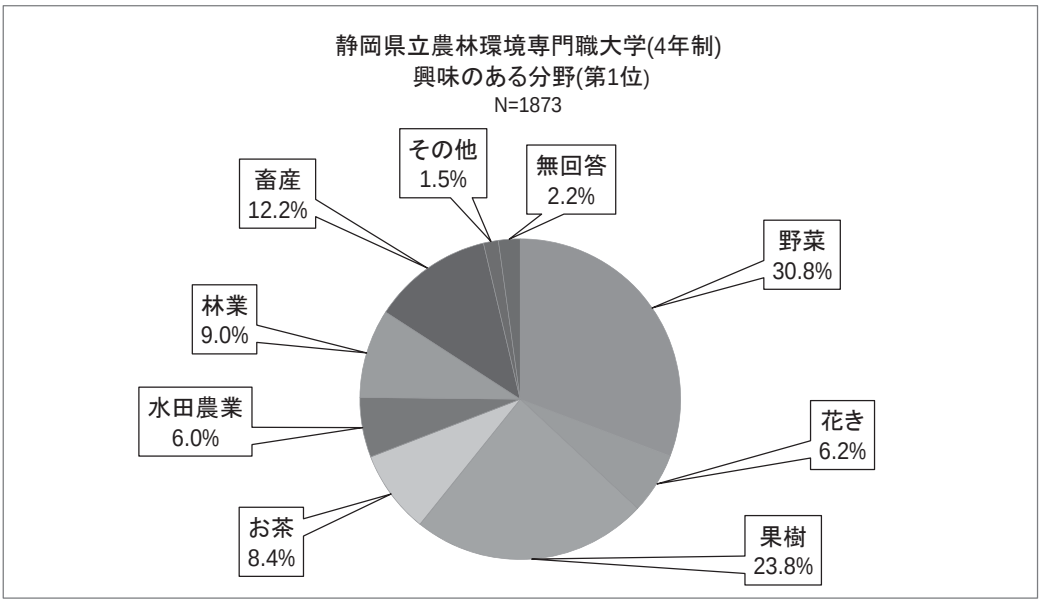
静岡県立農林環境専門職大学(4年制) 興味・関心の理由(第3位)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	興味・関心のある分野だから	164	8.8
2	学べる内容やカリキュラムが良さそうだから	198	10.6
3	農林業分野で必要な技術・技能を学べるから	249	13.3
4	校舎・施設が充実していそうだから	197	10.5
5	企業への就職に有利そうだから	150	8.0
6	農林業法人への就職に有利そうだから	137	7.3
7	後継者として親の農林業経営を継承するため	56	3.0
8	農林業分野で起業したいから	53	2.8
9	身近な地域の学校だから	158	8.4
10	静岡県にある公立大学だから	211	11.3
11	学費が高くないから	195	10.4
12	その他	26	1.4
	無回答	79	4.2
	N（%ベース）	1,873	100



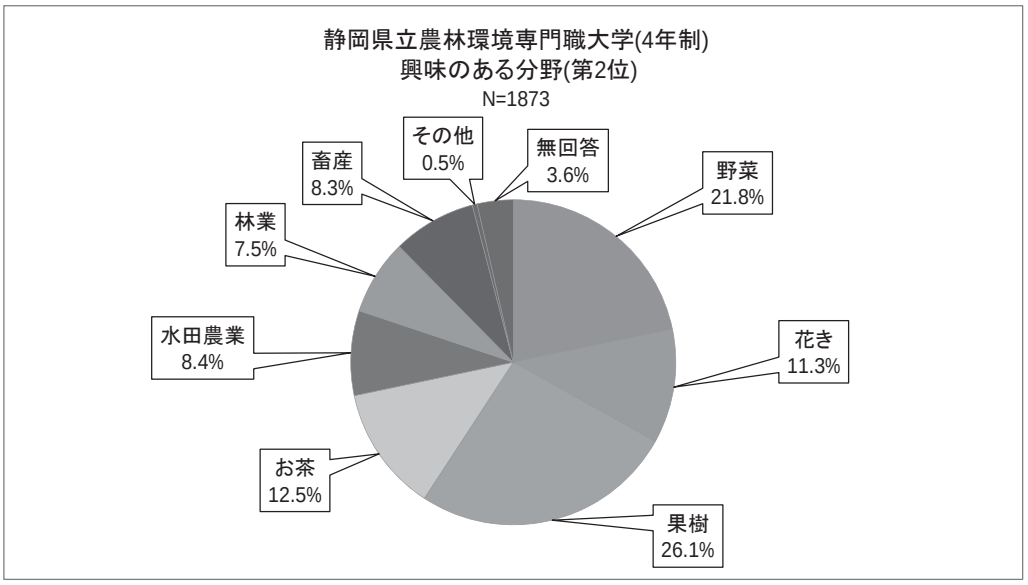
静岡県立農林環境専門職大学(4年制) 興味のある分野(第1位)

No.		件数	(全体)%
1	野菜	576	30.8
2	花き	116	6.2
3	果樹	446	23.8
4	お茶	157	8.4
5	水田農業	113	6.0
6	林業	168	9.0
7	畜産	228	12.2
8	その他	28	1.5
	無回答	41	2.2
	N（%ベース）	1,873	100



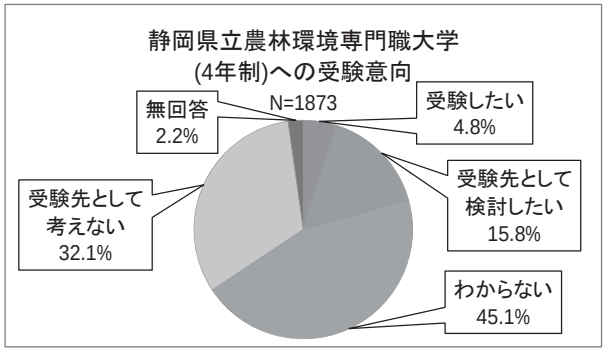
静岡県立農林環境専門職大学(4年制) 興味のある分野(第2位)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	野菜	408	21.8
2	花き	212	11.3
3	果樹	489	26.1
4	お茶	234	12.5
5	水田農業	158	8.4
6	林業	140	7.5
7	畜産	156	8.3
8	その他	9	0.5
	無回答	67	3.6
	N（%ベース）	1,873	100



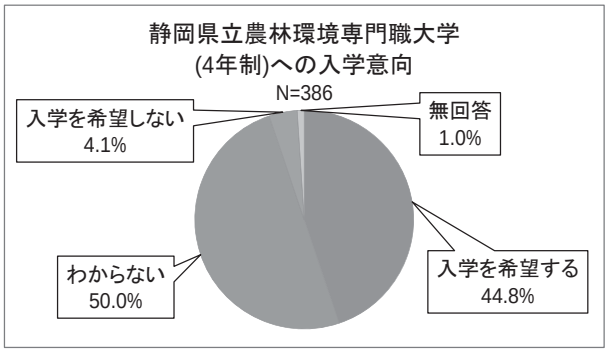
静岡県立農林環境専門職大学(4年制)への受験意向

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	受験したい	90	4.8
2	受験先として検討したい	296	15.8
3	わからない	844	45.1
4	受験先として考えない	601	32.1
	無回答	42	2.2
	N（%ベース）	1,873	100



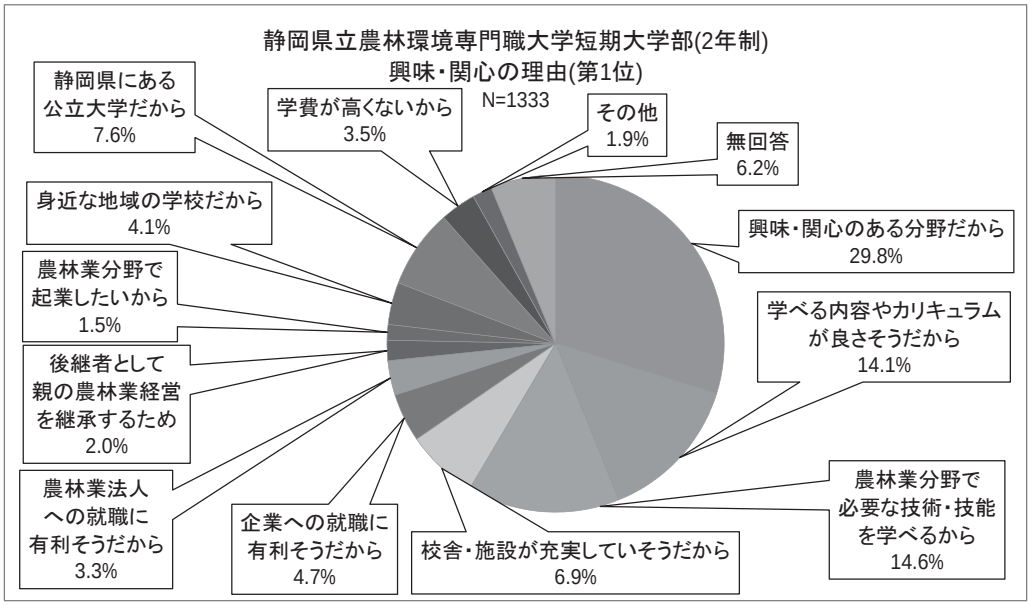
静岡県立農林環境専門職大学(4年制)への入学意向

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	入学を希望する	173	44.8
2	わからない	193	50.0
3	入学を希望しない	16	4.1
	無回答	4	1.0
	N（%ベース）	386	100



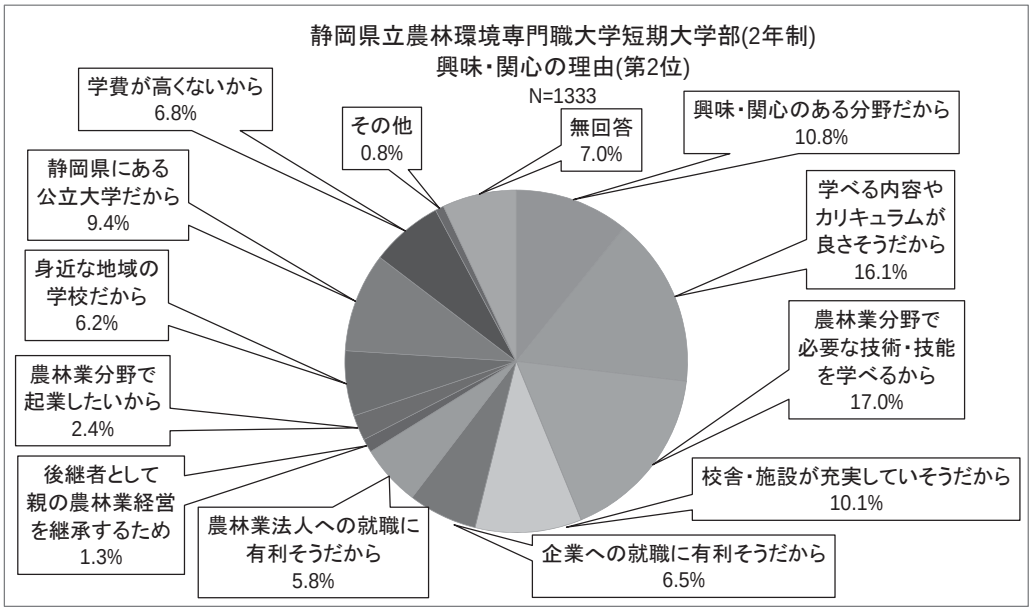
静岡県立農林環境専門職大学短期大学部(2年制) 興味・関心の理由(第1位)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	興味・関心のある分野だから	397	29.8
2	学べる内容やカリキュラムが良さそうだから	188	14.1
3	農林業分野で必要な技術・技能を学べるから	195	14.6
4	校舎・施設が充実していそうだから	92	6.9
5	企業への就職に有利そうだから	62	4.7
6	農林業法人への就職に有利そうだから	44	3.3
7	後継者として親の農林業経営を継承するため	26	2.0
8	農林業分野で起業したいから	20	1.5
9	身近な地域の学校だから	54	4.1
10	静岡県にある公立大学だから	101	7.6
11	学費が高くないから	46	3.5
12	その他	25	1.9
	無回答	83	6.2
	N（%ﾍﾞｰｽ）	1,333	100



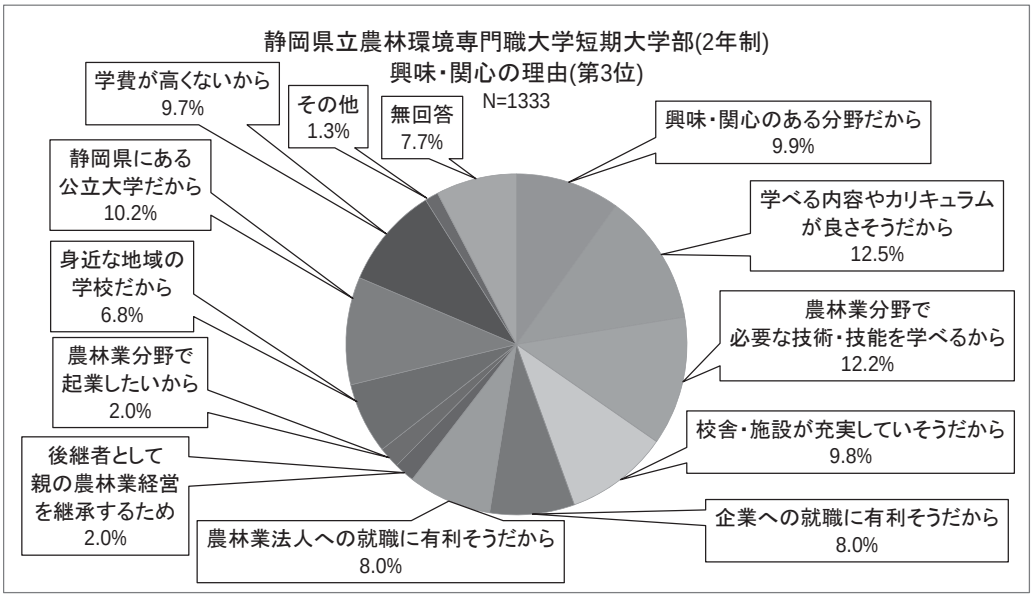
静岡県立農林環境専門職大学短期大学部(2年制) 興味・関心の理由(第2位)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	興味・関心のある分野だから	144	10.8
2	学べる内容やカリキュラムが良さそうだから	214	16.1
3	農林業分野で必要な技術・技能を学べるから	226	17.0
4	校舎・施設が充実していそうだから	134	10.1
5	企業への就職に有利そうだから	87	6.5
6	農林業法人への就職に有利そうだから	77	5.8
7	後継者として親の農林業経営を継承するため	17	1.3
8	農林業分野で起業したいから	32	2.4
9	身近な地域の学校だから	82	6.2
10	静岡県にある公立大学だから	125	9.4
11	学費が高くないから	91	6.8
12	その他	11	0.8
	無回答	93	7.0
	N（%ベース）	1,333	100



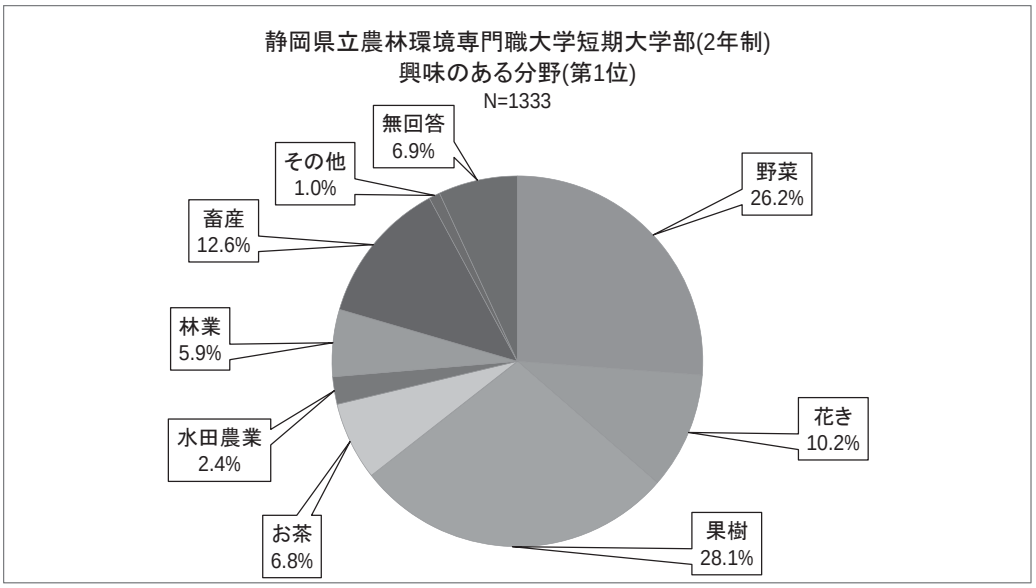
静岡県立農林環境専門職大学短期大学部(2年制) 興味・関心の理由(第3位)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	興味・関心のある分野だから	132	9.9
2	学べる内容やカリキュラムが良さそうだから	167	12.5
3	農林業分野で必要な技術・技能を学べるから	163	12.2
4	校舎・施設が充実していそうだから	131	9.8
5	企業への就職に有利そうだから	107	8.0
6	農林業法人への就職に有利そうだから	106	8.0
7	後継者として親の農林業経営を継承するため	26	2.0
8	農林業分野で起業したいから	27	2.0
9	身近な地域の学校だから	90	6.8
10	静岡県にある公立大学だから	136	10.2
11	学費が高くないから	129	9.7
12	その他	17	1.3
	無回答	102	7.7
	N（%ベース）	1,333	100



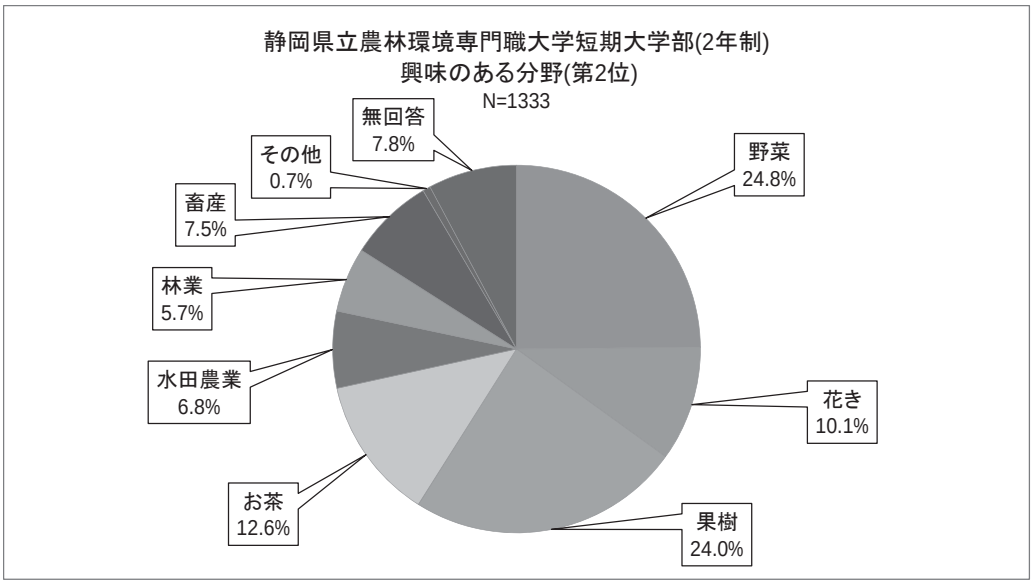
静岡県立農林環境専門職大学短期大学部(2年制)
興味のある分野(第1位)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	野菜	349	26.2
2	花き	136	10.2
3	果樹	374	28.1
4	お茶	91	6.8
5	水田農業	32	2.4
6	林業	78	5.9
7	畜産	168	12.6
8	その他	13	1.0
	無回答	92	6.9
	N（%ﾍﾞｰｽ）	1,333	100



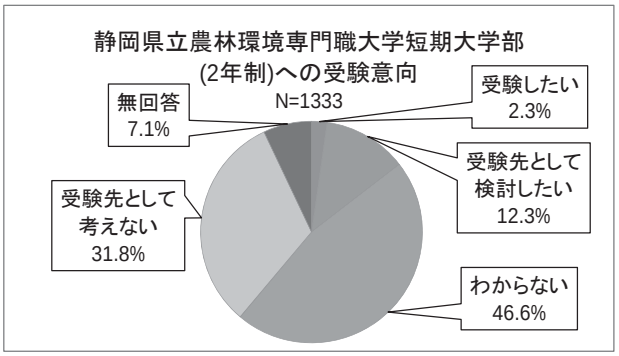
静岡県立農林環境専門職大学短期大学部(2年制)
興味のある分野(第2位)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	野菜	331	24.8
2	花き	135	10.1
3	果樹	320	24.0
4	お茶	168	12.6
5	水田農業	90	6.8
6	林業	76	5.7
7	畜産	100	7.5
8	その他	9	0.7
	無回答	104	7.8
	N（%ベース）	1,333	100



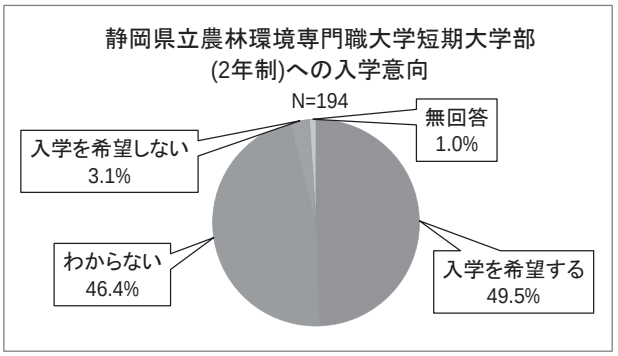
静岡県立農林環境専門職大学短期大学部(2年制)への受験意向

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	受験したい	30	2.3
2	受験先として検討したい	164	12.3
3	わからない	621	46.6
4	受験先として考えない	424	31.8
	無回答	94	7.1
	N（%ベース）	1,333	100



静岡県立農林環境専門職大学短期大学部(2年制)への入学意向

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	入学を希望する	96	49.5
2	わからない	90	46.4
3	入学を希望しない	6	3.1
	無回答	2	1.0
	N（%ベース）	194	100



調査票

静岡県立農林環境専門職大学（仮称）及び
静岡県立農林環境専門職大学短期大学部（仮称）の設置に係るアンケート調査

・静岡県では、2020 年 4 月に県立農林環境専門職大学（仮称）と県立農林環境専門職大学短期大学部（仮称）の設置を計画しております。このアンケート調査は、計画の基礎資料とするため、**2020 年３月に卒業見込みの皆さん（主に高校 2 年生）**の卒業後の進路等についてお聞きするものです。御協力をお願いいたします。
・このアンケート結果は、統計資料としてのみ用い、目的以外に利用することはありません。
・回答は、該当する番号を回答欄の □ の中へ直接記入してください。

［あなたに関することについてお答えください］

【回答欄】

問 1．あなたの学年をおたずねします。

1．　高校 2 年生　　2．　その他（　　）

問 2．あなたの性別についておたずねします。

1．　男子　　2．　女子

問 3．あなたのお住まい（現住所）についておたずねします。

1．　静岡県　　4．　山梨県　　7．　岐阜県
2．　愛知県　　5．　東京都　　8．　三重県
3．　神奈川県　　6．　その他（　　）

ここからは、
①本票と一緒に配布された**リーフレット**
『静岡県立 農林環境専門職大学（仮称）、農林環境専門職大学短期大学部（仮称）』
②本調査票 4 ページの**「類似する大学･学部･学科及び学校一覧」**
を御覧頂いた上で、御回答ください。

問 4．あなたは静岡県立農林環境専門職大学（仮称）、静岡県立農林環境専門職大学短期大学部（仮称）について、どのように考えますか。次の中から 1 つだけ選んでください。

1．　4 年制の『静岡県立農林環境専門職大学（仮称）』に興味・関心がある
2．　4 年制の『静岡県立農林環境専門職大学（仮称）』にすこし興味・関心がある
3．　2 年制の『静岡県立農林環境専門職大学短期大学部（仮称）』に興味・関心がある
4．　2 年制の『静岡県立農林環境専門職大学短期大学部（仮称）』にすこし興味・関心がある
5．　わからない
6．　興味・関心はない

問 4 で、
●「1、2」を選ばれた方は、2 ページ目の問 5 から御回答ください。
●「3、4」を選ばれた方は、3 ページ目の問９から御回答ください。
●「5、6」を選ばれた方は、4 ページ目の問 13 を御回答ください。

※問 4 で（静岡県立農林環境専門職大学（仮称）、静岡県立農林環境専門職大学短期大学部（仮称）への興味･関心で）、

1. 4 年制の『静岡県立農林環境専門職大学（仮称）』に興味・関心がある
2. 4 年制の『静岡県立農林環境専門職大学（仮称）』にすこし興味・関心がある

を選ばれた方のみ、下の設問に御回答ください。

問 5．問 4 で「1．4 年制の『静岡県立農林環境専門職大学（仮称）』に興味・関心がある」、「2．4 年制の『静岡県立農林環境専門職大学（仮称）』にすこし興味・関心がある」と回答された方におたずねします。それは、どのような理由からですか。
次の中からあてはまるものを第 3 位まで選んでください。

1. 興味・関心のある分野だから
2. 学べる内容やカリキュラムが良さそうだから
3. 農林業分野で必要な技術・技能を学べるから
4. 校舎・施設が充実していそうだから
5. 企業への就職に有利そうだから
6. 農林業法人への就職に有利そうだから
7. 後継者として親の農林業経営を継承するため
8. 農林業分野で起業したいから
9. 身近な地域の学校だから
10. 静岡県にある公立大学だから
11. 学費が高くないから
12. その他
（具体的に: ）

第 1 位 □
第 2 位 □
第 3 位 □

問 6．農林業では、どの生産分野に興味がありますか。次の中からあてはまるものを第 2 位まで選んでください。

1. 野菜　3. 果樹　5. 水田農業　7. 畜産
2. 花き　4. お茶　6. 林業　8. その他（ ）

第 1 位 □
第 2 位 □

問 7．あなたは静岡県立農林環境専門職大学（仮称）を受験したいと思いますか。次の中から 1 つ選んでください。

1. 受験したい
2. 受験先として検討したい
3. わからない
4. 受験先として考えない

□

1、2 を選ばれた方は下の問 8 へお進みください。
3、4 を選ばれた方は 4 ページの問 13 へお進みください。

問 8．問 7 で、「1．受験したい」、「2．受験先として検討したい」と回答された方におたずねします。
静岡県立農林環境専門職大学（仮称）を受験し、合格した場合の入学意向について、次の中から 1 つ選んでください。

1. 入学を希望する
2. わからない
3. 入学を希望しない

□

問 8 を御回答後は、4 ページの問 13 へお進みください。

※問 4 で（静岡県立農林環境専門職大学（仮称）、静岡県立農林環境専門職大学短期大学部（仮称）への興味･関心で）、

3. 2 年制の『静岡県立農林環境専門職大学短期大学部（仮称）』に興味・関心がある
4. 2 年制の『静岡県立農林環境専門職大学短期大学部（仮称）』にすこし興味・関心がある

を選ばれた方のみ、下の設問に御回答ください。

問 9. 問 4 で「3．2 年制の『静岡県立農林環境専門職大学短期大学部（仮称）』に興味・関心がある」、「4．2 年制の『静岡県立農林環境専門職大学短期大学部（仮称）』にすこし興味・関心がある」と回答された方におたずねします。それは、どのような理由からですか。
次の中からあてはまるものを第 3 位まで選んでください。

1. 興味・関心のある分野だから
2. 学べる内容やカリキュラムが良さそうだから
3. 農林業分野で必要な技術・技能を学べるから
4. 校舎・施設が充実していそうだから
5. 企業への就職に有利そうだから
6. 農林業法人への就職に有利そうだから
7. 後継者として親の農林業経営を継承するため
8. 農林業分野で起業したいから
9. 身近な地域の学校だから
10. 静岡県にある公立大学だから
11. 学費が高くないから
12. その他
（具体的に: ）

第 1 位 [ ]
第 2 位 [ ]
第 3 位 [ ]

問 10. 農林業では、どの生産分野に興味がありますか。次の中からあてはまるものを第 2 位まで選んでください。

1. 野菜　3. 果樹　5. 水田農業　7. 畜産
2. 花き　4. お茶　6. 林業　8. その他（ ）

第 1 位 [ ]
第 2 位 [ ]

問 11. あなたは静岡県立農林環境専門職大学短期大学部（仮称）を受験したいと思いますか。次の中から 1 つ選んでください。

1. 受験したい
2. 受験先として検討したい
3. わからない
4. 受験先として考えない

[ ]

1、2 を選ばれた方は下の問 12 へお進みください。
3、4 を選ばれた方は 4 ページの問 13 へお進みください。

問 12. 問 11 で、「1．受験したい」、「2．受験先として検討したい」と回答された方におたずねします。静岡県立農林環境専門職大学短期大学部（仮称）を受験し、合格した場合の入学意向について、次の中から 1 つ選んでください。

1. 入学を希望する
2. わからない
3. 入学を希望しない

[ ]

問１２を御回答後は、4 ページの問 13 へお進みください。

問 13．静岡県立農林環境専門職大学（仮称）、静岡県立農林環境専門職大学短期大学部（仮称）の設置計画にあたり、御意見･御要望がありましたらお聞かせください。

◆御協力ありがとうございました。

類似する大学・学部・学科及び学校一覧

■静岡県立農林環境専門職大学（仮称）生産環境経営学部（仮称）

所在地	区分	大学名	学部名	学科名	入学定員	入学金	授業料	施設設備費等	諸会費	合計
三重	国立	三重大学	生物資源学部	資源循環学科	70	282,000	535,800	0	0	817,800
静岡	国立	静岡大学	農学部	生物資源科学科	115	282,000	535,800	0	0	817,800
岐阜	国立	岐阜大学	応用生物科学部	生産環境科学課程	80	282,000	535,800	0	0	817,800
神奈川	私立	東京農業大学	農学部	農学科	170	270,000	760,000	435,600	57,800	1,523,400
愛知	国立	名古屋大学	農学部	応用生命科学科	66	282,000	535,800	0	0	817,800
愛知	私立	中部大学	応用生物学部	環境生物科学科	110	280,000	930,000	410,000	53,300	1,673,300
愛知	私立	人間環境大学	人間環境学部	環境科学科	80	200,000	700,000	430,000	41,460	1,371,460
愛知	私立	名城大学	農学部	生物資源学科	110	200,000	935,000	350,000	0	1,485,000
静岡	公立	農林環境専門職大学(仮称)	生産環境経営学部(仮称)	生産環境経営学科（仮称）	24	(県内) 141,000 (県外) 366,600	322,300	0	0	463,300 688,900

注1）各大学情報については、公式ウェブサイト等により調査しました。
注2）各大学の学費については、諸会費などを含んでいない場合があるため、概算として参考にして下さい。
注3）静岡県立農林環境専門職大学（仮称）の学費は予定であり、変更する場合があります。

■静岡県立農林環境専門職大学短期大学部（仮称）生産科学科（仮称）

所在地	区分	大学名・学校名	学部・学科名	入学定員	入学金	授業料	施設設備費等	教材費	合計
三重	公立	三重県農業大学校	養成科二年課程	30	0	118,800	0	0	118,800
岐阜	公立	岐阜県農業大学校	野菜・果樹学科 畜産学科	30	0	69,120	0	0	69,120
愛知	公立	愛知県立農業大学校	教育部農学科	100	5,650	60,000	0	0	65,650
静岡	公立	農林環境専門職大学短期大学部(仮称)	生産科学科(仮称)	100	(県内) 84,600 (県外) 219,900	234,600	0	0	319,200 454,500

注1）各大学校情報については、公式ウェブサイト等により調査しました。
注2）教材費は大学へ納める金額の合計金額で、実費が別途かかる場合があるため、概算として参考にしてください。
注3）静岡県立農林環境専門職大学短期大学部（仮称）の学費は予定であり、変更する場合があります。

資格免許取得等について

○授業の中で取得に取り組める資格・免許（予定）

大型特殊自動車運転免許（農耕用）、茶手揉技師補、日本茶アドバイザー、家畜人工授精師免許、
フォークリフト運転技能講習修了証、伐木（大径木等）特別教育、狩猟免許、簿記検定など

※4年制、2年制ともに取得が可能です（資格分野によって取得できないものがあります）。また、取得費用は別途必要です。

○農林業の担い手を目指す学生の就農を支援する給付金制度

・農業次世代人材投資事業（準備型）　・緑の青年就業準備給付金事業

※卒業後1年以内の就農などの給付要件があります。給付要件を満たさなくなった場合全額を返還しなければなりません。

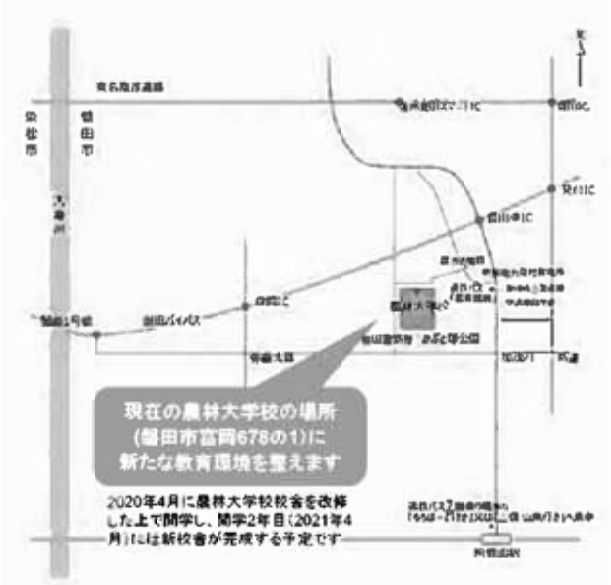
○共同生活を通じて協調性を養う寮生活

・4年制、2年制ともに、1年生は原則全寮制とすることを検討しています。

○現在の農林大学校の男女比

・学生の男女比は男性：女性＝2：1で、3人に1人は女性の学生です。

交通アクセス



【電車・バスでの来校】

●東京方面より　新幹線「JR掛川駅」下車－乗換え－東海道本線「JR磐田駅」下車

●名古屋方面より　新幹線「JR浜松駅」下車－乗換え－東海道本線「JR磐田駅」下車

JR磐田駅北口　バスロータリーより遠州鉄道バス（10分）－徒歩（10分）

お問い合わせ　静岡県経済産業部農業局農業ビジネス課　専門職大学整備班　TEL:054-221-2734
〒420-8601　静岡市葵区追手町9番6号　県庁東館9階　FAX:054-221-3688

※設置構想中のため、このリーフレットの記載内容は変更となる可能性があります。

静岡県立
農林環境専門職大学（仮称）
農林環境専門職大学 短期大学部（仮称）

2020年4月
開学予定
〈設置構想中〉

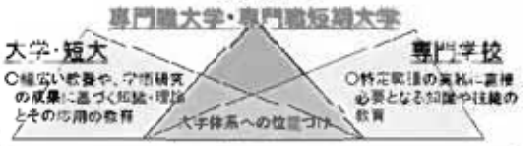
静岡県では、静岡県立農林大学校を、農林業者を養成する専門学校として、本県の農林業の発展に貢献してきましたが、近年の農林業経営の規模拡大や多様化に対応するため、このたび4年制の専門職大学と2年制の専門職短期大学への移行を検討しています。

専門職大学とは？

2019年4月から新たに創設される実践的な職業教育を行う新しい高等教育機関です。

今後の成長産業分野（農業や観光、情報など）において、専門職業人材を養成する実践的な教育のニーズが高まる中で、新たに創設化された大学です。

特に、企業での長期実習や関係の経営分野に関する教育等を通じ、高度な「実践力」や豊かな「創造性」を培う教育に重点を置く点が特徴となっています。



■設置者

静岡県が設置する、公立の専門職大学及び専門職大学短期大学部です。

■学部・学科名

4年制	生産環境経営学部（仮称） 生産環境経営学科（仮称）	入学定員 24名（予定）
2年制	短期大学部（仮称） 生産科学科（仮称）	入学定員 100名（予定）

■開学時期

2020年4月の開学を目指し、大学設置認可申請の準備を進めています。

■学位等

専門職大学の卒業者には、「学士（専門職）」、専門職短期大学の卒業者には「短期大学士（専門職）」の学位がそれぞれ授与されます。
これらは、4年制大学や短期大学の卒業生に与えられる「学士」「短期大学士」と同等のものです

※設置構想中のため、このリーフレットの記載内容は変更となる可能性があります。

○「耕土耕心（大地を耕し、心を耕す）」の理念のもとに、多くの実習を行い、農林業のプロフェッショナルを養成します

農林大学校の校訓「耕土耕心」＝「ひたいに汗し、土にまみれて大地を耕すことにより、自分を知り、自分の心を成長させ、立派な人間性をつくりあげることができる。大地を耕すことは自らの心を耕すことである」という理念を引き継ぎ、実学を生成し、校舎に隣接する畑で年間を通した栽培等の実習や、先進的企業でのインターンを実施するとともに、豊かな人間性を養い視野を広げる教養教育を充実します。

○人々の食やくらしを支え、新たな可能性が広がる農林業の、あらゆるシーンに対応できる力を養います

・農林業現場における経営規模の拡大や新しい技術の導入などに柔軟に対応できるよう、基礎的な生産知識や技術に加え、農林業を取り巻く多様なシーンについて学べます。
・農山村の新しい役割として注目を集めている、美しい景観の形成や自然環境の保全などについて学び、農林業を通じて自然と共生しながら地域を支えていく農林業人を養成します。

○全国初の農林業分野の専門職大学です

農林業分野では全国初の公立の専門職大学及び専門職短期大学となる見込みです。専門職大学卒業生には「学士（専門職）」、専門職短期大学卒業生には「短期大学士（専門職）」の学位がそれぞれ授与されます。

農林環境専門職大学（仮称）

生産環境経営学部（仮称）　**生産環境経営学科**（仮称）　**4年制**

入学定員　24名（予定）

POINT 1　農林業経営の現場で生まれる課題に柔軟に対応しながら、経営の中心として自らの夢を実現できる農林業者の養成を目指します。

○高度な生産技術に加え、マーケット・イン※の視点に立った食の安全性や機能性の追求、6次産業化など、生産物の付加価値化の手法を学べます。
○農林業経営体等でのインターンを通じ、実際の経営課題の解決手法を提案する、実践的なプロジェクト実習を行います。

POINT 2　景観・環境や地域の文化を守り、自然と共生していくことのできる、豊かな人間性を持った農林業者の養成を目指します。

○景観や環境など、近年注目を集めている農山村の多面的な役割を学べます。

実践的な農林業経営を学ぶカリキュラム

★経営者に必要な幅広い教養を学びます。
学びのキーワード：技術者倫理／日本文化、語学／環境／一般教養

★農林業経営に必要な経営管理能力と生産技術を習得するとともに、農山村が持つ機能や役割について理解を深めます。
学びのキーワード：経営戦略、マーケティング、記帳／生産マネージメント、先端技術／農山村、コミュニティー、多面的機能

★経営展開につながる流通・加工・販売を学びます。
学びのキーワード：フードシステム／食品加工／木材加工／6次産業化

★経営課題を発見し、解決する実践力を身につけます。
学びのキーワード：経営課題／課題発見／課題解決力

農林業経営のプロフェッショナルを目指す

新しい視点でチャレンジする農林業経営体後継者や幹部、農林業経営体の立上げ、農林業へ参入する企業へ就職、技術指導・普及を行う公務員、JA・森林組合の職員　等

農林環境専門職大学 短期大学部（仮称）

生産科学科（仮称）　**2年制**

入学定員　100名（予定）

POINT 1　確かな生産知識と技術を持つ、生産現場で即戦力として活躍するスペシャリスト農林業者の養成を目指します。

○作目別（野菜・花き、お茶、果樹、林産、畜産等）に実践的な生産知識と技術力を修得できます。

POINT 2　生産現場のリーダーに必要な豊かな人間性と、現場の課題に対応できる先進的な生産知識・技術と応用力を身に付けます。

○農林業経営体等でのインターンを通じ、生産現場で貴重な経験を積むことができます。
○ICTやIoTなど、農林業現場に導入が進んでいる先端技術を学べます。

実践的な生産技術を学ぶカリキュラム

★生産現場のリーダーに必要な教養を学びます。
学びのキーワード：コミュニケーション／語学／一般教養

★生産現場で必要な実践的な生産技術を身につけます。
学びのキーワード：圃場・実習林実習／企業実習／先端技術、GAP

★生産現場から消費者に繋がる加工・流通・販売の基礎知識を学びます。
学びのキーワード：流通加工／食品加工／木材加工／販売実習

★生産現場の課題を見つけ解決する能力を身につけます。
学びのキーワード：生産課題／課題発見／課題解決力

生産現場のプロフェッショナルを目指す

確かな生産技術・知識を持った農林業後継者、農林業経営体生産現場のリーダー、農林業関連企業（食品・種苗等）への就職　等

※設置構想中のため、このリーフレットの記載内容は変更となる可能性があります。

【資料８】

学生納付金

農林環境専門職大学の学生納付金内訳

学年	入学金	授業料	合計
１年次	（県内）　141,000 円	322,300 円	（県内）　463,300 円
	（県外）　366,600 円		（県外）　688,900 円
２年次	-	322,300 円	322,300 円
３年次	-	322,300 円	322,300 円
４年次	-	322,300 円	322,300 円
計	（県内）　141,000 円	1,289,200 円	（県内）　1,430,200 円
	（県外）　366,600 円		（県外）　1.655,800 円

他大学学生納付金

所在地	区分	大学名	学部名	学科名	１年次			２年次以降 ※学年によって変動する場合は最高額となる学年を表記	
					入学金	授業料	計	授業料	計
静岡	国立	静岡大学	農学部	生物資源科学科	282,000	535,800	817,800	535,800	535,800
愛知	国立	名古屋大学	農学部	応用生命科学科	282,000	535,800	817,800	535,800	535,800
	私立	中部大学	応用生物学部	環境生物科学科	280,000	930,000	1,210,000	960,000	960,000
	私立	人間環境大学	人間環境学部	環境科学科	200,000	700,000	900,000	700,000	700,000
	私立	名城大学	農学部	生物資源学科	200,000	935,000	1,135,000	935,000	935,000
岐阜	国立	岐阜大学	応用生物科学部	生産環境科学課程	282,000	535,800	817,800	535,800	535,800
三重	国立	三重大学	生物資源学部	資源循環学科	282,000	535,800	817,800	535,800	535,800
神奈川	私立	東京農業大学	農学部	農学科	270,000	760,000	1,030,000	810,000	810,000

※１）各大学ホームページに公表している、平成30年度入学者を対象とした学生納付金額を反映。
※２）教材購入費等は含まない

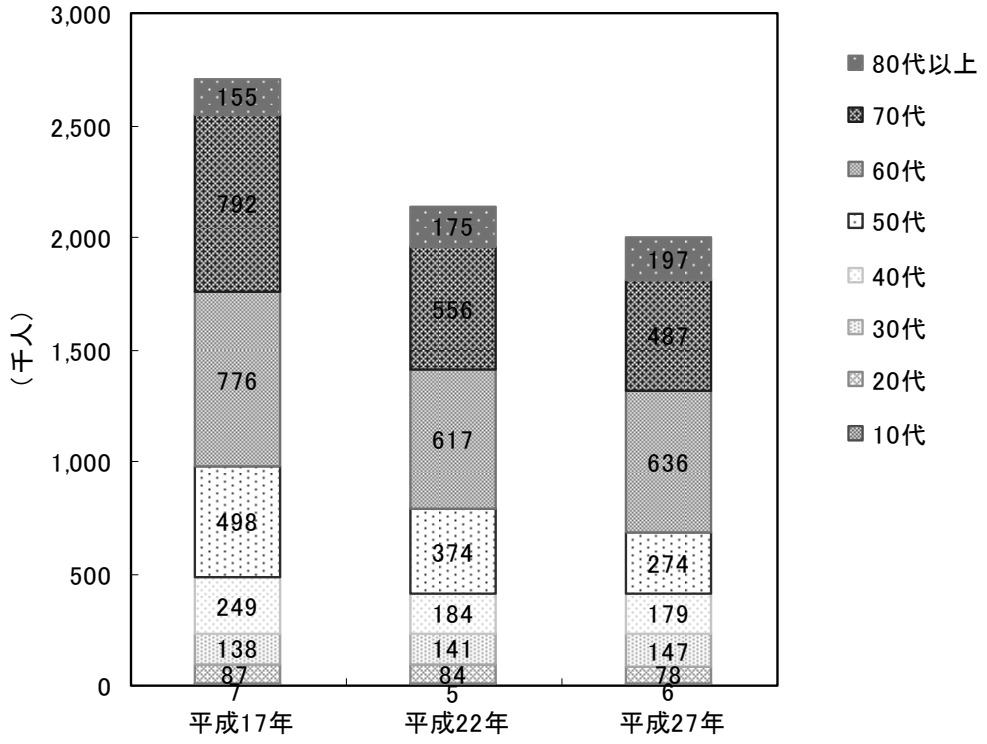
【資料９】

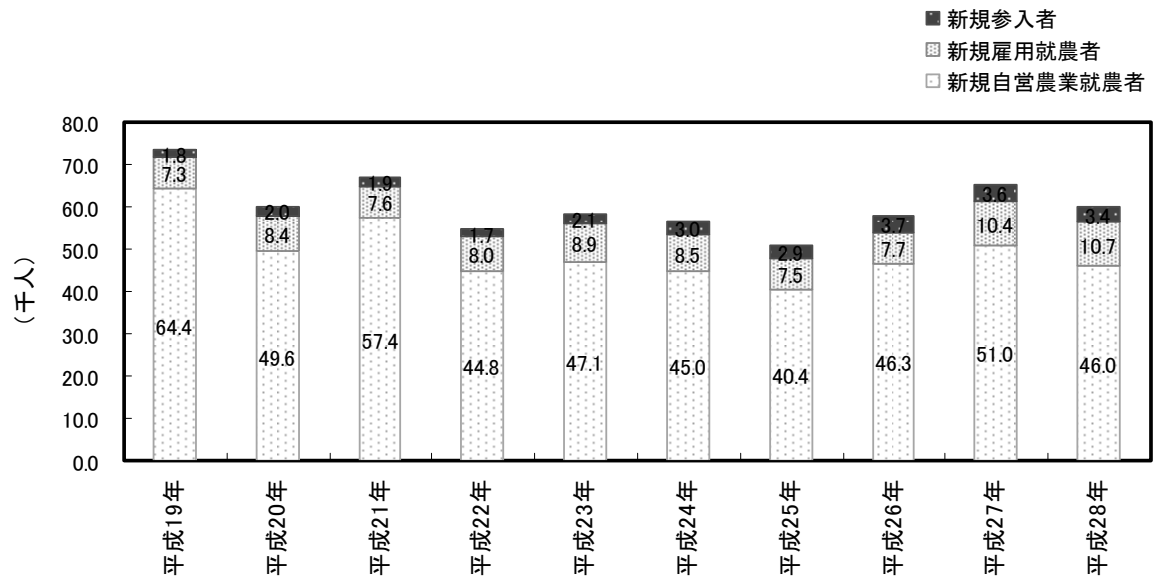
農業への就業者状況（全国）

農業就業者数(全国)

年代	平成17年 総数(人)	(%)	平成22年 総数(人)	(%)	平成27年 総数(人)	(%)	増減率 H27/H17
10代	6,694	(0.2%)	5,406	(0.3%)	5,765	(0.3%)	-13.9%
20代	86,982	(3.2%)	84,299	(3.9%)	78,221	(3.9%)	-10.1%
30代	138,406	(5.1%)	140,841	(6.6%)	147,200	(7.3%)	6.4%
40代	249,348	(9.2%)	184,243	(8.6%)	179,290	(8.9%)	-28.1%
50代	498,095	(18.4%)	373,881	(17.5%)	273,803	(13.7%)	-45.0%
60代	775,997	(28.7%)	616,902	(28.9%)	636,357	(31.7%)	-18.0%
70代	792,391	(29.3%)	555,791	(26.0%)	486,799	(24.3%)	-38.6%
80代以上	155,447	(5.8%)	174,614	(8.2%)	196,854	(9.8%)	26.6%
合計	2,703,360	(100.0%)	2,135,977	(100.0%)	2,004,289	(100.0%)	-25.9%

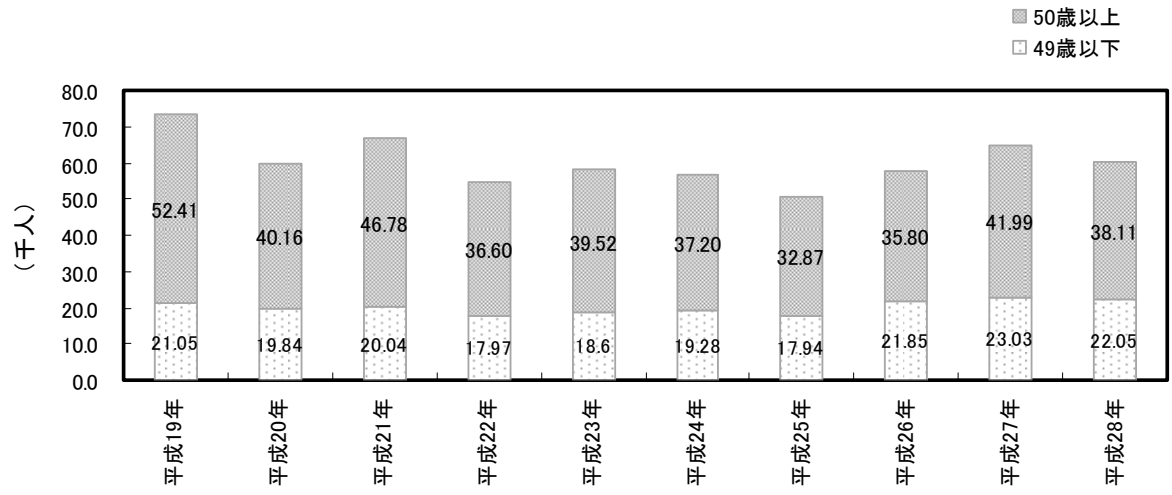
（出典:総務省「国勢調査」）





全国の就農形態別新規就農者の推移

（出典：農林水産省「新規就農者調査」）



全国の年齢別新規就農者の推移

（出典：農林水産省「新規就農者調査」）

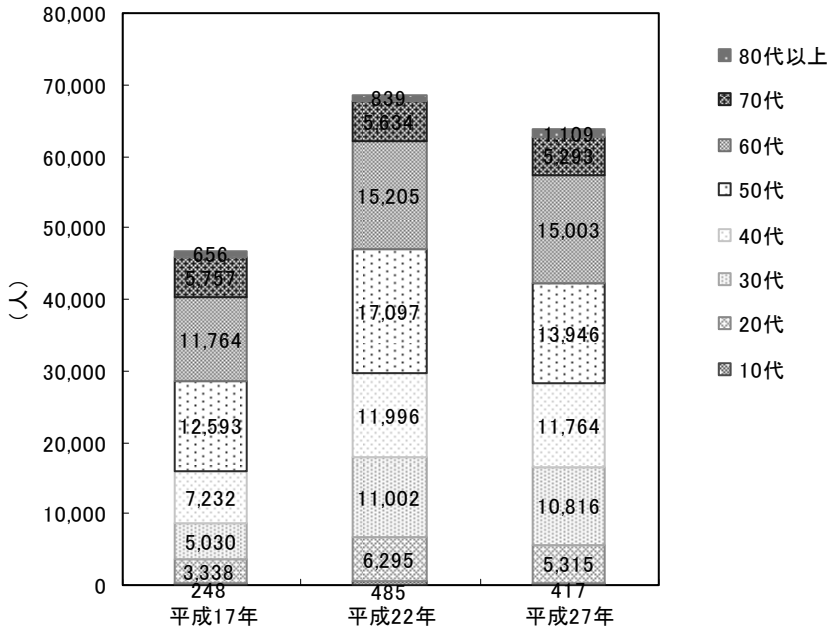
【資料 10】

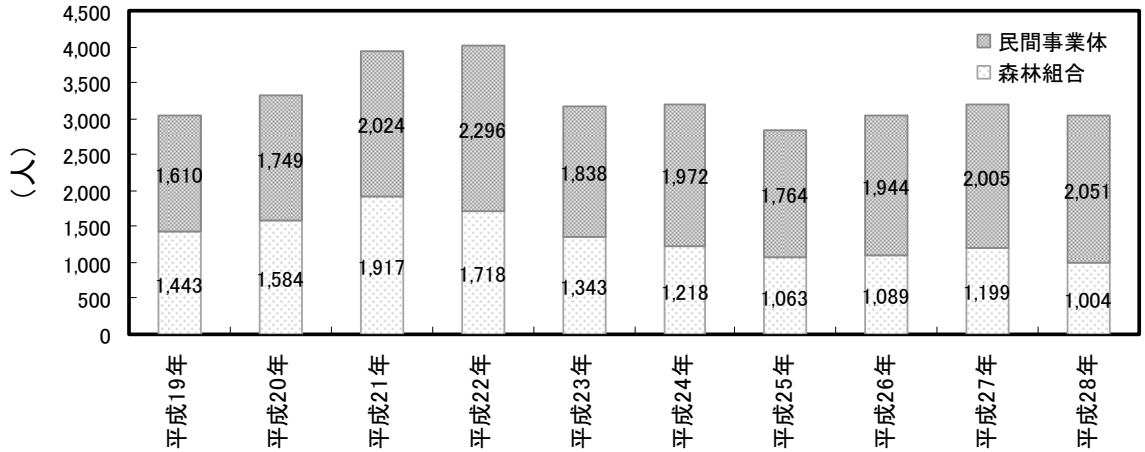
林業への就業者状況（全国）

林業就業者数(全国)

年代	平成17年 総数(人)	(%)	平成22年 総数(人)	(%)	平成27年 総数(人)	(%)	増減率 H27/H17
10代	248	(0.5%)	485	(0.7%)	417	(0.7%)	68.1%
20代	3,338	(7.2%)	6,295	(9.2%)	5,315	(8.3%)	59.2%
30代	5,030	(10.8%)	11,002	(16.0%)	10,816	(17.0%)	115.0%
40代	7,232	(15.5%)	11,996	(17.5%)	11,764	(18.5%)	62.7%
50代	12,593	(27.0%)	17,097	(24.9%)	13,946	(21.9%)	10.7%
60代	11,764	(25.2%)	15,205	(22.2%)	15,003	(23.6%)	27.5%
70代	5,757	(12.3%)	5,634	(8.2%)	5,293	(8.3%)	-8.1%
80代以上	656	(1.4%)	839	(1.2%)	1,109	(1.7%)	69.1%
合計	46,618	(100.0%)	68,553	(100.0%)	63,663	(100.0%)	36.6%

（出典:総務省「国勢調査」）



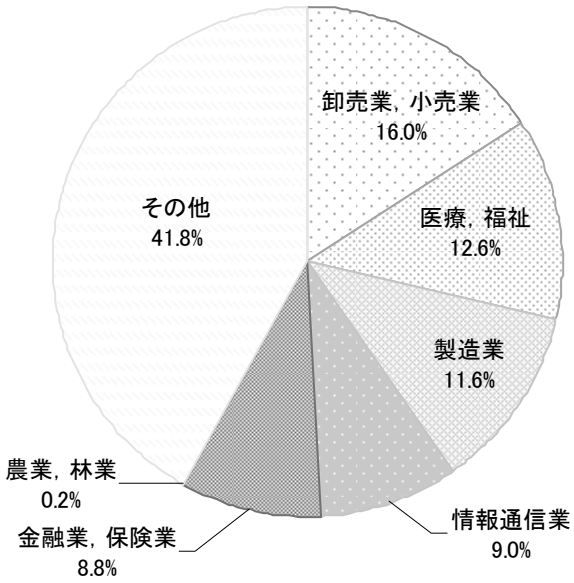


全国の林業新規就業者数の推移（就業先別）

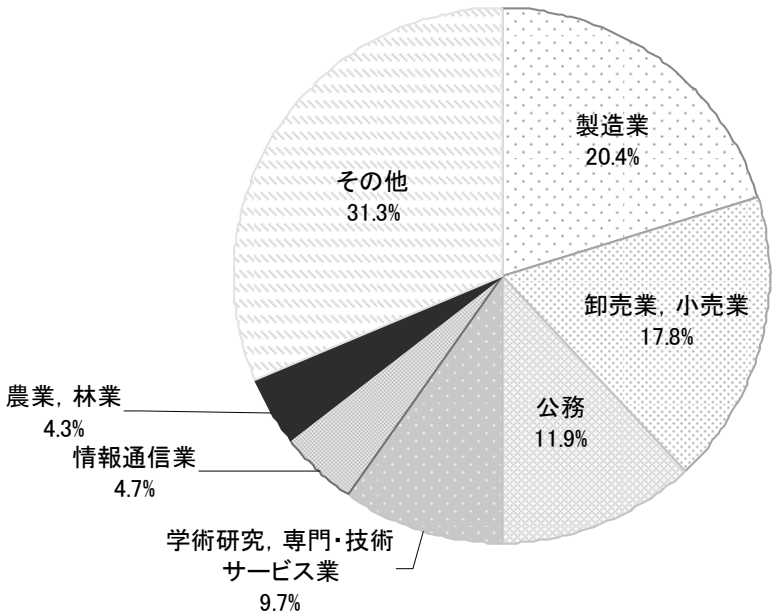
（出典：林野庁HP「林業労働力の動向」（http://www.rinya.maff.go.jp/j/routai/koyou/01.html）

【資料 11】

大卒者の産業別就職者数



平成29年度大学卒業者の産業別就職状況（全学部）(n=432,333)
（出典：文部科学省「学校基本調査」）



平成29年度大学卒業者の産業別就職状況（農学部）(n=12,019)
（出典：文部科学省「学校基本調査」）

【資料 12】

経営体数等の推移

農業経営体数(全国)　　(経営体)

年度		農業経営体	法人経営	
平成17年		2,009,380	19,136	(1.0%)
平成22年		1,679,084	21,627	(1.3%)
平成27年		1,377,266	27,101	(2.0%)
増減率	平成22年/17年	-16.4%	13.0%	
	平成27年/22年	-18.0%	25.3%	
	平成27年/17年	-31.5%	41.6%	

(出典:農林水産省「農林業センサス」)

経営耕地面積規模別農業経営体数(全国)　　(経営体)

年度		経営耕地面積							全体
		1ha未満	1.0～10.0ha	10.0～20.0ha	20.0～30.0ha	30.0～50.0ha	100.0ha	100.0ha以上	
平成17年		1,150,656	815,680	21,556	8,259	7,468	4,897	864	2,009,380
平成22年		932,674	696,868	23,682	9,797	8,986	5,857	1,220	1,679,084
平成27年		741,363	583,119	25,396	10,292	9,385	6,121	1,590	1,377,266
増減率	平成22年/17年	-18.9%	-14.6%	9.9%	18.6%	20.3%	19.6%	41.2%	-16.4%
	平成27年/22年	-20.5%	-16.3%	7.2%	5.1%	4.4%	4.5%	30.3%	-18.0%
	平成27年/17年	-35.6%	-28.5%	17.8%	24.6%	25.7%	25.0%	84.0%	-31.5%

(出典:農林水産省「農林業センサス」)

林家・林業経営体の数(全国)　　(林家:戸、林業経営体:経営体)

年度		林家[1)]	林業経営体[2)]	法人経営	
平成17年		919,833	200,224	8,500	(4.2%)
平成22年		906,805	140,186	6,789	(4.8%)
平成27年		828,973	87,284	5,599	(6.4%)
増減率	平成22年/17年	-1.4%	-30.0%	-20.1%	
	平成27年/22年	-8.6%	-37.7%	-17.5%	
	平成27年/17年	-9.9%	-56.4%	-34.1%	

(出典:農林水産省「農林業センサス」)

1)保有山林面積が1ha以上の世帯

2)次のいずれかに該当。①保有山林面積が3ha以上かつ過去5年間に林業作業を行うか森林経営計画又は林業施業計画を策定している、②受託を受けていく林を行っている、③委託や立木の購入により過去1年間に200㎥以上の素材生産を行っている

林家・林業経営体の数と保有山林面積（全国）　　（林家：戸、林業経営体：経営体）

区分	年度		保有山林面積					全体
			1～5ha	5～10ha	10～50ha	50～100ha	100ha以上	
林家	平成17年度		691,774	120,453	97,467	6,900	3,239	**919,833**
	平成22年度		680,686	119,292	96,672	6,797	3,358	**906,805**
	平成27年度		616,687	110,944	90,980	6,715	3,647	**828,973**
	増減率	平成22年/17年	−1.6%	−1.0%	−0.8%	−1.5%	3.7%	−1.4%
		平成27年/22年	−9.4%	−7.0%	−5.9%	−1.2%	8.6%	−8.6%
		平成27年/17年	−10.9%	−7.9%	−6.7%	−2.7%	12.6%	−9.9%
林業経営体	平成17年度		67,378	59,869	61,386	6,347	5,244	200,224
	平成22年度		43,691	41,264	45,857	4,892	4,482	140,186
	平成27年度		26,014	24,391	29,687	3,572	3,620	87,284
	増減率	平成22年/17年	−35.2%	−31.1%	−25.3%	−22.9%	−14.5%	−30.0%
		平成27年/22年	−40.5%	−40.9%	−35.3%	−27.0%	−19.2%	−37.7%
		平成27年/17年	−61.4%	−59.3%	−51.6%	−43.7%	−31.0%	−56.4%

（出典：農林水産省「農林業センサス」）

1）保有山林面積が1ha以上の世帯

2）次のいずれかに該当。①保有山林面積が3ha以上かつ過去5年間に林業作業を行うか森林経営計画又は林業施業計画を策定している、②受託を受けて育林を行っている、③委託や立木の購入により過去1年間に200㎥以上の素材生産を行っている

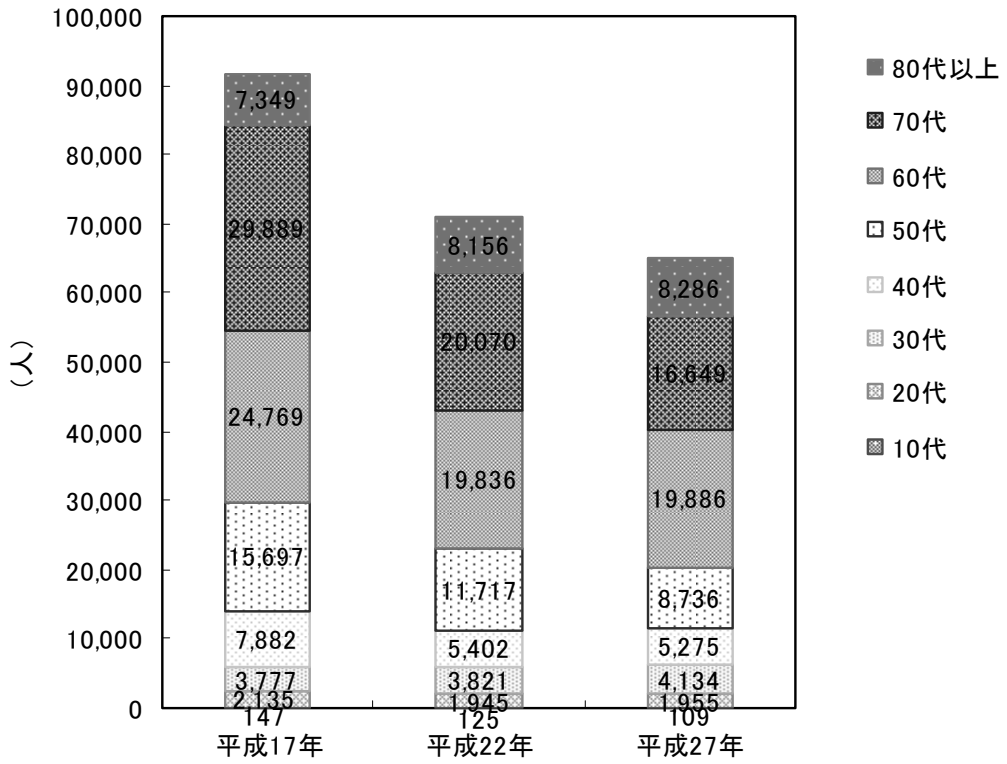
【資料 13】

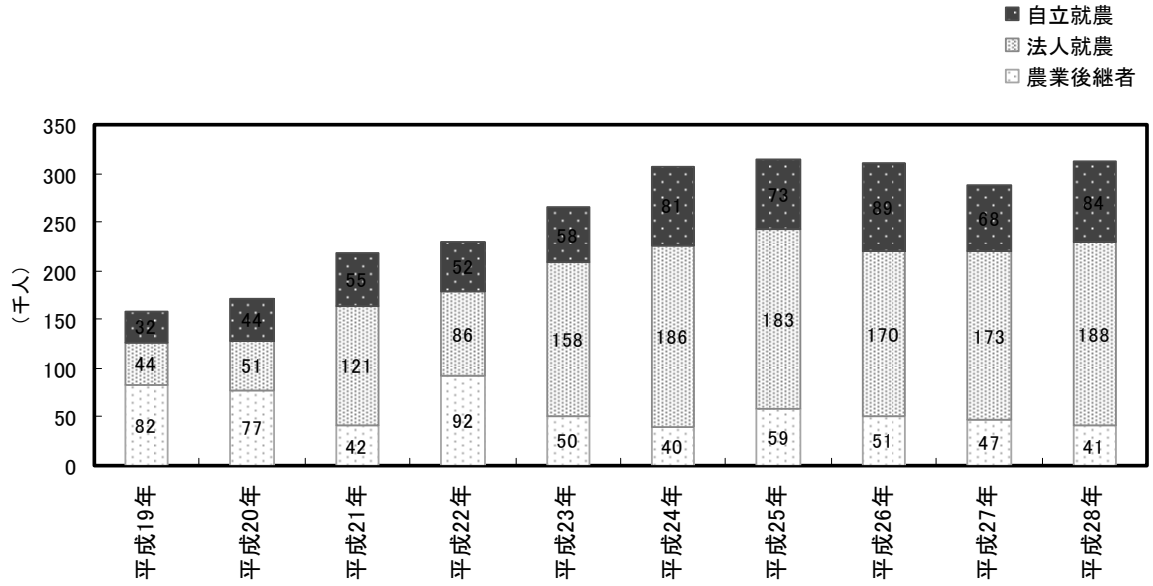
農業への就業者状況（静岡県）

農業就業者数(静岡県)

年代	平成17年 総数(人)	(%)	平成22年 総数(人)	(%)	平成27年 総数(人)	(%)	増減率 H27/H17
10代	147	(0.2%)	125	(0.2%)	109	(0.2%)	-25.9%
20代	2,135	(2.3%)	1,945	(2.7%)	1,955	(3.0%)	-8.4%
30代	3,777	(4.1%)	3,821	(5.4%)	4,134	(6.4%)	9.5%
40代	7,882	(8.6%)	5,402	(7.6%)	5,275	(8.1%)	-33.1%
50代	15,697	(17.1%)	11,717	(16.5%)	8,736	(13.4%)	-44.3%
60代	24,769	(27.0%)	19,836	(27.9%)	19,886	(30.6%)	-19.7%
70代	29,889	(32.6%)	20,070	(28.2%)	16,649	(25.6%)	-44.3%
80代以上	7,349	(8.0%)	8,156	(11.5%)	8,286	(12.7%)	12.8%
合計	91,645	(100.0%)	71,072	(100.0%)	65,030	(100.0%)	-29.0%

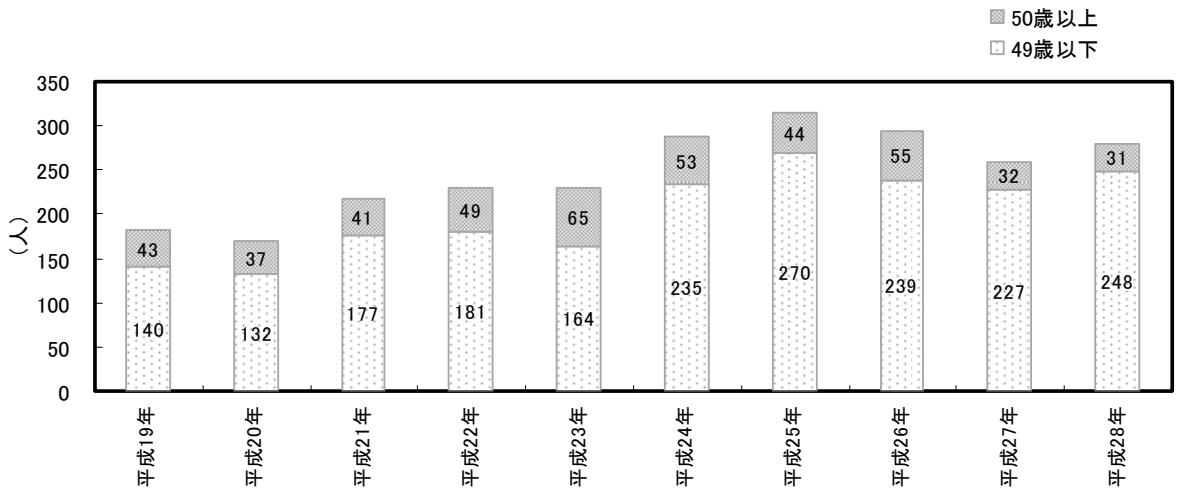
(出典:総務省「国勢調査」)





静岡県の就農形態別新規就農者の推移

（出典：静岡県農業ビジネス課「新規就農者の実態調査結果」）



静岡県の年齢別新規就農者の推移

（出典：農林水産省「新規就農者調査」）

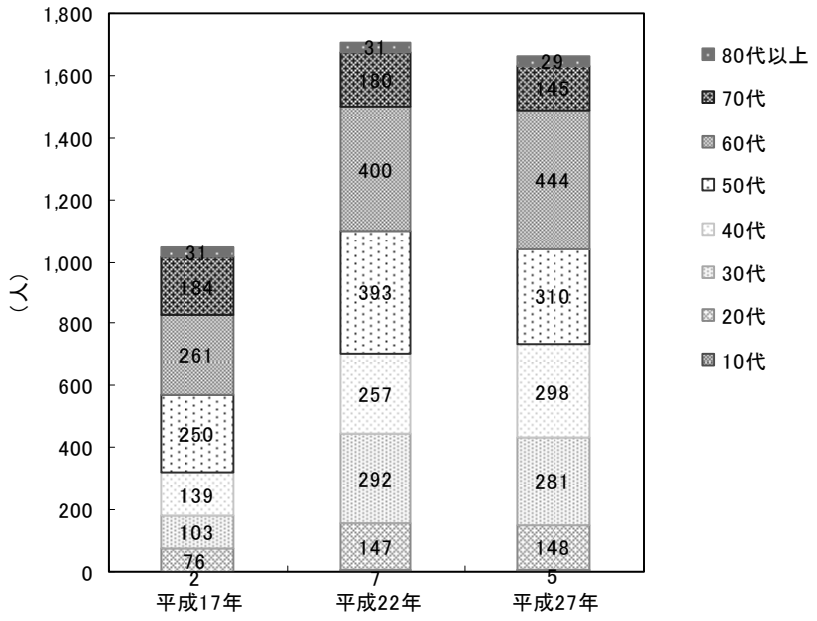
【資料 14】

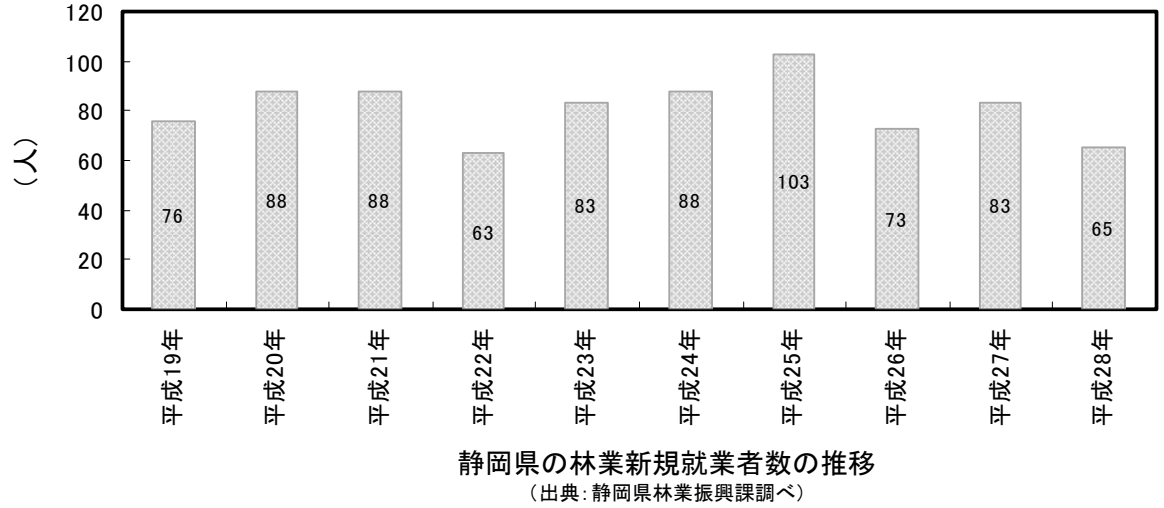
林業への就業状況（静岡県）

林業就業者数(静岡県)

年代	平成17年 総数(人)	(%)	平成22年 総数(人)	(%)	平成27年 総数(人)	(%)	増減率 H27/H17
10代	2	(0.2%)	7	(0.4%)	5	(0.3%)	150.0%
20代	76	(7.3%)	147	(8.6%)	148	(8.9%)	94.7%
30代	103	(9.8%)	292	(17.1%)	281	(16.9%)	172.8%
40代	139	(13.3%)	257	(15.1%)	298	(18.0%)	114.4%
50代	250	(23.9%)	393	(23.0%)	310	(18.7%)	24.0%
60代	261	(25.0%)	400	(23.4%)	444	(26.7%)	70.1%
70代	184	(17.6%)	180	(10.5%)	145	(8.7%)	-21.2%
80代以上	31	(3.0%)	31	(1.8%)	29	(1.7%)	-6.5%
合計	1,046	(100.0%)	1,707	(100.0%)	1,660	(100.0%)	58.7%

（出典:総務省「国勢調査」）



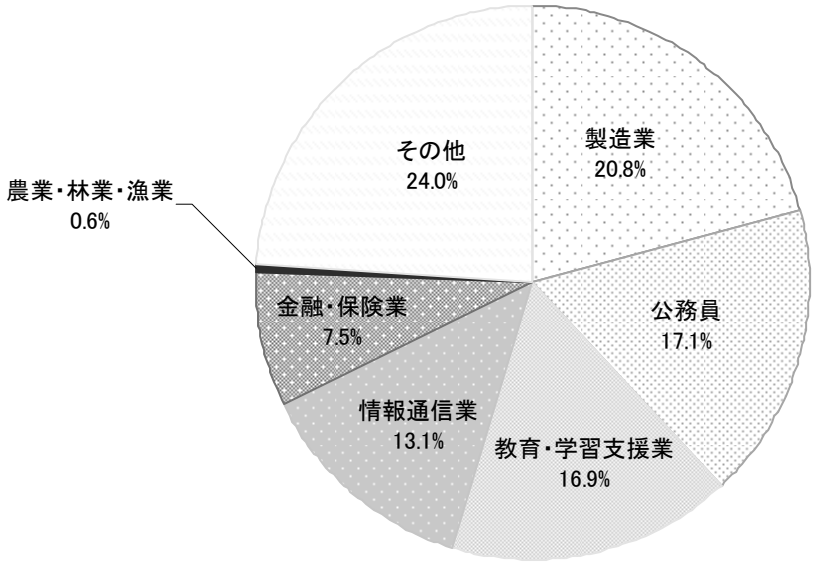


静岡県の林業新規就業者数の推移

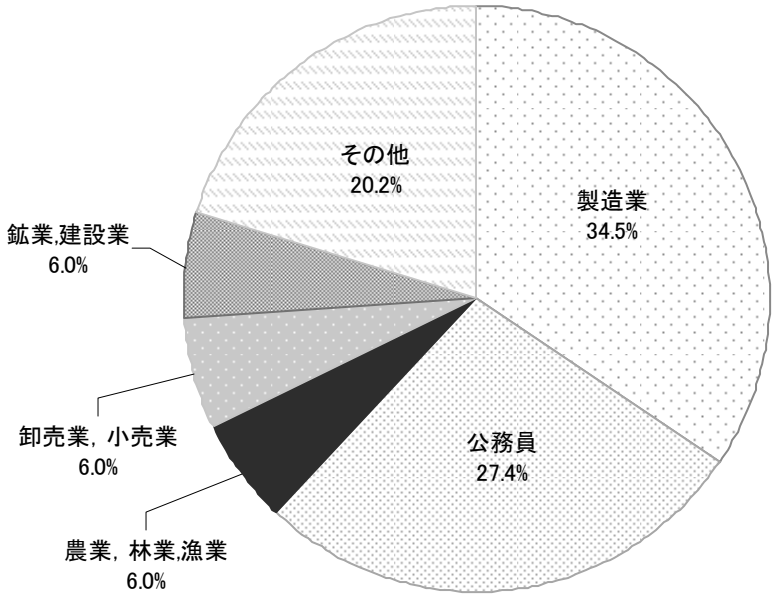
（出典：静岡県林業振興課調べ）

【資料 15】

近隣大学の産業別就職者数



平成29年度静岡大学卒業者の産業別就職状況（全学部）(n=1,233)
（出典：静岡大学「卒業生の進路状況」
http://www.career.ipc.shizuoka.ac.jp/students/data/）



平成29年度静岡大学卒業者の産業別就職状況（農学部）(n=84)
（出典：静岡大学「卒業生の進路状況」
http://www.career.ipc.shizuoka.ac.jp/students/data/）

【資料 16】

経営体数等の推移

農業経営体数(静岡県)　　(経営体)

年度		農業経営体	法人経営
平成17年		47,209	473 (1.0%)
平成22年		40,102	443 (1.1%)
平成27年		33,143	562 (1.7%)
増減率	平成22年/17年	-15.1%	-6.3%
	平成27年/22年	-17.4%	26.9%
	平成27年/17年	-29.8%	18.8%

(出典:農林水産省「農林業センサス」)

経営耕地面積規模別農業経営体数(静岡県)　　(経営体)

年度		経営耕地面積							全体
		1ha未満	1.0～10.0ha	10.0～20.0ha	20.0～30.0ha	30.0～50.0ha	100.0ha	100.0ha以上	
平成17年		33,062	13,943	126	48	25	4	1	47,209
平成22年		27,283	12,554	174	45	30	12	4	40,102
平成27年		22,125	10,673	233	51	45	12	4	33,143
増減率	平成22年/17年	-17.5%	-10.0%	38.1%	-6.3%	20.0%	200.0%	300.0%	-15.1%
	平成27年/22年	-18.9%	-15.0%	33.9%	13.3%	50.0%	0.0%	0.0%	-17.4%
	平成27年/17年	-33.1%	-23.5%	84.9%	6.3%	80.0%	200.0%	300.0%	-29.8%

(出典:農林水産省「農林業センサス」)

林家・林業経営体の数(静岡県)　　(林家:戸、林業経営体:経営体)

年度		林家[1)]	林業経営体[2)]	法人経営
平成17年		19,617	4,259	234 (5.5%)
平成22年		19,889	2,881	164 (5.7%)
平成27年		19,169	1,964	138 (7.0%)
増減率	平成22年/17年	1.4%	-32.4%	-29.9%
	平成27年/22年	-3.6%	-31.8%	-15.9%
	平成27年/17年	-2.3%	-53.9%	-41.0%

(出典:農林水産省「農林業センサス」)

1)保有山林面積が1ha以上の世帯

2)次のいずれかに該当。①保有山林面積が3ha以上かつ過去5年間に林業作業を行うか森林経営計画又は林業施業計画を策定している、②受託を受けていく林を行っている、③委託や立木の購入により過去1年間に200㎥以上の素材生産を行っている

林家・林業経営体の数と保有山林面積（静岡県）　（林家：戸、林業経営体：経営体）

区分	年度		保有山林面積					全体
			1～5ha	5～10ha	10～50ha	50～100ha	100ha以上	
林家		平成17年度	14,056	2,529	2,547	330	155	19,617
		平成22年度	14,323	2,535	2,570	307	154	19,889
		平成27年度	13,647	2,527	2,526	301	168	19,169
	増減率	平成22年/17年	1.9%	0.2%	0.9%	−7.0%	−0.6%	1.4%
		平成27年/22年	−4.7%	−0.3%	−1.7%	−2.0%	9.1%	−3.6%
		平成27年/17年	−2.9%	−0.1%	−0.8%	−8.8%	8.4%	−2.3%
林業経営体		平成17年度	1,120	1,094	1,573	293	179	4,259
		平成22年度	663	711	1,132	221	154	2,881
		平成27年度	483	447	742	162	130	1,964
	増減率	平成22年/17年	−40.8%	−35.0%	−28.0%	−24.6%	−14.0%	−32.4%
		平成27年/22年	−27.1%	−37.1%	−34.5%	−26.7%	−15.6%	−31.8%
		平成27年/17年	−56.9%	−59.1%	−52.8%	−44.7%	−27.4%	−53.9%

（出典：農林水産省「農林業センサス」）

1）保有山林面積が1ha以上の世帯

2）次のいずれかに該当。①保有山林面積が3ha以上かつ過去5年間に林業作業を行うか森林経営計画又は林業施業計画を策定している、②受託を受けて育林を行っている、③委託や立木の購入により過去1年間に200㎥以上の素材生産を行っている

【資料17】

静岡県経済産業ビジョン

２０１８～２０２１

静岡県経済産業部

目　次

「静岡県経済産業ビジョン２０１８～２０２１」の概要

Ⅰ　策定の趣旨　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　1
Ⅱ　計画の期間　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　1
Ⅲ　計画の実施　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　1
Ⅳ　計画の位置付け　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　1

成長戦略編

Ⅰ　本県経済・産業の現状と課題　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　3
Ⅱ　目指す「静岡県の姿」　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　9
Ⅲ　「静岡県の姿」を実現する戦略展開の方針　・・・・・・・・・・・・　9

分野編

就業支援編

基本方向　活躍しやすい環境の整備と働き方改革　・・・・・・・・・・・　27
（1）　県内産業の成長を担う人材の確保　・・・・・・・・・・・・・・・　27
（2）　高度な知識と技術を持つ人材の育成　・・・・・・・・・・・・・・　33
（3）　誰もがいきいきと働ける環境づくり　・・・・・・・・・・・・・・　37
（4）　郷土を担う子どもたちの「生きる道」としての仕事を学ぶ環境づくり　43

産業革新編

基本方向１　静岡県産業成長戦略の推進　・・・・・・・・・・・・・・・　45
（1）　地域企業の事業活動の活発化　・・・・・・・・・・・・・・・・・　45
基本方向２　ふじのくにマーケティング戦略の推進　・・・・・・・・・・　48
（1）　市場と生産が結びついた「ふじのくにマーケティング戦略」の推進・　48
基本方向３　静岡県の試験研究機関に係る基本戦略の推進　・・・・・・　53
（1）　本県産業の成長に貢献する「研究開発」　・・・・・・・・・・・・　53
（2）　中小企業や農林水産業の「競争力強化」のための「技術支援」　・・　56
（3）　「安全」で「安心」な県民生活を着実に実現するための「調査研究」　58
基本方向４　ふじのくにエネルギー総合戦略の推進　・・・・・・・・・・　59
（1）　地域資源の活用による多様な分散型エネルギーの導入拡大　・・・　59
（2）　建築物の省エネ、ライフスタイル・ビジネススタイルの変革　・・　65
（3）　エネルギー産業の振興　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　68

商工業編

基本方向１　次世代産業の創出と展開　・・・・・・・・・・・・・・・・・　73
（1）　静岡新産業集積クラスターの推進　・・・・・・・・・・・・・・・　73
（2）　新たな成長産業の育成　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　79
（3）　企業誘致・定着の推進や海外市場の取り込みによる企業の活性化　・　87
基本方向２　富を支える地域産業の振興　・・・・・・・・・・・・・・・・　91
（1）　地域経済を牽引する企業の成長促進　・・・・・・・・・・・・・・・　91
（2）　中小企業の経営力向上と経営基盤強化　・・・・・・・・・・・・・・　94
（3）　地域を支える魅力ある商業とサービス産業の振興　・・・・・・・・　103

農業・農村編

基本方向１　ＡＯＩ（アグリオープンイノベーション）プロジェクトの推進　109
（1）　ＡＯＩ（アグリオープンイノベーション）プロジェクトの推進　・　109
基本方向２　多様な人々が活躍する世界水準の農芸品の生産力強化　・・　112
（1）　多彩な農芸品の生産拡大　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　112
（2）　次代を担う農業経営体の育成　・・・・・・・・・・・・・・・・・・　119
（3）　農業の競争力強化と持続性を確保する基盤整備　・・・・・・・・・　122
（4）　市場と生産が結びついた「ふじのくにマーケティング戦略」の推進　・　125
基本方向３　環境と調和し、人々を惹きつける都づくりと農山村の再生　・　131
（1）　「食」、「茶」、「花」の都づくり　・・・・・・・・・・・・・・・・・　131
（2）　美しく活力のある農山村の創造　・・・・・・・・・・・・・・・・・　136

森林・林業編

基本方向１　森林資源の循環利用による林業の成長産業化　・・・・・・・・　143
（1）　県産材の安定供給体制の確立　・・・・・・・・・・・・・・・・・・　143
（2）　ビジネス林業の定着　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　148
（3）　県産材製品の需要拡大　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　151
基本方向２　森林の多面的機能の維持・増進　・・・・・・・・・・・・・・　155
（1）　森林の適正な整備　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　155
（2）　森林の適正な保全　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　157
（3）　魅力と強みを活かした山村づくり　・・・・・・・・・・・・・・・・　162
基本方向３　県民総参加による持続的で魅力的な森づくり活動の推進　・　165
（1）　県民の理解と参加の促進　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　165

水産業編

基本方向　水産王国静岡の持続的発展の推進　・・・・・・・・・・・・・・　171
（1）　生産・流通・消費の好循環を生み出す水産振興対策の推進　・・・　171
（2）　海・川の恵みの持続的な利用の確保　・・・・・・・・・・・・・・・　176
（3）　次世代の漁業を担う人・組織づくり　・・・・・・・・・・・・・・・　179
（4）　水産物の資源管理・資源増殖等を推進する先端的な研究開発の推進・　182

数値目標一覧 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 185

データ編

Ⅰ　経済産業の概況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 205
Ⅱ　雇用・就業環境の現状 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 219
Ⅲ　商工業の現状 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 231
Ⅳ　農業・農村の現状 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 241
Ⅴ　森林・林業の現状 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 249
Ⅵ　水産業の現状 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 259
Ⅶ　エネルギーの現状 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 269

「静岡県経済産業ビジョン2018～2021」の概要

Ⅰ　策定の趣旨

県は、2011 年（平成 23 年）３月に、「静岡県の地域資源の活用と新しい価値の創造によるものづくりの振興に関する条例（一流のものづくり・ものづかい振興条例）」を制定するとともに、同条例第９条に規定する実施計画として、「静岡県経済産業ビジョン」を策定しました。

経済産業ビジョン策定後の本県を取り巻く社会経済情勢は、人口減少・少子高齢化の進行による人手不足の顕在化や、ＩｏＴ、人工知能（ＡＩ）、ロボット技術などに代表されるテクノロジーの急速な進展、従来のガソリン車からｓら電気自動車（ＥＶ）など次世代自動車への世界的なシフト、東日本大震災後のエネルギーを取り巻く環境の激変など、大きな転換点を迎えています。

こうした環境の変化への対応を図り、静岡県の新ビジョン（総合計画）を着実に実施するため、「静岡県経済産業ビジョン2018～2021」を策定します。

Ⅱ　計画の期間

2018 年度から 2021 年度までの４年間とします。

Ⅲ　計画の実施

施策の実施に当たっては、県の各部局と連携しながら、商工業や農林水産業、労働関係の各団体や市町、企業、大学、県民の方々と協働して取り組みます。

なお、社会経済情勢の変化を踏まえた最適な手法の選択や施策の重点化を図るなど、計画の不断の見直しを実施します。

Ⅳ　計画の位置付け

- 「静岡県の新ビジョン　富国有徳の美しい“ふじのくに”の人づくり・富づくり」（静岡県総合計画）基本計画の実施計画
- 「一流のものづくり・ものづかい振興条例」第９条に規定する実施計画
- 「静岡県中小企業・小規模企業振興基本条例」第 12 条に規定する計画（商工業編のみ）
- 「静岡県民の豊かな暮らしを支える食と農の基本条例」第９条に規定する基本計画（農業・農村編のみ）
- 「静岡県森林と県民の共生に関する条例」第 11 条に規定する計画（森林・林業編のみ）
- 「地域資源を活用した農林漁業者等による新事業の創出等及び地域の農林水産物の利用促進に関する法律（六次産業化・地産地消法）」第 41 条に基づく地域の農林水産物の利用の促進についての計画（農業・農村編、水産業編のうち六次産業化・地産地消法第 40 条の基本方針に規定する事項のみ）

【総合計画と経済産業ビジョンの位置づけ】

静岡県総合計画・静岡県の新ビジョン
富国有徳の「美しい"ふじのくに"」の人づくり・富づくり

【基本構想】

第１章　新ビジョンの位置付け
第２章　時代潮流
第３章　本県が直面する課題
第４章　新ビジョンの基本方針
第５章　政策体系と行政経営
第６章　地域づくりの基本方向

＜基本理念＞
富国有徳の「美しい"ふじのくに"」づくり
～静岡県を*Dreams come true in Japan*（ドリームズ　カム　トゥルー　イン　ジャパン）の拠点に～

＜目指す姿＞
「県民幸福度」の最大化
＜生まれてよし 老いてよし＞　＜生んでよし 育ててよし＞
＜学んでよし 働いてよし＞　＜住んでよし 訪れてよし＞

【基本計画】

Ⅰ　政策体系
1　命を守る安全な地域づくり
2　安心して暮らせる医療・福祉の充実
3　子どもが健やかに学び育つ社会の形成
4　誰もが活躍できる社会の実現
5　富をつくる産業の展開
6　多彩なライフスタイルの提案
7　"ふじのくに"の魅力の向上と発信
8　世界の人々との交流の拡大

Ⅱ　政策の実効性を高める行政経営

Ⅲ　地域の目指す姿

経済産業分野の主な取組

１－２　防災・減災対策の強化
（１）地震・津波・火山災害対策
（２）風水害・土砂災害対策
４－１　活躍しやすい環境の整備と働き方改革
（１）産業人材の確保・育成
（２）誰もがいきいきと働ける環境づくり
５－１　次世代産業の創出と展開
（１）静岡新産業集積クラスターの推進
（２）新たな成長産業の育成
（３）企業誘致・定着の推進
５－２　富を支える地域産業の振興
（１）地域経済を牽引する企業の成長促進
（２）中小企業の経営力向上
（３）中小企業の経営基盤強化
（４）地域を支える魅力ある商業とサービス産業の振興
５－３　農林水産業の競争力の強化
（１）世界水準の農芸品の生産力強化
（２）森林資源の循環利用による林業の成長産業化
（３）水産王国静岡の持続的発展の推進
（４）市場と生産が結びついたマーケティング戦略の推進
６－１　魅力的なライフスタイルの創出
（２）人々を惹きつける都づくり
（３）美しく活力のある農山村の創造
６－３　エネルギーの地産地消
（１）再生可能エネルギーの導入促進
（２）省エネルギー社会の形成
（３）エネルギー産業の振興
７－３　美しい景観の創造と自然との共生
（１）豊かな自然、文化、歴史に根ざした美しい景観の形成
（３）森林との共生の推進
８－２　地域外交の深化と通商の実践
（３）世界に開かれた通商の実践

静岡県経済産業ビジョン
2018～2021

○ 成長戦略編
○ 就業支援編
○ 産業革新編
○ 商工業編
○ 農業・農村編
○ 森林・林業編
○ 水産業編

分野編【農業・農村編】

基本方向１　ＡＯＩ（アグリオープンイノベーション）プロジェクトの推進

ＡＩ（人工知能）、ＡＩ（農業情報科学）、ＩｏＴなど科学技術の急速な発展により、農業は生産性革命というべき大きな変革期を迎えています。

この大変革に対応し、農・食・健を総合した科学技術・産業において、産学官金・農商工連携のオープンイノベーションにより、農業を軸とした関連産業のビジネス展開を促進します。

(1) ＡＯＩ（アグリオープンイノベーション）プロジェクトの推進

≪現状・課題≫

① 農業の生産性向上と関連産業のビジネス展開の促進

・多彩な農畜産物が生産される場の力を活かし、本県農業の生産革新を促進するため、ＩＣＴをはじめとする先端的な科学技術やものづくり技術の農業分野への応用が期待されています。

② ＡＩ学習支援システムの開発と技術継承

・生産者の高齢化に伴い、長年の経験から蓄積されてきた栽培技術が失われる危険性があるため、ＩＣＴを活用した技術継承システムの開発が必要です。

③ 農業用ロボット開発の促進

・農業の労働生産性を高めるため、農作業の省力化や合理化を飛躍的に進める技術開発が必要です。

≪取組の方向≫

① 農業の生産性向上と関連産業のビジネス展開の促進

・ＡＯＩ－ＰＡＲＣ（アオイパーク）を拠点とした、産学官金の多様な参画を得たオープンイノベーション（ＡＯＩフォーラム）により、農業の生産性向上と、農・食・健が連携する関連産業のビジネス展開を促進します。

② ＡＩ学習支援システムの開発と技術継承

・栽培技術を「見える化」するＡＩ（農業情報科学：Agri-Info science）による学習支援システムの充実と産地導入に取り組みます。

③ 農業用ロボット開発の促進

・農業、製造業といった業種の枠組みを超えた技術知見を結集し、農作業の省力化、自動化、軽労力化を可能にする農業用ロボットの研究・開発を支援します。

≪数値目標≫

区分	指標名	現状値	目標値	総合計画
成果指標	ＡＯＩプロジェクト事業化件数	－	(2018～2021年度) 累計22件	○
活動指標	ＡＯＩフォーラム参画会員数	－	(2021年度) 200会員	○
	ＡＩ学習支援システム導入産地数	(2015年度) 2産地	(2021年度) 6産地	
	農業用ロボットの開発に係るマッチング件数	－	(2021年度まで) 累計25件	

基本方向２　　多様な人々が活躍する世界水準の農芸品の生産力強化

本県では、温暖な気候や豊かな自然を活かし、多彩で高品質な農産物が生産されていますが、国内外との競争を見据えた生産性、収益性の向上や、就業者の減少や高齢化への対応、海外市場の取り込みなどが課題となっています。

このため、農地集積・集約化、農業経営体の育成、農業生産基盤の整備、マーケットインの考え方に基づく生産体制の確立などにより、農業の生産力強化を図ります。

(1) 多彩な農芸品の生産拡大

≪現状・課題≫

① 土地利用型農業の生産性向上と規模拡大

ア 本県の担い手への農地集積率は 42.3%に留まっており、水田における担い手への農地集積は進んでいるものの、本県耕地面積の 40%を占める樹園地の農地集積が進んでいません。

イ 荒廃農地は、平成 21 年度から 28 年度までに 3,536ha を解消しましたが、新規発生が上回ったため、平成 28 年度で 5,738ha 存在しています。

ウ 本県の耕地利用率は平成 27 年度で 94%に留まっており、米の需要が年々減少していく中で、露地野菜等の作付拡大による水田の有効活用が求められています。

エ 国内外におけるお茶の消費構造が変化する中、本県の茶生産は依然としてリーフ向けの煎茶生産が主体であり、需要に即した生産体制が構築されていません。

オ 果樹産地では、栽培面積の減少による供給量不足や、農繁期の労力不足が懸念されており、販売面では消費者ニーズの多様化への対応が求められています。

カ 近年増加している企業や大規模農業法人の参入に対応するため、ワンストップ相談窓口や農地の確保に向けた支援体制の整備が必要となっています。

② 次世代型大規模施設園芸や畜産クラスターの整備

ア 国内の施設野菜の需要が伸びる一方、本県の施設野菜の栽培面積は伸びていないため、市場ニーズの高い果物野菜、いちご等の生産拡大が必要となっています。

イ 施設面積の拡大と合わせて、施設野菜や花きの生産性向上が必要となっています。

ウ 国内における畜産物の需要が伸びる一方、本県の畜産物生産量は増えていません。

エ 畜産経営の安定的な発展や畜産物の生産拡大には、家畜伝染病の予防・まん延防止と地域環境に調和した畜産業の確立が必要です。

③ ＧＡＰ（農業生産工程管理）の推進

ア 農業者がＧＡＰ認証を取得する必要性は高まっていますが、生産現場では国際水準ＧＡＰの指導者が不足しており、農業者が十分な指導を受けることができる体制になっていません。また、ＧＡＰ認証取得は、費用がかかる上、農業者・流通業者・消費者のＧＡＰへの理解が一部に限られていることから、取得が進んでいません。

≪取組の方向≫

① 土地利用型農業の生産性向上と規模拡大

ア 農業生産を維持・発展させるため、地域の中心となる経営体への農地の集積・集約化により、農地の有効活用を推進します。

イ 再生可能な荒廃農地の再生利用を支援する一方、再生困難なものは非農地化を推進します。また、荒廃化のおそれがある農地は農地中間管理事業による借受等により予防を図ります。

ウ 水稲収穫後の水田を有効活用し、省力・機械化技術の導入・普及により、加工・業務用需

(2) 次代を担う農業経営体の育成

≪現状・課題≫

○　高度農業人材の育成と雇用対策

ア　担い手の高齢化や廃業が進む一方、農業経営の法人化や規模拡大により人材ニーズが変化したことにより、現場の即戦力となる高い技術や経営管理能力を持った人材が求められています。

イ　農業経営に参画する女性の比率が低く、女性の能力が十分に活用されていません。

ウ　農業経営体の経営計画実現のため、企業的経営を志向するビジネス経営体や認定農業者の経営の発展段階に応じたきめ細かな対応が求められています。

エ　建設業や製造業など多くの産業で労働力不足が広がる中で、農繁期の短期雇用の確保が厳しい状況にあります。

≪取組の方向≫

○　高度農業人材の育成と雇用対策

ア　市町や関係団体等と連携し、技術習得や農業法人への就職支援、就農後のフォローアップなどの実施により、青年の新規就農と定着を支援します。
高度な実践力と豊かな創造力を兼ね備えた農林業人材を養成するため、農林大学校の専門職大学への移行を進めます。

イ　農業での起業、就業を目指す女性層の拡大や経営への積極的な参画を支援し、女性経営者を育成します。

ウ　ビジネス経営体や認定農業者の育成、それを支える経営幹部や後継者となる人材の養成、経営計画の実現や経営の安定化に向けた支援の充実を図ります。

エ　女性・高齢者や障害のある人など多様な人材の活用により、労働力確保に向けた取組を支援していきます。

≪数値目標≫

区分	指標名	現状値	目標値	総合計画
成果指標	ビジネス経営体販売額	(2016年度) 821億円	(2021年度) 1,200億円	
活動指標	農業法人数	(2016年度) 788法人	(2021年度) 1,000法人	○
	新規農業就業者数	(2016年度) 334人/年	(2021年度) 340人/年	
	農業経営に参加する女性の比率	(2016年度) 4.7%	(2021年度) 7.0%	

≪主な取組≫

① 高度農業人材の育成と雇用対策

ア 次代の農業経営を担う人材育成の強化

・ 生産技術・経営ノウハウを習得する研修や就農計画の作成、資金支援により、非農家出身者（ニューファーマー）の自立就農を支援するとともに、農家後継者の新分野進出を促進します。

・ 農業体験やマッチングにより、農業法人等への就職を促進するとともに、雇用の安定確保を支援します。

・ 農林大学校の専門職大学への移行により、次代の農林業を支える人材を養成するとともに、社会人教育を充実します。

取組	2018（H30）	2019（H31）	2020（H32）	2021（H33）
ニューファーマー等の確保・育成	ニューファーマー養成に向けた研修の実施			
	研修参加者 25人/年	研修参加者 25人/年	研修参加者 25人/年	研修参加者 25人/年
農業法人等への就職促進	農業体験研修や農業法人とのマッチング等の実施			
	農業体験参加者 60人/年	農業体験参加者 60人/年	農業体験参加者 60人/年	農業体験参加者 60人/年
農林大学校の専門職大学への移行	開学準備		開学	
			入学者125人/年	入学者125人/年

イ 女性経営者の育成

・ 女性農業経営者の活動状況の情報発信や、若手女性農業者のネットワーク化を推進します。

・ 農業に関心のある女性に対し、就農に向けた意識醸成や就労意欲の喚起、働きやすい環境づくりへの支援を行います。

・ 農山漁村地域で活躍する女性農業者リーダーを育成するための研修や交流会を開催します。

取組	2018（H30）	2019（H31）	2020（H32）	2021（H33）
若手女性農業者のネットワークの構築		ネットワーク参画者数		
	40人	60人	80人	100人
女性農業者リーダーの育成		女性農業者の公職委嘱数		
	135	140	145	150

ウ コンサルティング手法を取り入れたビジネス経営体等の支援

・ ビジネス経営体を伴走支援する専任チームにより、コンサルティング活動を中心とした支援を強化します。

・ 民間専門家の派遣により、法人化、経営継承、労務管理などの企業的経営管理手法やマ

ーケティング手法、生産工程管理などの導入を支援します。

- 経営を学ぶ講座の開催(経営戦略講座やアグリビジネス実践スクール、ふじのくにアグリカレッジ)により、経営計画の作成や計画の実行支援、経営幹部や後継者等の資質向上を図ります。
- 全国農業担い手サミットの本県開催を契機として、認定農業者等の経営発展への意欲向上や組織活動の活性化を図ります。
- 農業経営体の経営発展に向けて、施設・機械の整備に必要な制度資金の活用を支援します。
- 農業保険法の中に新たに創設された収入保険制度を周知し、セーフティーネットの強化を図ります。

取組	2018(H30)	2019(H31)	2020(H32)	2021(H33)
経営体支援チームによる伴走型経営支援		巡回支援する経営体数		
	1,000経営体/年	1,000経営体/年	1,000経営体/年	1,000経営体/年
専門家派遣による企業的経営管理手法等の導入支援		専門家派遣回数		
	150回/年	150回/年	150回/年	150回/年
ビジネス経営体等の経営発展及び幹部人材の養成支援		経営講座の受講者数		
	110人/年	110人/年	110人/年	110人/年
認定農業者等の活動支援	全国担い手サミットプレイベントの開催	全国担い手サミットの開催	地域サミットの開催	
	参加者100人/年	参加者2,000人/年	参加者200人/年	参加者200人/年

エ　多様な人材の活用

- 求人情報の提供や就労体験機会の提供など、女性や高齢者などの幅広い人材の活用を支援します。
- 雇用を確保するための情報提供や、品目間での労働力を相互補完する取組など、各地区が独自に労働力を確保できる仕組みづくりを支援します。
- 障害のある人が農業や園芸活動に携われるユニバーサル園芸を普及するため、農業経営体への受入促進と、農業と福祉分野の連携を推進します。

取組	2018(H30)	2019(H31)	2020(H32)	2021(H33)
幅広い人材の確保支援	短期雇用の確保に向けた取組地区数	モデル地区における自立的な労働力確保の取組支援		
	8地区/年	8地区/年	8地区/年	8地区/年
ユニバーサル園芸の普及	障害のある人を受け入れる農業経営体数			
	40経営体/年	45経営体/年	50経営体/年	55経営体/年

分 野 編【 森 林・林 業 編 】

基本方向１　　森林資源の循環利用による林業の成長産業化

県内の木材生産量は、県産材の需要と供給を一体的に創造する「ふじのくに森林・林業再生プロジェクト」に取り組んだ結果、平成 22 年を底にＶ字回復しましたが、ニーズに応じた安定供給体制の確立が課題となっています。

このため、県産材の安定供給体制の確立や、ビジネス林業の定着、県産材製品の需要拡大により、森林資源の循環利用による林業の成長産業化を進めます。

(1) 県産材の安定供給体制の確立

≪現状・課題≫

①　低コスト生産システム

・木材生産量は、「ふじのくに森林・林業再生プロジェクト」に取り組んだ結果、19 年ぶりに 40 万㎥を超えましたが、低コストで安定して丸太を生産するシステムが定着しておらず、需要者のニーズに対し年間を通じて安定した丸太の供給ができていません。

②　主伐と再造林

・人工林は、林業の採算性の低下から主伐及び再造林面積が年々減少し、20 年生以下の若齢林が極端に少ない偏った林齢構成となっています。一方、植栽時期を選ばないコンテナ苗や、成長が速いエリートツリー、設置費が安価な斜め張りシカ防護柵など、造林コストの低下に向けた新たな技術が開発されています。

③　県産材の流通

・製材工場や合板工場では、定時・定量な丸太の安定供給が求められています。そこで、丸太供給協定の締結促進や原木選別評価士の養成支援などに取り組んだ結果、市場を介さずに丸太を山から工場に直接運搬する「直送取引」が増加しています。しかし、合板用丸太の供給量は、平成 28 年度時点で丸太供給協定の約７割に留まっています。

④　森林認証材の供給

・県内には、全国４位を誇る約５万 8,000ha の森林認証林があり、約 10 万㎥の認証材が生産されています。東京 2020 オリンピック・パラリンピックでは、持続可能性に配慮した材料の調達コードが定められ、木材においては森林認証材がこれに合致するものとして明記されました。これをきっかけに、国内における森林認証制度の認知度が大きく向上し、今後、森林認証材の需要の拡大が見込まれています。

≪取組の方向≫

①　低コスト生産システム

・森林整備の集約化、林内路網の整備、高性能林業機械の導入などにより、低コスト生産システムの定着を促進します。

②　主伐と再造林

・低コスト主伐・再造林システムの確立により、主伐と再造林を促進します。

③　県産材の流通

・木材生産、流通、加工に関わるすべての関係者が参加し、情報の共有化を行うプラットフォームの構築により、県産材の流通の最適化を図ります。

④　森林認証材の供給

・森林認証林の拡大により、森林認証材の安定供給体制を構築します。

解決への取組を支援します。

- ビジネス林業に取り組んでいる林業経営体に対し、更なる生産性の向上に向けたステップアップを支援します。
- 林業経営体に対し、車両系（ハーベスタ又はプロセッサとフォワーダ）や架線系（タワーヤーダとプロセッサ）の生産システムを、森林の立地条件に応じて適切に選択するよう促します。

取組	2018(H30)	2019(H31)	2020(H32)	2021(H33)
労働生産性の向上	ビジネス林業の定着を図る事業体数(累計)			
	27事業体	38事業体	49事業体	60事業体

ウ　就労環境の向上

- 改善計画の認定を通じて、林業経営体の雇用環境などの向上の取組を支援します。
- 林業経営体の社会保障の充実や労働安全の向上に対する取組を支援します。

取組	2018(H30)	2019(H31)	2020(H32)	2021(H33)
就労環境の向上	林業経営体の雇用環境改善の取組を支援			

②　森林技術者の育成・確保

ア　林業への新規就業の促進

- 静岡県林業労働力確保支援センターと連携し、林業の仕事の内容や就業条件などを情報提供するガイダンスや、林業体験会を開催します。
- 林業経営体に対し、就業を希望する者の試用雇用を支援します。

取組	2018(H30)	2019(H31)	2020(H32)	2021(H33)
林業への新規就業の促進	静岡県林業労働力確保支援センターの支援			
	林業への新規就業者数			
	100人	100人	100人	100人

イ　農林大学校における人材の育成

- 森林・林業に関する幅広い知識を習得し、森林の多面的機能の向上と持続的な林業経営に貢献できる人材を育成します。
- 農林大学校学生に対し、林業への就業に向けた研修の費用を支援します。
- 農林大学校を、森林・林業に関する幅広い専門的な知識と理論に裏付けられた高度な実践力、課題対応能力を有する人材を育成する専門職大学に移行します。

取組	2018(H30)	2019(H31)	2020(H32)	2021(H33)
農林大学校における人材の育成	専門職大学への移行準備		専門職大学の開学	

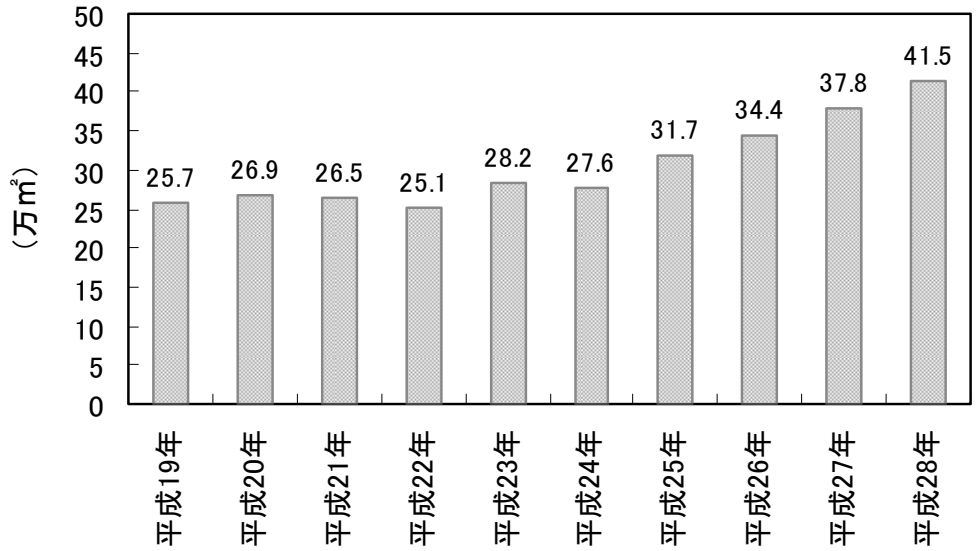
ウ　森林技術者などの能力向上

- 木材生産などの林業技術を指導できる人材を育成します。
- 技術者の林業技術と現場管理能力の習得を指導する全国森林組合連合会の県内での取組を支援します。
- 林業経営体の職員に対し、森林ＧＩＳやオープンデータの活用と、効率的な木材生産に必要な計画の作成を支援します（森林施業プランナー）。
- 丈夫で簡易な路網を作設できるオペレーターや設計ができる技術者を育成します。

取組	2018（H30）	2019（H31）	2020（H32）	2021（H33）
森林技術者などの能力向上		林業技術・知識の習得を支援		
	適正な森林管理を担う森林技術者数（累計）			
	500人	500人	500人	500人

【資料 18】

静岡県における木材生産量の推移



静岡県における木材生産量の推移

（出典：農林水産省「木材統計」（平成24年まで）、
静岡県森林整備課調べ（平成25年から））

【資料19】

静岡県立農林環境専門職大学（仮称）及び
静岡県立農林環境専門職大学短期大学部（仮称）の
卒業生に対する企業等の採用意向に関するアンケート調査報告

平成３０年９月

一般財団法人　日本開発構想研究所

静岡県立農林環境専門職大学（仮称）及び静岡県立農林環境専門職大学
短期大学部（仮称）の卒業生に対する企業等の採用意向に関するアンケート調査報告

１．調査概要

(1)　調査目的

2020 年 4 月に予定している静岡県立農林環境専門職大学（仮称）及び静岡県立農林環境専門職大学短期大学部（仮称）の開設に向けて、卒業生の就職が見込まれる、1 都 1 道 2 府 40 県（静岡県、愛知県、岐阜県、三重県、東京都、神奈川県、山梨県、北海道、青森県、岩手県、宮城県、山形県、福島県、群馬県、栃木県、茨城県、埼玉県、千葉県、新潟県、石川県、福井県、富山県、長野県、滋賀県、京都府、大阪府、奈良県、和歌山県、兵庫県、岡山県、広島県、山口県、島根県、鳥取県、香川県、愛媛県、徳島県、高知県、福岡県、大分県、佐賀県、熊本県、長崎県、鹿児島県）に所在する企業等の採用担当者にアンケートを実施し、静岡県立農林環境専門職大学（仮称）及び静岡県立農林環境専門職大学短期大学部（仮称）の卒業生に対する企業等の採用意向を把握することを目的とする。

(2)　調査対象

卒業生の就職が見込まれる農林業に関わる企業等を中心とした 1,890 社の採用担当者にアンケートへの協力を依頼し、526 件の有効回答があった。

(3)　調査方法

卒業生の就職が見込まれる農林業に関わる企業等を中心とした 1,890 社の採用担当者にアンケート用紙及び静岡県立農林環境専門職大学（仮称）及び静岡県立農林環境専門職大学短期大学部（仮称）の概要を示したリーフレットを送付し、アンケートを実施した。回答は一般財団法人日本開発構想研究所へ企業等から直接郵送。

集計結果より、静岡県立農林環境専門職大学（仮称）及び静岡県立農林環境専門職大学短期大学部（仮称）の卒業生に対する採用意向を分析した。

(4)　調査実施期間

平成 30 年 7 月～平成 30 年 8 月

(5)　有効回収率等

配布数　　：1,890 社
有効回答数：526 件
有効回収率：約 27.8%

※設置を構想している静岡県立農林環境専門職大学及び静岡県立農林環境専門職大学短期大学部は仮称であるが、本文中ではその旨の表示を省略した。

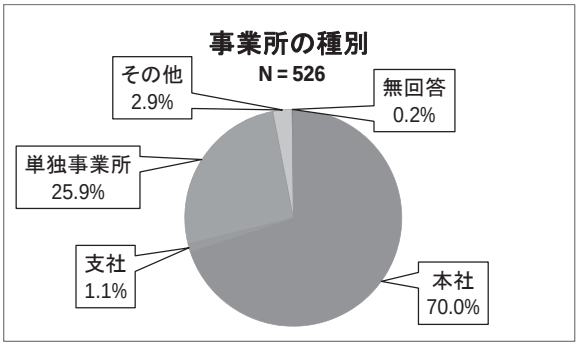
２．調査結果

(1) 事業所の種別について

事業所の種別について調査した結果、回答のあった企業等 526 件のうち、「本社」が 368 件（70.0%）と最も多く、次いで「単独事業所」136 件（25.9%)、「その他」15 件（2.9%)、「支社」6 件（1.1%）の順になっている。　※「無回答」1 件（0.2%）

事業所の種別

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	本社	368	70.0
2	支社	6	1.1
3	単独事業所	136	25.9
4	その他	15	2.9
	無回答	1	0.2
	N（%ベース）	526	100

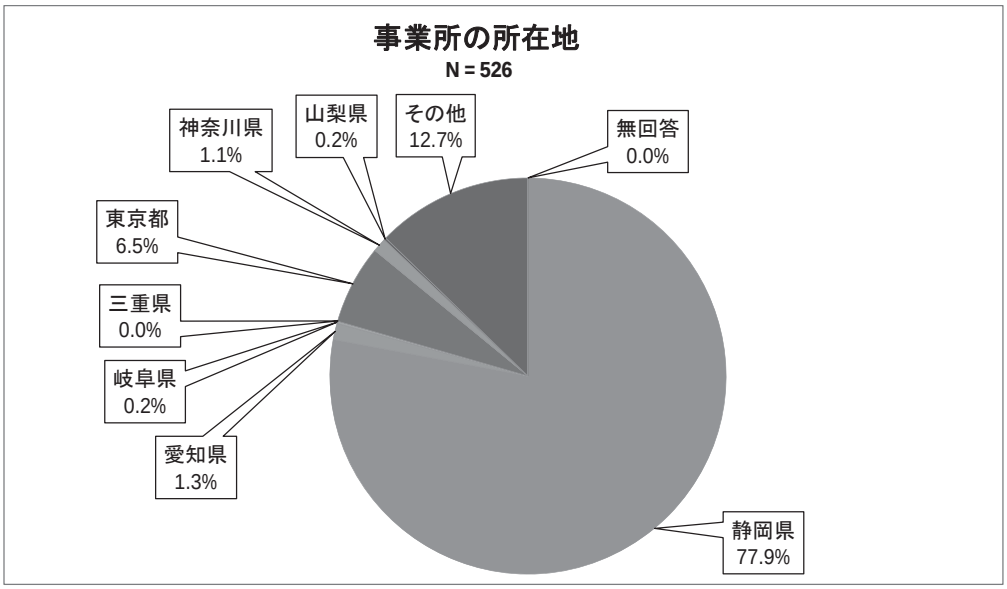


（2）事業所の所在地について

事業所の所在地について調査した結果、回答のあった企業等 526 件のうち、「静岡県」が 410 件（77.9%）と最も多く、次いで「その他」67 件（12.7%）、「東京都」34 件（6.5%）、「愛知県」7 件（1.3%）、「神奈川県」6 件（1.1%）、「岐阜県」1 件（0.2%）、「山梨県」1 件（0.2%）の順になっている。　※「無回答」0 件（0.0%）

事業所の所在地

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	静岡県	410	77.9
2	愛知県	7	1.3
3	岐阜県	1	0.2
4	三重県	0	0.0
5	東京都	34	6.5
6	神奈川県	6	1.1
7	山梨県	1	0.2
8	その他	67	12.7
	無回答	0	0.0
	N（%ベース）	526	100

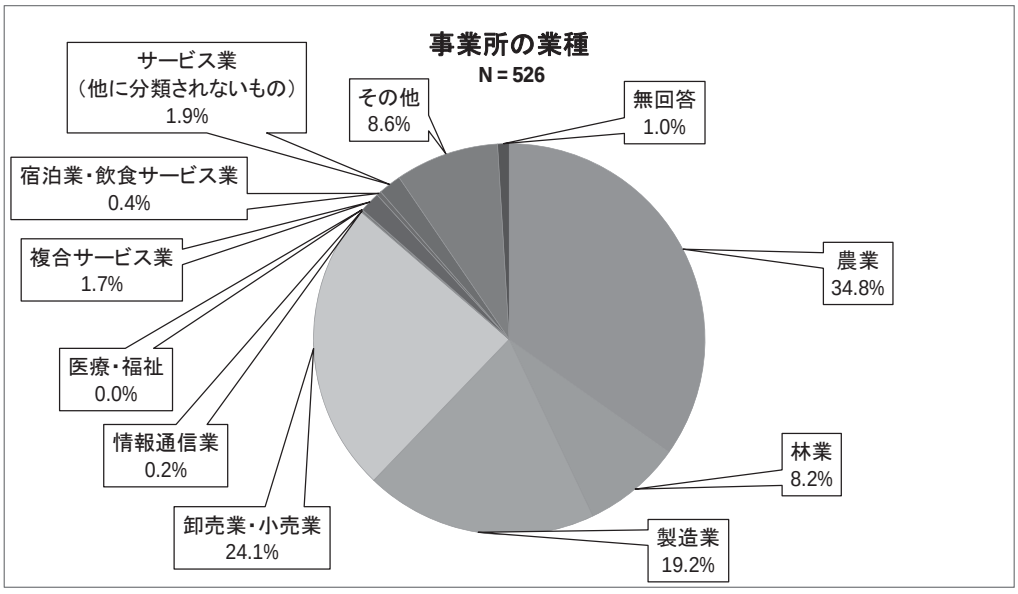


(3) 事業所の業種について

事業所の業種について調査した結果、回答のあった企業等 526 件のうち、「農業」が 183 件（34.8%）と最も多く、次いで「卸売業・小売業」127 件（24.1%）、「製造業」101 件（19.2%）、「その他」45 件（8.6%）、「林業」43 件（8.2%）、「サービス業(他に分類されないもの)」10 件（1.9%）、「複合サービス業」9 件（1.7%）、「宿泊業・飲食サービス業」2 件（0.4%）、「情報通信業」1 件（0.2%）の順になっている。　※「無回答」5 件（1.0%）

事業所の業種

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	農業	183	34.8
2	林業	43	8.2
3	製造業	101	19.2
4	卸売業・小売業	127	24.1
5	情報通信業	1	0.2
6	医療・福祉	0	0.0
7	複合サービス業	9	1.7
8	宿泊業・飲食サービス業	2	0.4
9	サービス業（他に分類されないもの）	10	1.9
10	その他	45	8.6
	無回答	5	1.0
	N（%ﾍﾞｰｽ）	526	100

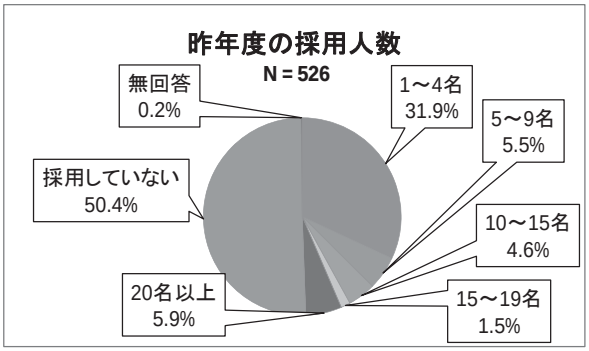


（4）昨年度の採用人数について

昨年度の採用人数について調査した結果、回答のあった企業等 526 件のうち、「採用していない」が265件（50.4%）と最も多く、次いで「1～4名」が168件（31.9%）、「20名以上」31件（5.9%）、「5～9 名」29 件（5.5%）、「10～15 名」24 件（4.6%）、「15～19 名」8 件（1.5%）の順になっている。　※「無回答」1 件（0.2%）

昨年度の採用人数

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	1～4名	168	31.9
2	5～9名	29	5.5
3	10～15名	24	4.6
4	15～19名	8	1.5
5	20名以上	31	5.9
6	採用していない	265	50.4
	無回答	1	0.2
	N（%ﾍﾞｰｽ）	526	100

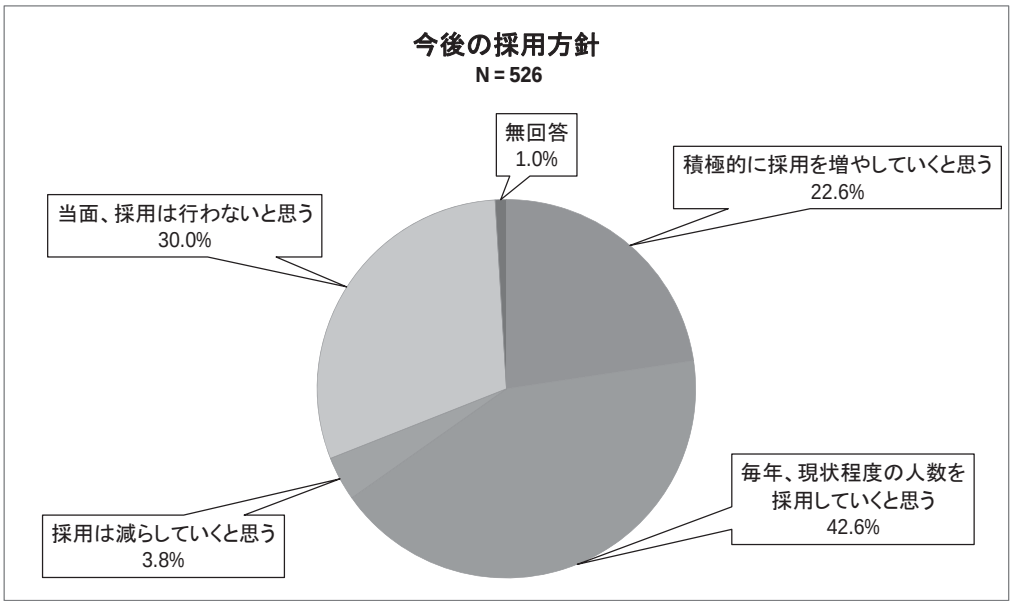


（5）今後の採用方針について

今後の採用方針について調査した結果、回答のあった企業等 526 件のうち、「毎年、現状程度の人数を採用していくと思う」が 224 件（42.6%）と最も多く、次いで「当面、採用は行わないと思う」158 件（30.0%）、「積極的に採用を増やしていくと思う」119 件（22.6%）、「採用は減らしていくと思う」20 件（3.8%）の順になっている。　※「無回答」5 件（1.0%）

今後の採用方針

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	積極的に採用を増やしていくと思う	119	22.6
2	毎年、現状程度の人数を採用していくと思う	224	42.6
3	採用は減らしていくと思う	20	3.8
4	当面、採用は行わないと思う	158	30.0
	無回答	5	1.0
	N（%ﾍﾞｰｽ）	526	100



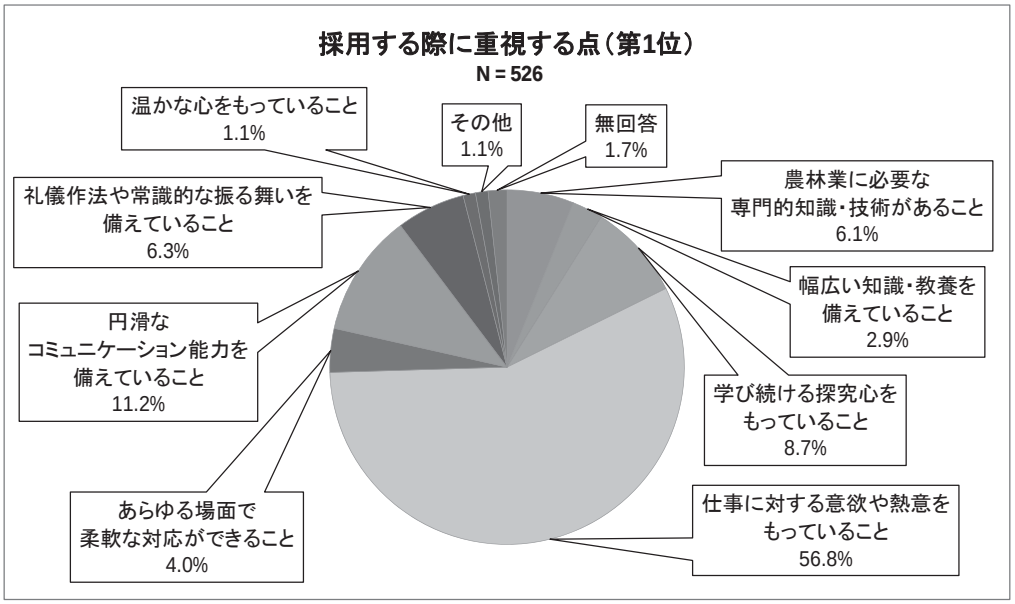
（6）人材採用において重視する点について（複数回答）

6-1　人材採用において重視する点（第 1 位）について

人材採用において重視する点（第 1 位）について調査した結果、回答のあった企業等 526 件のうち、「仕事に対する意欲や熱意をもっていること」が 299 件（56.8%）と最も多く、次いで「円滑なコミュニケーション能力を備えていること」59 件（11.2%）、「学び続ける探究心をもっていること」46 件（8.7%）、「礼儀作法や常識的な振る舞いを備えていること」33 件（6.3%）、「農林業に必要な専門的知識・技術があること」32 件（6.1%）、「あらゆる場面で柔軟な対応ができること」21 件（4.0%）、「幅広い知識・教養を備えていること」15 件（2.9%）、「温かな心をもっていること」6 件（1.1%）、「その他」6 件（1.1%）の順になっている。　※「無回答」9 件（1.7%）

採用する際に重視する点（第1位）

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	農林業に必要な専門的知識・技術があること	32	6.1
2	幅広い知識・教養を備えていること	15	2.9
3	学び続ける探究心をもっていること	46	8.7
4	仕事に対する意欲や熱意をもっていること	299	56.8
5	あらゆる場面で柔軟な対応ができること	21	4.0
6	円滑なコミュニケーション能力を備えていること	59	11.2
7	礼儀作法や常識的な振る舞いを備えていること	33	6.3
8	温かな心をもっていること	6	1.1
9	その他	6	1.1
	無回答	9	1.7
	N（%ベース）	526	100

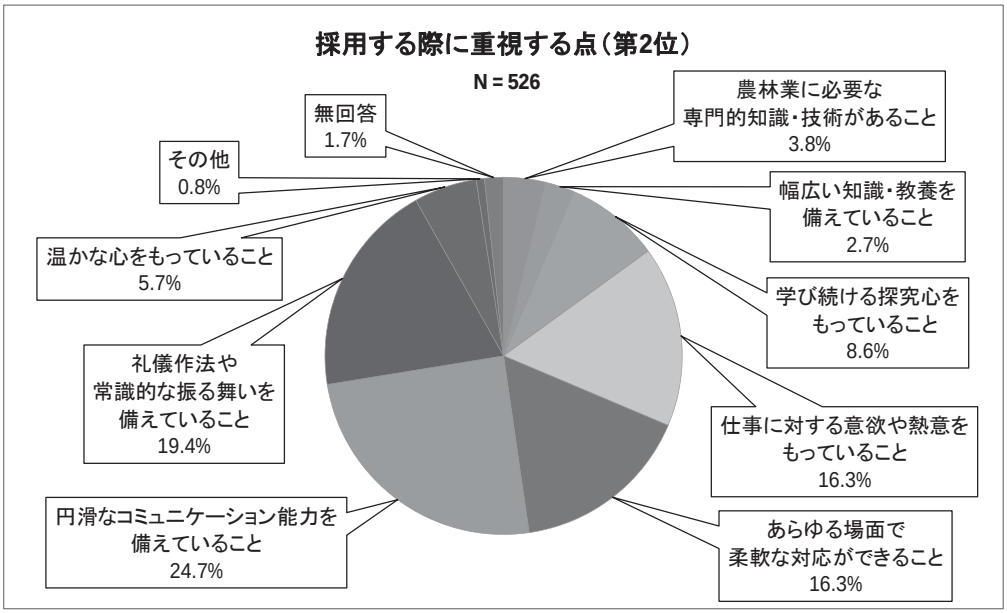


6-2　人材採用において重視する点（第 2 位）について

人材採用において重視する点（第 2 位）について調査した結果、回答のあった企業等 526 件のうち、「円滑なコミュニケーション能力を備えていること」が 130 件（24.7%）と最も多く、次いで「礼儀作法や常識的な振る舞いを備えていること」102 件（19.4%）、「仕事に対する意欲や熱意をもっていること」86 件（16.3%）、「あらゆる場面で柔軟な対応ができること」86 件（16.3%）、「学び続ける探究心をもっていること」45 件（8.6%）、「温かな心をもっていること」30 件（5.7%）、「農林業に必要な専門的知識・技術があること」20 件（3.8%）、「幅広い知識・教養を備えていること」14 件（2.7%）、「その他」4 件（0.8%）の順になっている。　※「無回答」9 件（1.7%）

採用する際に重視する点（第2位）

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	農林業に必要な専門的知識・技術があること	20	3.8
2	幅広い知識・教養を備えていること	14	2.7
3	学び続ける探究心をもっていること	45	8.6
4	仕事に対する意欲や熱意をもっていること	86	16.3
5	あらゆる場面で柔軟な対応ができること	86	16.3
6	円滑なコミュニケーション能力を備えていること	130	24.7
7	礼儀作法や常識的な振る舞いを備えていること	102	19.4
8	温かな心をもっていること	30	5.7
9	その他	4	0.8
	無回答	9	1.7
	N（%ﾍﾞｰｽ）	526	100



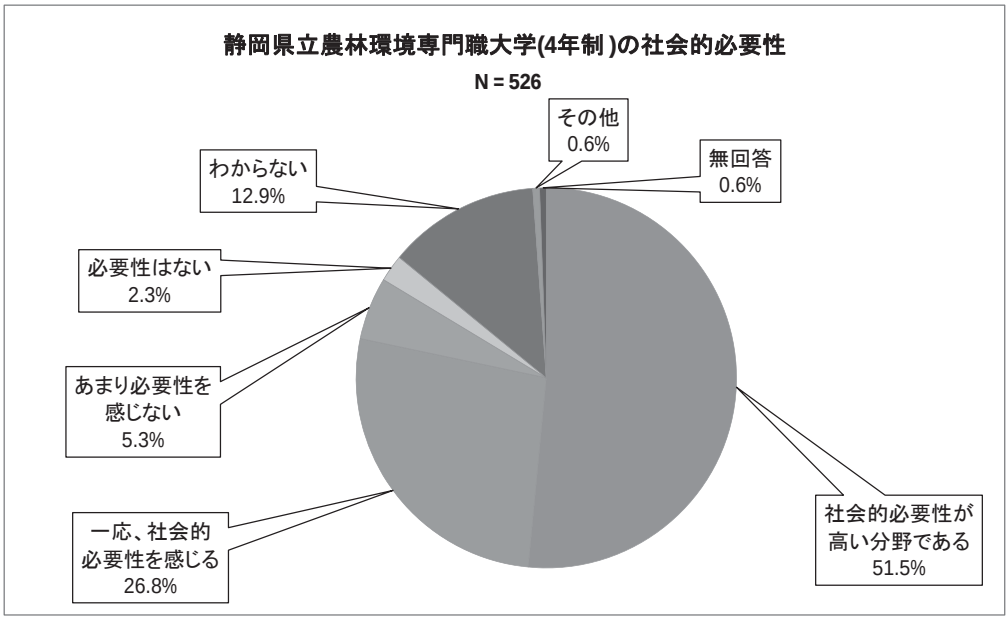
（7）4 年制の静岡県立農林環境専門職大学の社会的必要性について

4 年制の静岡県立農林環境専門職大学の社会的必要性について調査した結果、回答のあった企業等 526 件のうち、「社会的必要性が高い分野である」が 271 件（51.5%）と最も多く、次いで「一応、社会的必要性を感じる」141 件（26.8%）、「わからない」68 件（12.9%）、「あまり必要性を感じない」28 件（5.3%）、「必要性はない」12 件（2.3%）、「その他」3 件（0.6%）の順になっている。　※「無回答」3 件（0.6%）

なお、4 年制の静岡県立農林環境専門職大学について、「社会的必要性が高い分野である」、「一応、社会的必要性を感じる」の肯定的な回答を合算すると、412 件（78.3%）となっている。

静岡県立農林環境専門職大学(4年制)の社会的必要性

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	社会的必要性が高い分野である	271	51.5
2	一応、社会的必要性を感じる	141	26.8
3	あまり必要性を感じない	28	5.3
4	必要性はない	12	2.3
5	わからない	68	12.9
6	その他	3	0.6
	無回答	3	0.6
	N（%ﾍﾞｰｽ）	526	100



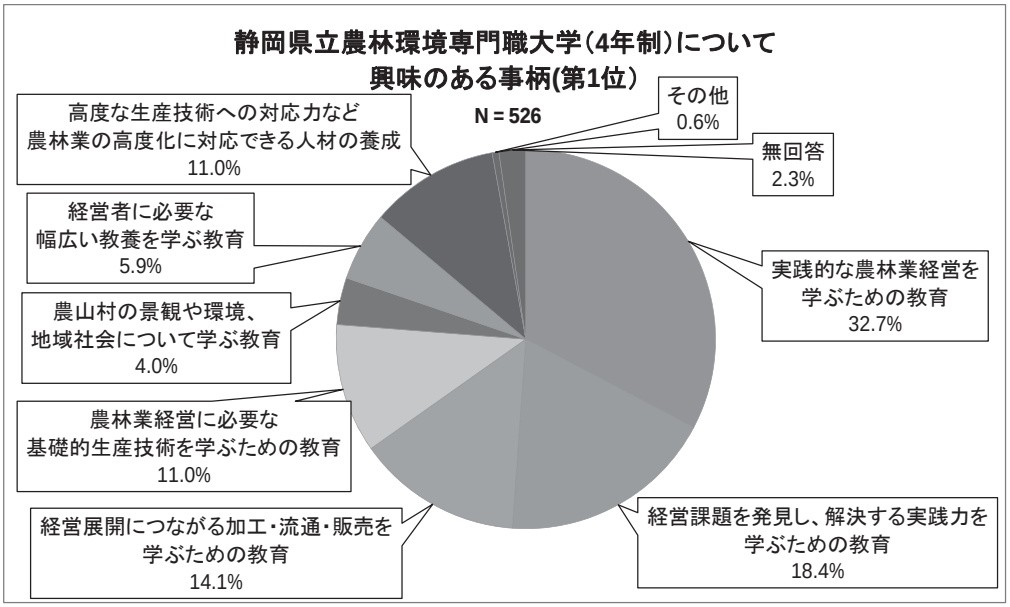
（8）4 年制の静岡県立農林環境専門職大学について興味のある事柄について

8-1　　4 年制の静岡県立農林環境専門職大学について興味のある事柄（第 1 位）について

4 年制の静岡県立農林環境専門職大学について興味のある事柄（第 1 位）について調査した結果、回答のあった企業等 526 件のうち、「実践的な農林業経営を学ぶための教育」が 172 件（32.7%）と最も多く、次いで「経営課題を発見し、解決する実践力を学ぶための教育」97 件（18.4%）、「経営展開につながる加工・流通・販売を学ぶための教育」74 件（14.1%）、「農林業経営に必要な基礎的生産技術を学ぶための教育」58件（11.0%）、「高度な生産技術への対応力など農林業の高度化に対応できる人材の養成」58 件（11.0%）、「経営者に必要な幅広い教養を学ぶ教育」31 件（5.9%）、「農山村の景観や環境、地域社会について学ぶ教育」21 件（4.0%）、「その他」3 件（0.6%）の順になっている。　※「無回答」12 件（2.3%）

静岡県立農林環境専門職大学（4年制）について 興味のある事柄（第1位）

No.	カテゴリ	件数	（全体）%
1	実践的な農林業経営を学ぶための教育	172	32.7
2	経営課題を発見し、解決する実践力を学ぶための教育	97	18.4
3	経営展開につながる加工・流通・販売を学ぶための教育	74	14.1
4	農林業経営に必要な基礎的生産技術を学ぶための教育	58	11.0
5	農山村の景観や環境、地域社会について学ぶ教育	21	4.0
6	経営者に必要な幅広い教養を学ぶ教育	31	5.9
7	高度な生産技術への対応力など農林業の高度化に対応できる人材の養成	58	11.0
8	その他	3	0.6
	無回答	12	2.3
	N（%ベース）	526	100

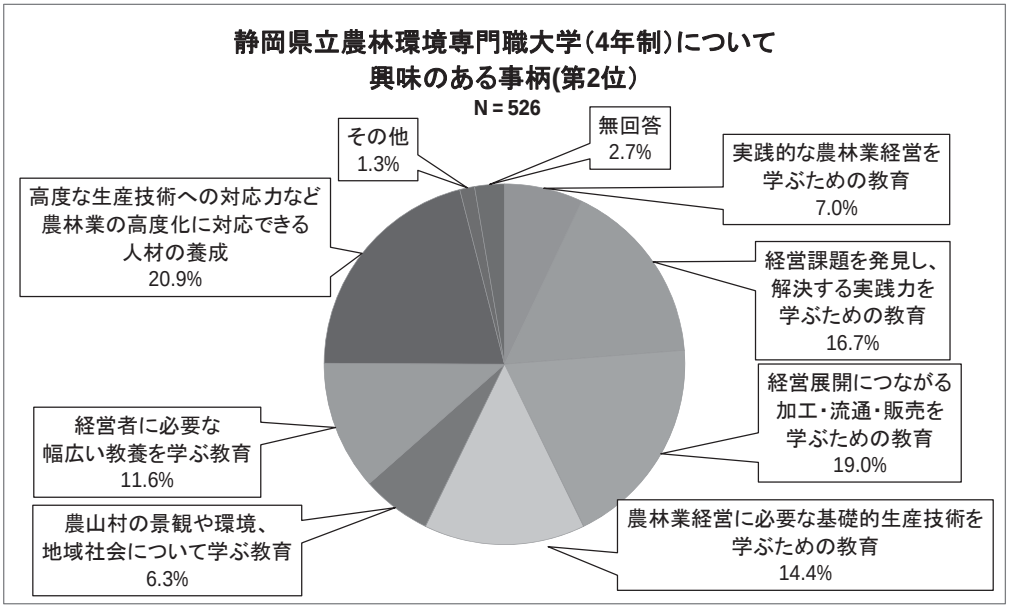


8-2　　4 年制の静岡県立農林環境専門職大学について興味のある事柄（第 2 位）について

4 年制の静岡県立農林環境専門職大学について興味のある事柄（第 2 位）について調査した結果、回答のあった企業等 526 件のうち、「高度な生産技術への対応力など農林業の高度化に対応できる人材の養成」が 110 件（20.9%）と最も多く、次いで「経営展開につながる加工・流通・販売を学ぶための教育」100 件（19.0%）、「経営課題を発見し、解決する実践力を学ぶための教育」88 件（16.7%）、「農林業経営に必要な基礎的生産技術を学ぶための教育」76 件（14.4%）、「経営者に必要な幅広い教養を学ぶ教育」61 件（11.6%）、「実践的な農林業経営を学ぶための教育」37 件（7.0%）、「農山村の景観や環境、地域社会について学ぶ教育」33 件（6.3%）、「その他」7 件（1.3%）の順になっている。　※「無回答」14 件（2.7%）

静岡県立農林環境専門職大学（4年制）について 興味のある事柄（第2位）

No.	カテゴリ	件数	（全体）%
1	実践的な農林業経営を学ぶための教育	37	7.0
2	経営課題を発見し、解決する実践力を学ぶための教育	88	16.7
3	経営展開につながる加工・流通・販売を学ぶための教育	100	19.0
4	農林業経営に必要な基礎的生産技術を学ぶための教育	76	14.4
5	農山村の景観や環境、地域社会について学ぶ教育	33	6.3
6	経営者に必要な幅広い教養を学ぶ教育	61	11.6
7	高度な生産技術への対応力など農林業の高度化に対応できる人材の養成	110	20.9
8	その他	7	1.3
	無回答	14	2.7
	N（%ベース）	526	100



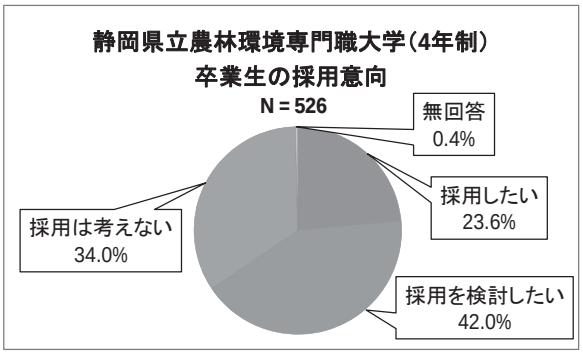
（9）4 年制の静岡県立農林環境専門職大学卒業生の採用意向について

4 年制の静岡県立農林環境専門職大学卒業生の採用意向について調査した結果、回答のあった企業等 526 件のうち、「採用を検討したい」が 221 件（42.0%）と最も多く、次いで「採用は考えない」179 件（34.0%）、「採用したい」124 件（23.6%）の順になっている。　※「無回答」2 件（0.4%）

なお、「採用したい」、「採用を検討したい」の肯定的な回答を合算すると、345 件（65.6%）となっている。

静岡県立農林環境専門職大学(4年制)卒業生の採用意向

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	採用したい	124	23.6
2	採用を検討したい	221	42.0
3	採用は考えない	179	34.0
	無回答	2	0.4
	N（%ﾍﾞｰｽ）	526	100



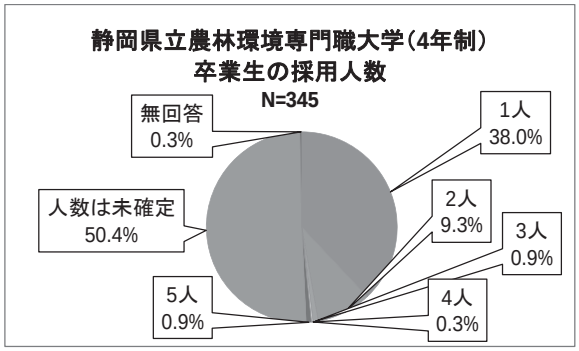
（10）4 年制の静岡県立農林環境専門職大学卒業生の採用人数について

「4 年制の静岡県立農林環境専門職大学卒業生の採用意向」で肯定的な採用意向を示した 345 件に対して、4 年制の静岡県立農林環境専門職大学卒業生の将来的な採用人数について調査したところ、「人数は未確定」174 件（50.4%）と最も多く、次いで「1 人」が 131 件（38.0%）、「2 人」32 件（9.3%）、「3 人」3 件（0.9%）、「5 人」3 件（0.9%）、「4 人」1 件（0.3%）の順になっている。

※「無回答」1 件（0.3%）

静岡県立農林環境専門職大学(4年制)卒業生の採用人数

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	1人	131	38.0
2	2人	32	9.3
3	3人	3	0.9
4	4人	1	0.3
5	5人	3	0.9
6	人数は未確定	174	50.4
	無回答	1	0.3
	N（%ﾍﾞｰｽ）	345	100



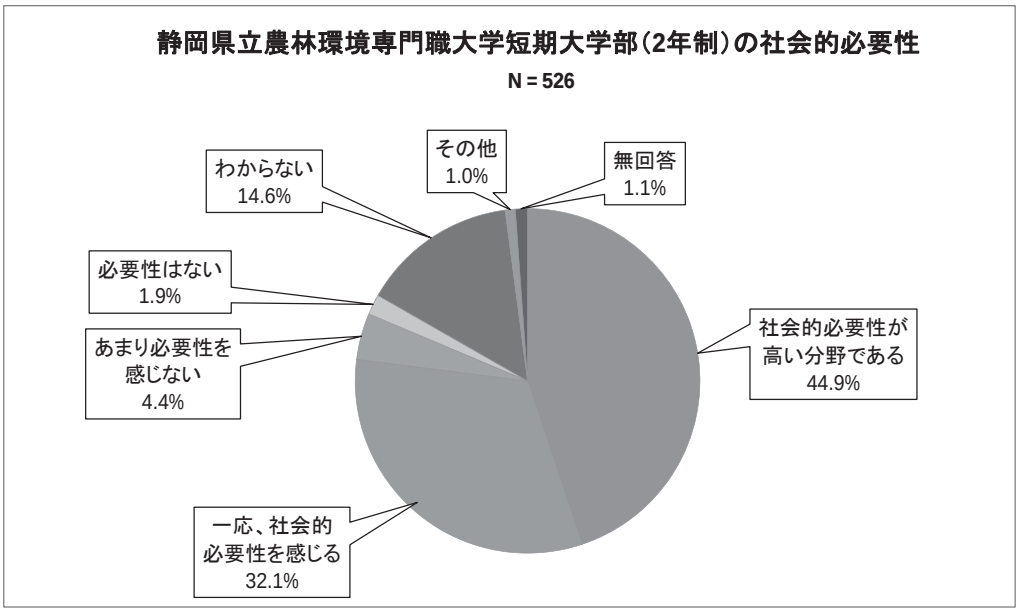
（11）2 年制の静岡県立農林環境専門職大学短期大学部の社会的必要性について

2 年制の静岡県立農林環境専門職大学短期大学部の社会的必要性について調査した結果、回答のあった企業等 526 件のうち、「社会的必要性が高い分野である」が 236 件（44.9%）と最も多く、次いで「一応、社会的必要性を感じる」169 件（32.1%）、「わからない」77 件（14.6%）、「あまり必要性を感じない」23 件（4.4%）、「必要性はない」10 件（1.9%）、「その他」5 件（1.0%）の順になっている。　※「無回答」6 件（1.1%）

なお、2 年制の静岡県立農林環境専門職大学短期大学部について、「社会的必要性が高い分野である」、「一応、社会的必要性を感じる」の肯定的な回答を合算すると、405 件（77.0%）となっている。

静岡県立農林環境専門職大学短期大学部（2年制）の社会的必要性

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	社会的必要性が高い分野である	236	44.9
2	一応、社会的必要性を感じる	169	32.1
3	あまり必要性を感じない	23	4.4
4	必要性はない	10	1.9
5	わからない	77	14.6
6	その他	5	1.0
	無回答	6	1.1
	N（%ベース）	526	100



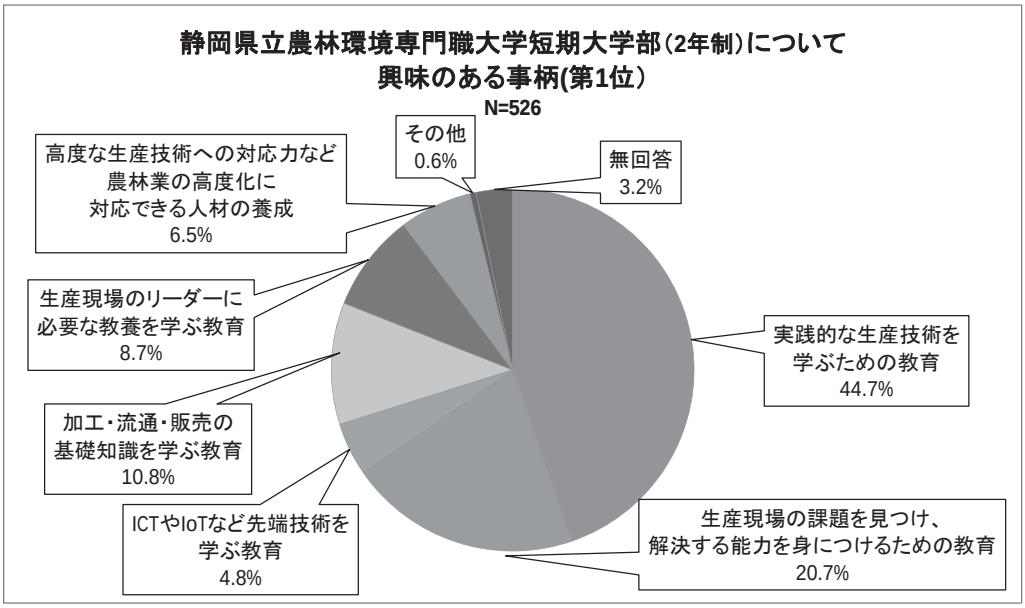
（12）2 年制の静岡県立農林環境専門職大学短期大学部について興味のある事柄について

12-1　　2 年制の静岡県立農林環境専門職大学短期大学部について興味のある事柄(第 1 位)について

2 年制の静岡県立農林環境専門職大学短期大学部について興味のある事柄（第 1 位）について調査した結果、回答のあった企業等 526 件のうち、「実践的な生産技術を学ぶための教育」が 235 件（44.7%）と最も多く、次いで「生産現場の課題を見つけ、解決する能力を身につけるための教育」109 件（20.7%）、「加工・流通・販売の基礎知識を学ぶ教育」57 件（10.8%）、「生産現場のリーダーに必要な教養を学ぶ教育」46 件（8.7%）、「高度な生産技術への対応力など農林業の高度化に対応できる人材の養成」34 件（6.5%）、「ICT や IoT など先端技術を学ぶ教育」25 件（4.8%）、「その他」3 件（0.6%）の順になっている。　※「無回答」17 件（3.2%）

静岡県立農林環境専門職大学短期大学部（2年制）について 興味のある事柄（第1位）

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	実践的な生産技術を学ぶための教育	235	44.7
2	生産現場の課題を見つけ、解決する能力を身につけるための教育	109	20.7
3	ICTやIoTなど先端技術を学ぶ教育	25	4.8
4	加工・流通・販売の基礎知識を学ぶ教育	57	10.8
5	生産現場のリーダーに必要な教養を学ぶ教育	46	8.7
6	高度な生産技術への対応力など農林業の高度化に対応できる人材の養成	34	6.5
7	その他	3	0.6
	無回答	17	3.2
	N（%ベース）	526	100

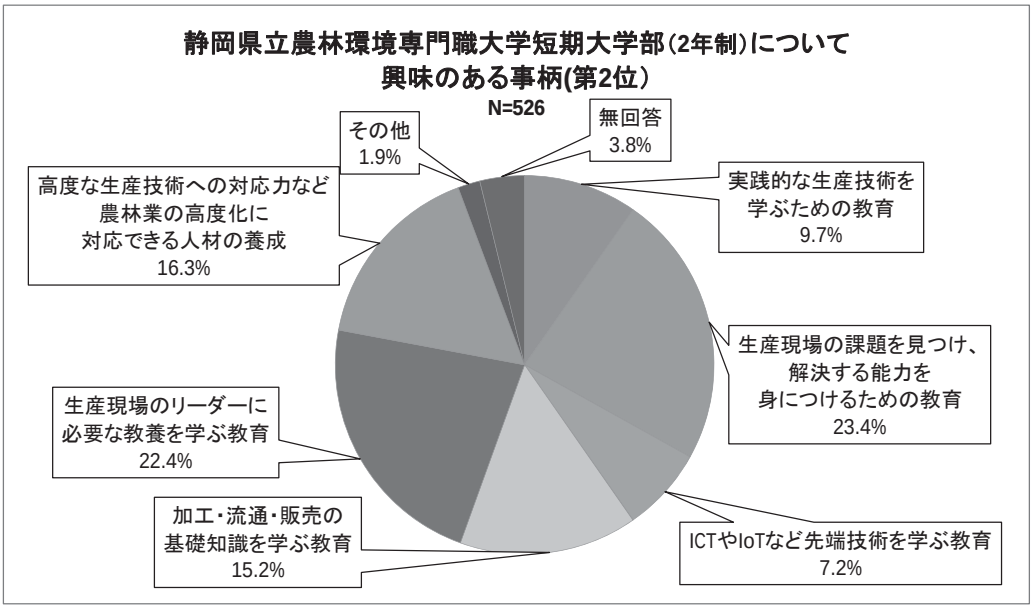


12-2　　2 年制の静岡県立農林環境専門職大学短期大学部について興味のある事柄(第 2 位)について

2 年制の静岡県立農林環境専門職大学短期大学部について興味のある事柄（第 2 位）について調査した結果、回答のあった企業等 526 件のうち、「生産現場の課題を見つけ、解決する能力を身につけるための教育」が 123 件（23.4%）と最も多く、次いで「生産現場のリーダーに必要な教養を学ぶ教育」118 件（22.4%）、「高度な生産技術への対応力など農林業の高度化に対応できる人材の養成」86 件（16.3%）、「加工・流通・販売の基礎知識を学ぶ教育」80 件（15.2%）、「実践的な生産技術を学ぶための教育」51 件（9.7%）、「ICT や IoT など先端技術を学ぶ教育」38 件（7.2%）、「その他」10 件（1.9%）の順になっている。　※「無回答」20 件（3.8%）

静岡県立農林環境専門職大学短期大学部(2年制)について 興味のある事柄(第2位)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	実践的な生産技術を学ぶための教育	51	9.7
2	生産現場の課題を見つけ、解決する能力を身につけるための教育	123	23.4
3	ICTやIoTなど先端技術を学ぶ教育	38	7.2
4	加工・流通・販売の基礎知識を学ぶ教育	80	15.2
5	生産現場のリーダーに必要な教養を学ぶ教育	118	22.4
6	高度な生産技術への対応力など農林業の高度化に対応できる人材の養成	86	16.3
7	その他	10	1.9
	無回答	20	3.8
	N（%ベース）	526	100



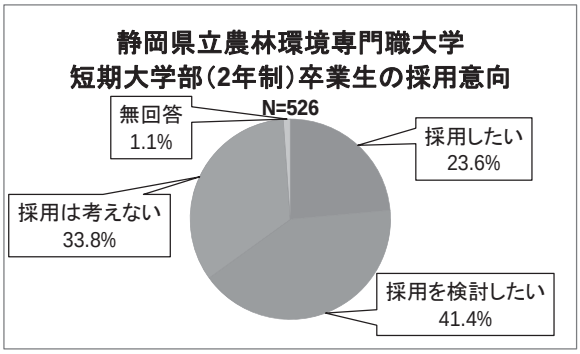
（13）2 年制の静岡県立農林環境専門職大学短期大学部卒業生の採用意向について

2 年制の静岡県立農林環境専門職大学短期大学部卒業生の採用意向について調査した結果、回答のあった企業等 526 件のうち、「採用を検討したい」が 218 件（41.4%）と最も多く、次いで「採用は考えない」178 件（33.8%）、「採用したい」124 件（23.6%）の順になっている。　※「無回答」6 件（1.1%）

なお、「採用したい」、「採用を検討したい」の肯定的な回答を合算すると、342 件（65.0%）となっている。

静岡県立農林環境専門職大学短期大学部（2年制）卒業生の採用意向

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	採用したい	124	23.6
2	採用を検討したい	218	41.4
3	採用は考えない	178	33.8
	無回答	6	1.1
	N（%ベース）	526	100

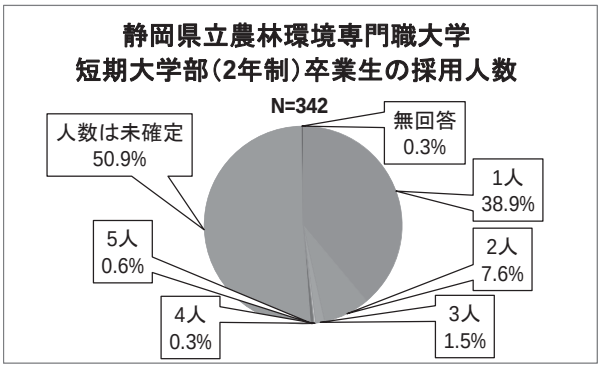


（14）2 年制の静岡県立農林環境専門職大学短期大学部卒業生の採用人数について

「2 年制の静岡県立農林環境専門職大学短期大学部卒業生の採用意向」で肯定的な採用意向を示した 342 件に対して、2 年制の静岡県立農林環境専門職大学短期大学部卒業生の将来的な採用人数について調査したところ、「人数は未確定」174 件（50.9%）と最も多く、次いで「1 人」が 133 件（38.9%）、「2 人」26 件（7.6%）、「3 人」5 件（1.5%）、「5 人」2 件（0.6%）、「4 人」1 件（0.3%）の順になっている。　※「無回答」1 件（0.3%）

静岡県立農林環境専門職大学短期大学部（2年制）卒業生の採用人数

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	1人	133	38.9
2	2人	26	7.6
3	3人	5	1.5
4	4人	1	0.3
5	5人	2	0.6
6	人数は未確定	174	50.9
	無回答	1	0.3
	N（%ベース）	342	100



３．調査結果のまとめ

(1) 静岡県立農林環境専門職大学

静岡県立農林環境専門職大学卒業生に対する将来的な採用意向人数の集計にあたっては、「(9) 4 年制の静岡県立農林環境専門職大学卒業生の採用意向について」の肯定的な回答数と、「(10) 4 年制の静岡県立農林環境専門職大学卒業生の採用人数について」の各選択肢（「1 人」、「2 人」、「3 人」、「4 人」、「5 人以上」、「人数は未確定（※）」）を乗じ、これを合計し、算出した。

※「人数は未確定」とは、「(9) 4 年制の静岡県立農林環境専門職大学卒業生の採用意向について」にて、「採用したい」「採用を検討したい」と回答し将来的な採用意向は示すが、アンケートの時点では将来的な採用人数について確定していないものである。したがって、本調査では「人数は未確定」の将来的な採用人数を最低数である「1 人」として計算した。

下記の表より、4 年制の静岡県立農林環境専門職大学の卒業生に対する採用意向人数は「採用したい」のみで合計した場合、168 人分となる。入学定員は 24 名であるため、7.0 倍の採用意向を確保できている。

また、「採用したい」「採用を検討したい」を合計した場合、採用意向人数は 397 人となり、これは、入学定員 24 名に対して、16.54 倍となる。

静岡県立農林環境専門職大学(4年制) 卒業生の採用人数

回答数(件) 人数(人)	「採用したい」のみ		合計	
1人 (A)	58	(a)	(A) × (a)	58
2人 (B)	23	(b)	(B) × (b)	46
3人 (C)	3	(c)	(C) × (c)	9
4人 (D)	1	(d)	(D) × (d)	4
5人以上 (E)	3	(e)	(E) × (e)	15
人数は未確定 (F)	36	(f)	(F) × (f)	36
無回答	–			
			合計採用意向	168 人

※採用人数が無回答であった場合は、計算から除外した

回答数(件) 人数(人)	「採用したい」「採用を検討したい」の合計		合計	
1人 (A)	131	(a)	(A) × (a)	131
2人 (B)	32	(b)	(B) × (b)	64
3人 (C)	3	(c)	(C) × (c)	9
4人 (D)	1	(d)	(D) × (d)	4
5人以上 (E)	3	(e)	(E) × (e)	15
人数は未確定 (F)	174	(f)	(F) × (f)	174
無回答	1			
			合計採用意向	397 人

(2) 静岡県立農林環境専門職大学短期大学部

静岡県立農林環境専門職大学短期大学部卒業生に対する将来的な採用意向人数の集計にあたっては、「(13) 2 年制の静岡県立農林環境専門職大学短期大学部の卒業生の採用意向について」の肯定的な回答数と、「(14) 2 年制の静岡県立農林環境専門職大学短期大学部の将来的な採用人数について」の各選択肢（「1 人」、「2 人」、「3 人」、「4 人」、「5 人以上」、「人数は未確定（※）」）を乗じ、これを合計し、算出した。

※「人数は未確定」とは、「(13) 2 年制の静岡県立農林環境専門職大学短期大学部の将来的な採用意向について」にて、「採用したい」「採用を検討したい」と回答し将来的な採用意向は示すが、アンケートの時点では将来的な採用人数について確定していないものである。したがって、本調査では「人数は未確定」の将来的な採用人数を最低数である「1 人」として計算した。

下記の表より、2 年制の静岡県立農林環境専門職大学短期大学部の卒業生に対する採用意向人数は「採用したい」のみで合計した場合、157 人分となる。入学定員は 100 名であるため、1.57 倍の採用意向を確保できている。
また、「採用したい」「採用を検討したい」を合計した場合、採用意向人数は388 人となり、これは、入学定員 100 名に対して、3.88 倍となる。

静岡県立農林環境専門職大学短期大学部(2年制) 卒業生の採用人数

回答数(件) 人数(人)	「採用したい」のみ		合計	
1人 (A)	65	(a)	(A) × (a)	65
2人 (B)	18	(b)	(B) × (b)	36
3人 (C)	4	(c)	(C) × (c)	12
4人 (D)	1	(d)	(D) × (d)	4
5人以上 (E)	1	(e)	(E) × (e)	5
人数は未確定 (F)	35	(f)	(F) × (f)	35
無回答	−			
			合計採用意向	157 人

※採用人数が無回答であった場合は、計算から除外した

回答数(件) 人数(人)	「採用したい」「採用を検討したい」の合計		合計	
1人 (A)	133	(a)	(A) × (a)	133
2人 (B)	26	(b)	(B) × (b)	52
3人 (C)	5	(c)	(C) × (c)	15
4人 (D)	1	(d)	(D) × (d)	4
5人以上 (E)	2	(e)	(E) × (e)	10
人数は未確定 (F)	174	(f)	(F) × (f)	174
無回答	1			
			合計採用意向	388 人

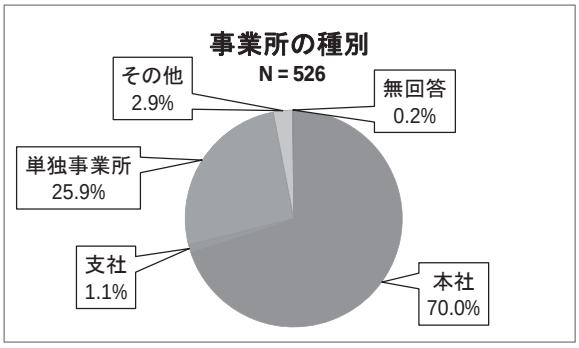
(3) まとめ

以上の調査結果と、今回の調査対象以外への進路も考えられることから、静岡県立農林環境専門職大学及び静岡県立農林環境専門職大学短期大学部の卒業生の進路は十分に確保できるものと考える。

単純集計表

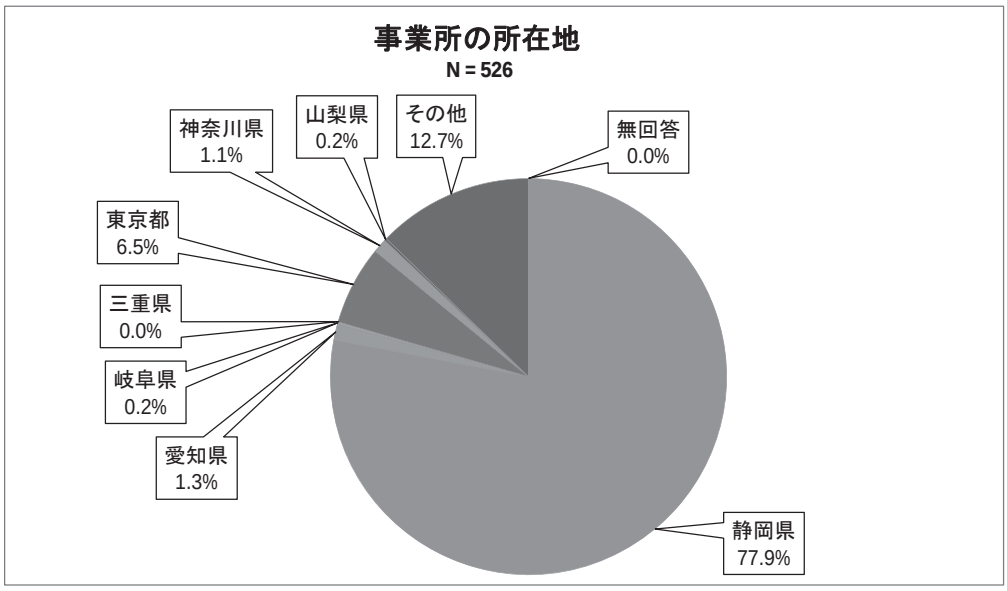
事業所の種別

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	本社	368	70.0
2	支社	6	1.1
3	単独事業所	136	25.9
4	その他	15	2.9
	無回答	1	0.2
	N（%ﾍﾞｰｽ）	526	100



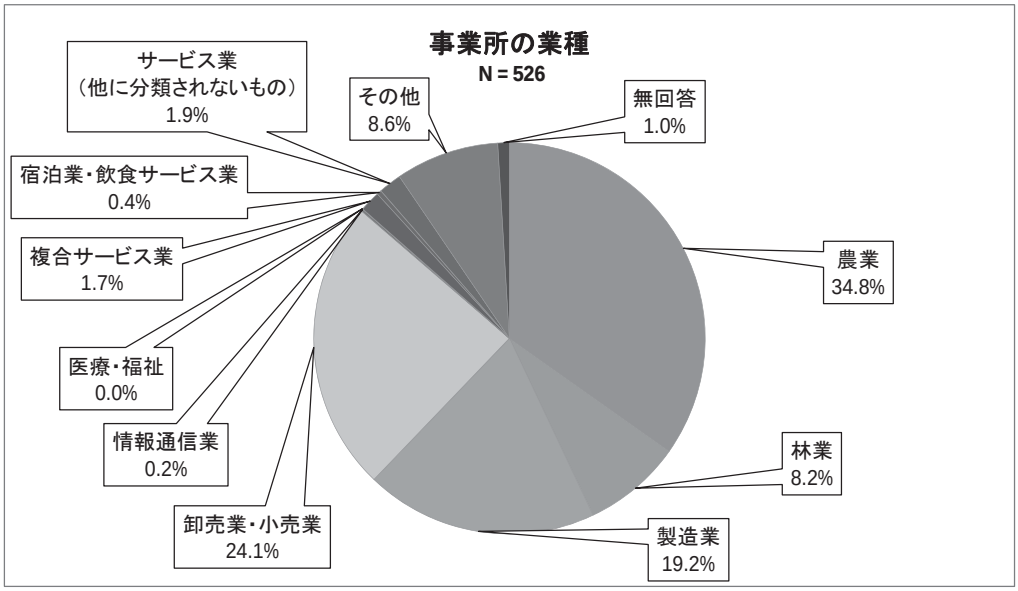
事業所の所在地

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	静岡県	410	77.9
2	愛知県	7	1.3
3	岐阜県	1	0.2
4	三重県	0	0.0
5	東京都	34	6.5
6	神奈川県	6	1.1
7	山梨県	1	0.2
8	その他	67	12.7
	無回答	0	0.0
	N（%ﾍﾞｰｽ）	526	100



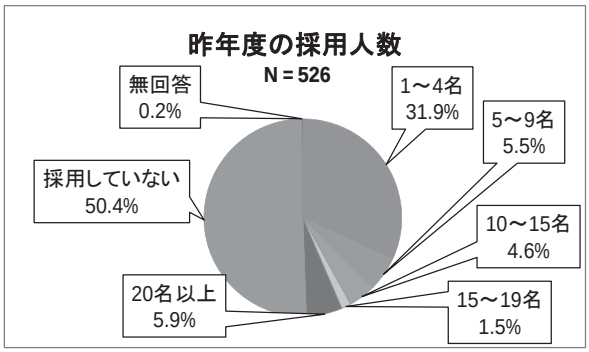
事業所の業種

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	農業	183	34.8
2	林業	43	8.2
3	製造業	101	19.2
4	卸売業・小売業	127	24.1
5	情報通信業	1	0.2
6	医療・福祉	0	0.0
7	複合サービス業	9	1.7
8	宿泊業・飲食サービス業	2	0.4
9	サービス業(他に分類されないもの)	10	1.9
10	その他	45	8.6
	無回答	5	1.0
	N (%ﾍﾞｰｽ)	526	100



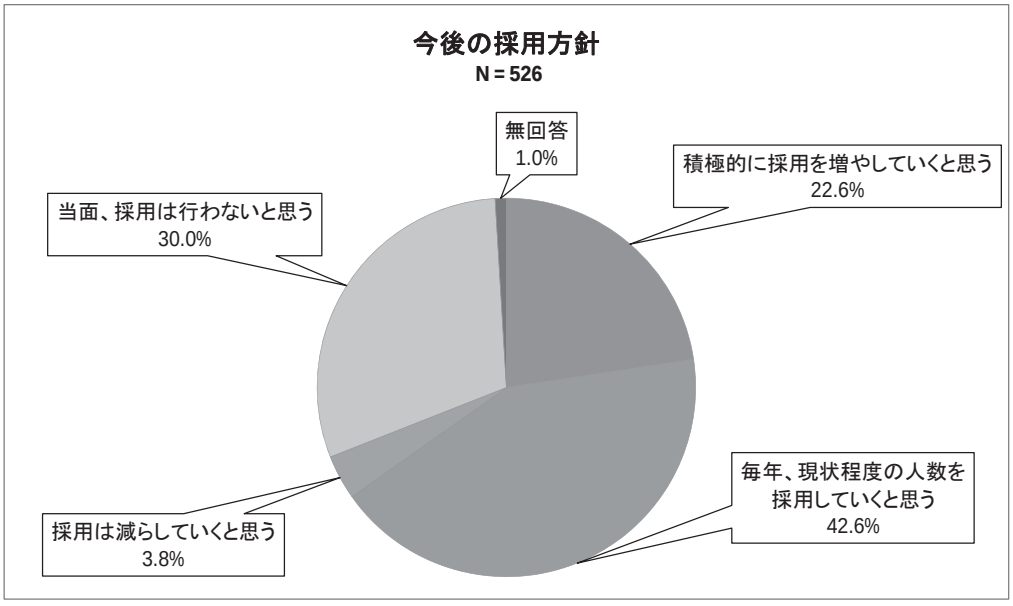
昨年度の採用人数

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	1～4名	168	31.9
2	5～9名	29	5.5
3	10～15名	24	4.6
4	15～19名	8	1.5
5	20名以上	31	5.9
6	採用していない	265	50.4
	無回答	1	0.2
	N（%ﾍﾞｰｽ）	526	100



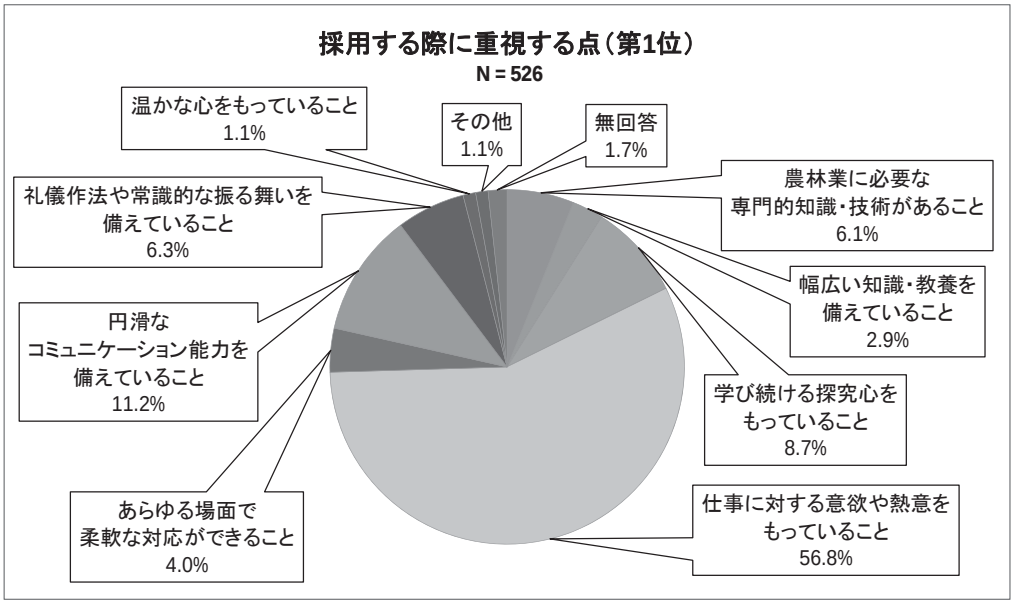
今後の採用方針

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	積極的に採用を増やしていくと思う	119	22.6
2	毎年、現状程度の人数を採用していくと思う	224	42.6
3	採用は減らしていくと思う	20	3.8
4	当面、採用は行わないと思う	158	30.0
	無回答	5	1.0
	N（%ﾍﾞｰｽ）	526	100



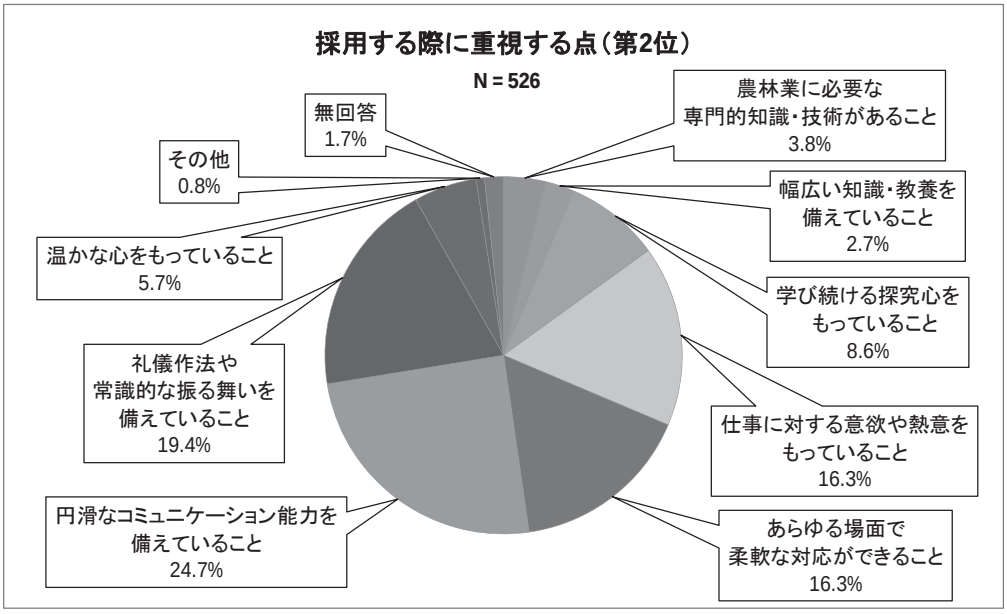
採用する際に重視する点（第1位）

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	農林業に必要な専門的知識・技術があること	32	6.1
2	幅広い知識・教養を備えていること	15	2.9
3	学び続ける探究心をもっていること	46	8.7
4	仕事に対する意欲や熱意をもっていること	299	56.8
5	あらゆる場面で柔軟な対応ができること	21	4.0
6	円滑なコミュニケーション能力を備えていること	59	11.2
7	礼儀作法や常識的な振る舞いを備えていること	33	6.3
8	温かな心をもっていること	6	1.1
9	その他	6	1.1
	無回答	9	1.7
	N（%ﾍﾞｰｽ）	526	100



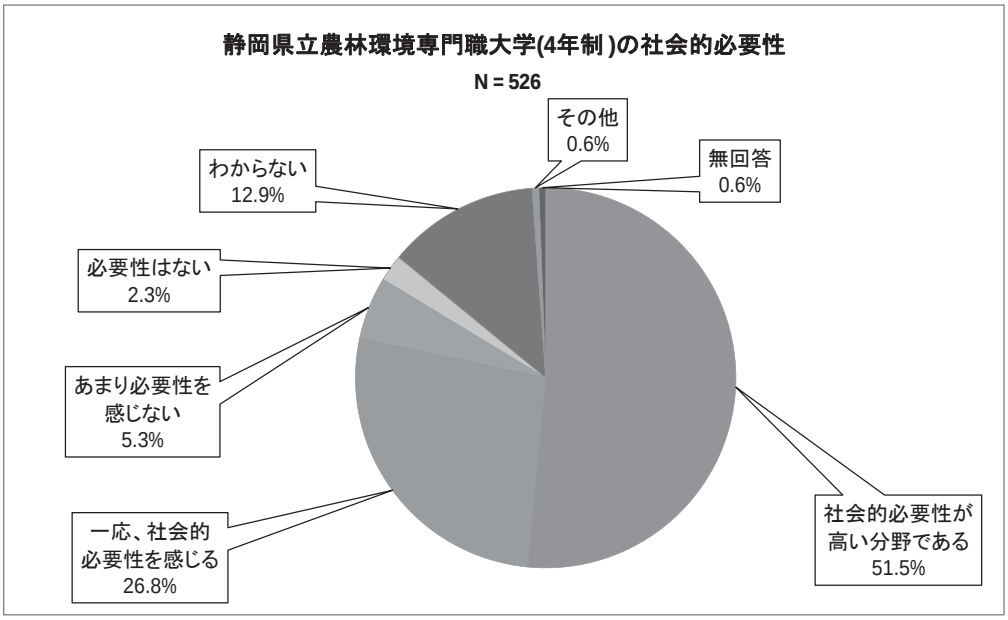
採用する際に重視する点（第2位）

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	農林業に必要な専門的知識・技術があること	20	3.8
2	幅広い知識・教養を備えていること	14	2.7
3	学び続ける探究心をもっていること	45	8.6
4	仕事に対する意欲や熱意をもっていること	86	16.3
5	あらゆる場面で柔軟な対応ができること	86	16.3
6	円滑なコミュニケーション能力を備えていること	130	24.7
7	礼儀作法や常識的な振る舞いを備えていること	102	19.4
8	温かな心をもっていること	30	5.7
9	その他	4	0.8
	無回答	9	1.7
	N（%ﾍﾞｰｽ）	526	100



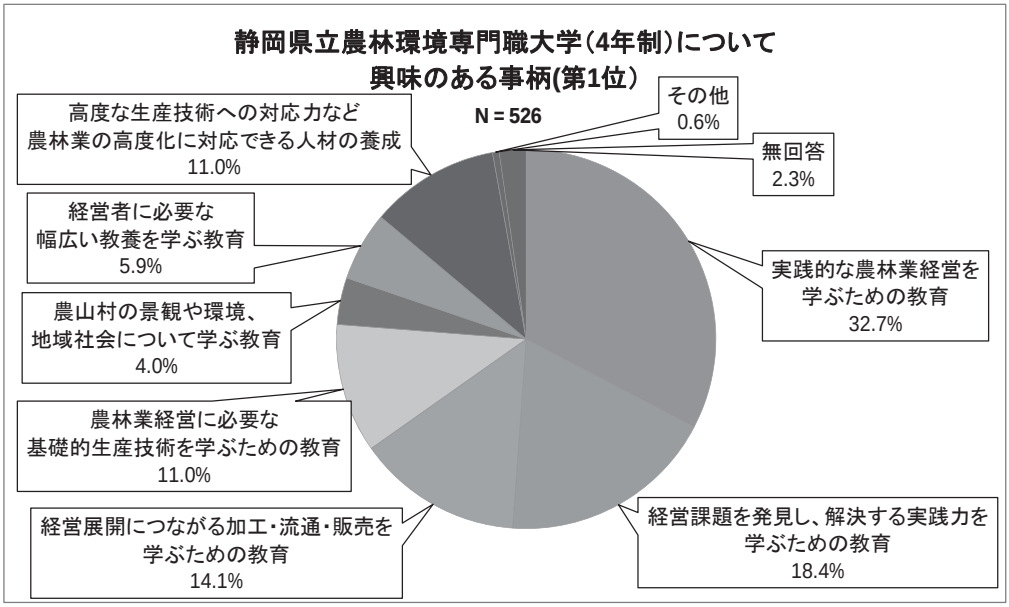
静岡県立農林環境専門職大学(4年制)の社会的必要性

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	社会的必要性が高い分野である	271	51.5
2	一応、社会的必要性を感じる	141	26.8
3	あまり必要性を感じない	28	5.3
4	必要性はない	12	2.3
5	わからない	68	12.9
6	その他	3	0.6
	無回答	3	0.6
	N（%ﾍﾞｰｽ）	526	100



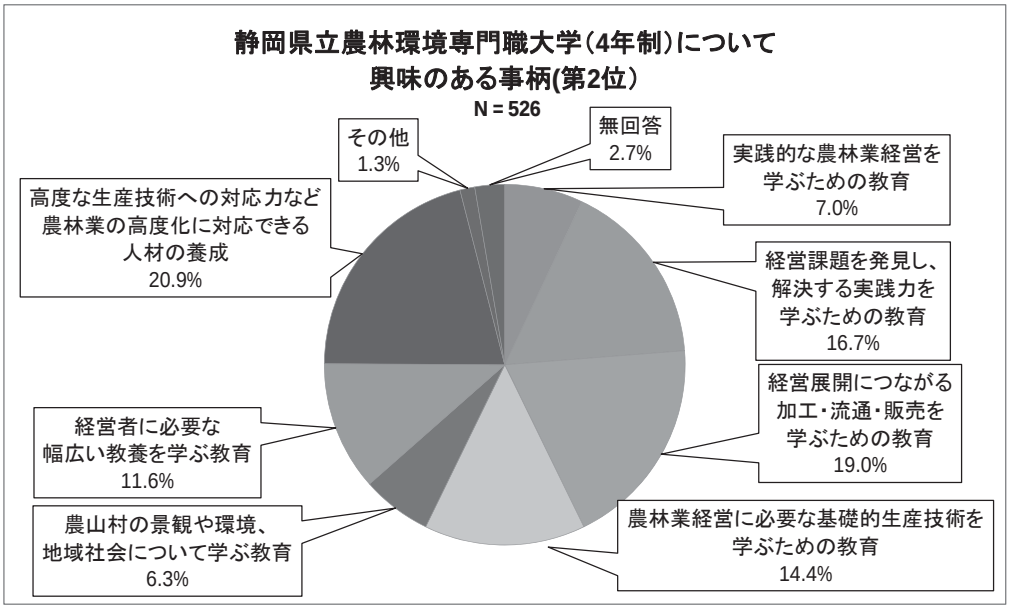
静岡県立農林環境専門職大学(4年制)について 興味のある事柄(第1位)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	実践的な農林業経営を学ぶための教育	172	32.7
2	経営課題を発見し、解決する実践力を学ぶための教育	97	18.4
3	経営展開につながる加工・流通・販売を学ぶための教育	74	14.1
4	農林業経営に必要な基礎的生産技術を学ぶための教育	58	11.0
5	農山村の景観や環境、地域社会について学ぶ教育	21	4.0
6	経営者に必要な幅広い教養を学ぶ教育	31	5.9
7	高度な生産技術への対応力など農林業の高度化に対応できる人材の養成	58	11.0
8	その他	3	0.6
	無回答	12	2.3
	N (%ﾍﾞｰｽ)	526	100



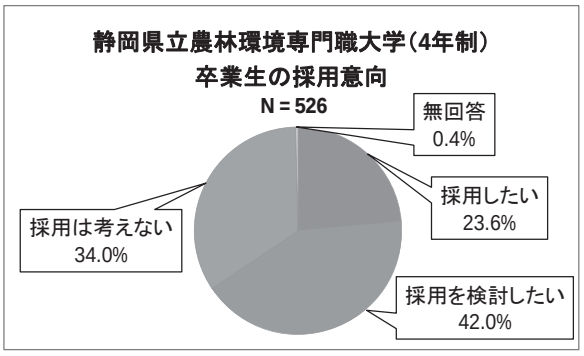
静岡県立農林環境専門職大学（4年制）について 興味のある事柄(第2位)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	実践的な農林業経営を学ぶための教育	37	7.0
2	経営課題を発見し、解決する実践力を学ぶための教育	88	16.7
3	経営展開につながる加工・流通・販売を学ぶための教育	100	19.0
4	農林業経営に必要な基礎的生産技術を学ぶための教育	76	14.4
5	農山村の景観や環境、地域社会について学ぶ教育	33	6.3
6	経営者に必要な幅広い教養を学ぶ教育	61	11.6
7	高度な生産技術への対応力など農林業の高度化に対応できる人材の養成	110	20.9
8	その他	7	1.3
	無回答	14	2.7
	N（%ﾍﾞｰｽ）	526	100



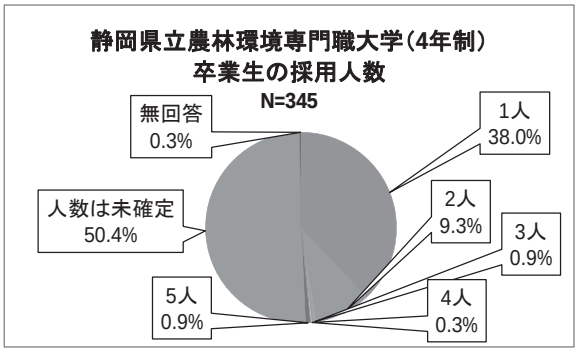
静岡県立農林環境専門職大学(4年制)卒業生の採用意向

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	採用したい	124	23.6
2	採用を検討したい	221	42.0
3	採用は考えない	179	34.0
	無回答	2	0.4
	N (%ﾍﾞｰｽ)	526	100



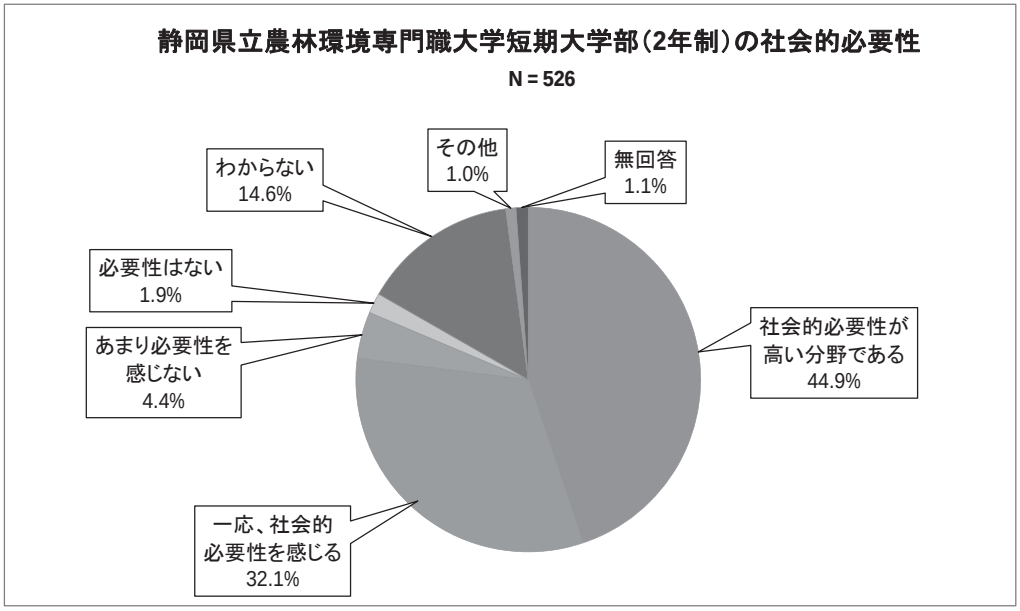
静岡県立農林環境専門職大学(4年制)卒業生の採用人数

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	1人	131	38.0
2	2人	32	9.3
3	3人	3	0.9
4	4人	1	0.3
5	5人	3	0.9
6	人数は未確定	174	50.4
	無回答	1	0.3
	N (%ﾍﾞｰｽ)	345	100



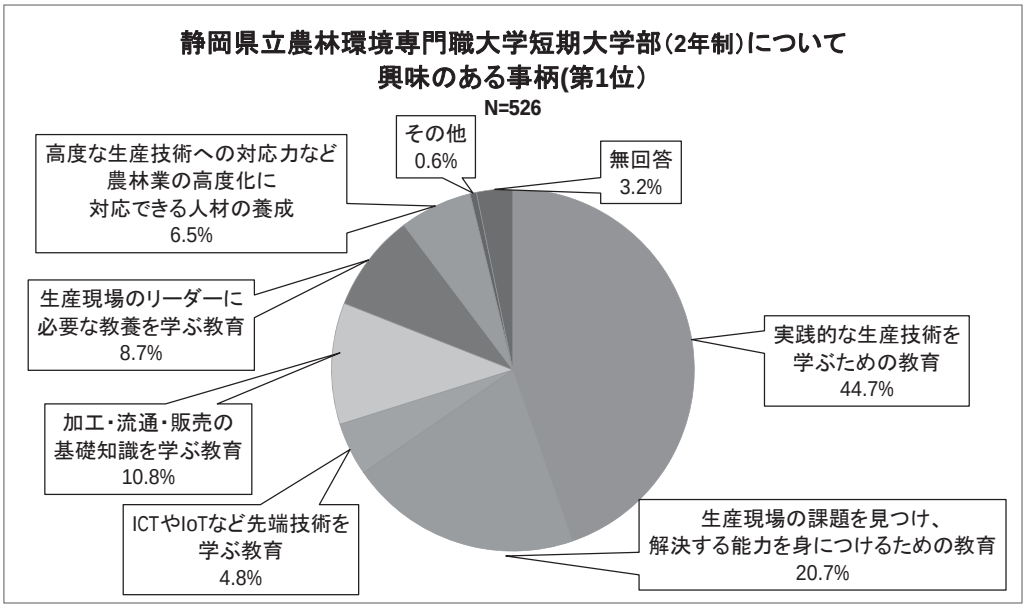
静岡県立農林環境専門職大学短期大学部(2年制)の社会的必要性

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	社会的必要性が高い分野である	236	44.9
2	一応、社会的必要性を感じる	169	32.1
3	あまり必要性を感じない	23	4.4
4	必要性はない	10	1.9
5	わからない	77	14.6
6	その他	5	1.0
	無回答	6	1.1
	N (%ﾍﾞｰｽ)	526	100



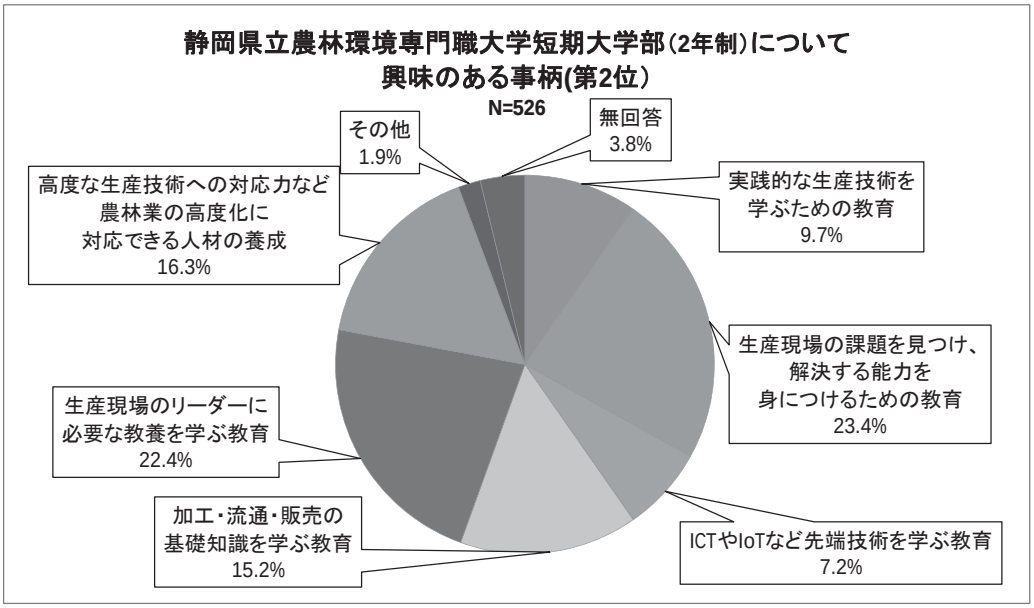
静岡県立農林環境専門職大学短期大学部(2年制)について 興味のある事柄(第1位)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	実践的な生産技術を学ぶための教育	235	44.7
2	生産現場の課題を見つけ、解決する能力を身につけるための教育	109	20.7
3	ICTやIoTなど先端技術を学ぶ教育	25	4.8
4	加工・流通・販売の基礎知識を学ぶ教育	57	10.8
5	生産現場のリーダーに必要な教養を学ぶ教育	46	8.7
6	高度な生産技術への対応力など農林業の高度化に対応できる人材の養成	34	6.5
7	その他	3	0.6
	無回答	17	3.2
	N (%ベース)	526	100



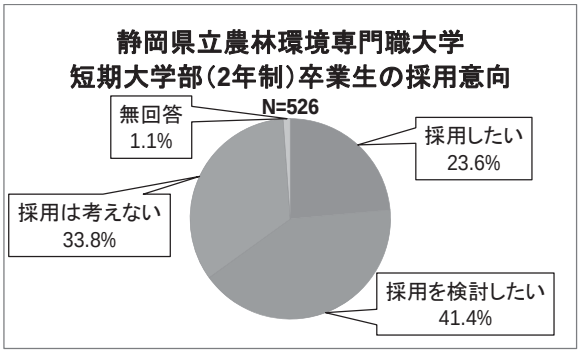
静岡県立農林環境専門職大学短期大学部(2年制)について 興味のある事柄(第2位)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	実践的な生産技術を学ぶための教育	51	9.7
2	生産現場の課題を見つけ、解決する能力を身につけるための教育	123	23.4
3	ICTやIoTなど先端技術を学ぶ教育	38	7.2
4	加工・流通・販売の基礎知識を学ぶ教育	80	15.2
5	生産現場のリーダーに必要な教養を学ぶ教育	118	22.4
6	高度な生産技術への対応力など農林業の高度化に対応できる人材の養成	86	16.3
7	その他	10	1.9
	無回答	20	3.8
	N (%ベース)	526	100



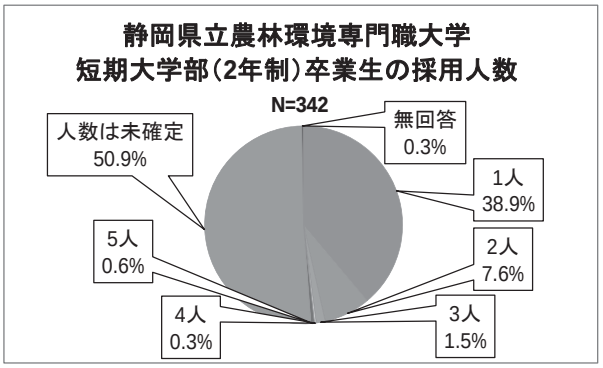
静岡県立農林環境専門職大学短期大学部(2年制)卒業生の採用意向

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	採用したい	124	23.6
2	採用を検討したい	218	41.4
3	採用は考えない	178	33.8
	無回答	6	1.1
	N (%ﾍﾞｰｽ)	526	100



静岡県立農林環境専門職大学短期大学部(2年制)卒業生の採用人数

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	1人	133	38.9
2	2人	26	7.6
3	3人	5	1.5
4	4人	1	0.3
5	5人	2	0.6
6	人数は未確定	174	50.9
	無回答	1	0.3
	N (%ﾍﾞｰｽ)	342	100



調査票

静岡県立農林環境専門職大学（仮称）及び
静岡県立農林環境専門職大学短期大学部（仮称）の設置に係るアンケート調査

・このアンケート調査は、2020 年 4 月に開学を予定している静岡県立農林環境専門職大学（仮称）及び静岡県立農林環境専門職大学短期大学部（仮称）の設置計画の基礎資料とするため、貴社・貴施設の人材採用方針等についてお聞きするものです。
・このアンケート結果は、統計資料としてのみ用い、目的以外に利用することはありません。
・回答は、該当する番号を回答欄の □ の中に直接、御記入ください。

★回答締め切りのお願い★

2018 年 8 月 10 日（金）までに、同封の返信用封筒にて御投函いただきますようお願いいたします。

【　貴社・貴施設についてお伺いします　】

【回答欄】

問 1．本社・支社・事業所等について、お聞きします。次の中から該当する番号を 1 つお選びください。

1．本社　　2．支社　　3．単独事業所　　4．その他（　　）　□

問 2．所在地について、お聞きします。次の中から該当する番号を 1 つお選びください。

1．静岡県　　4．三重県　　7．山梨県
2．愛知県　　5．東京都　　8．その他（　　）
3．岐阜県　　6．神奈川県　　□

問 3．業種について、お聞きします。次の中から最も当てはまる番号を 1 つお選びください。

1．農業　　5．情報通信業　　9．サービス業(他に分類されないもの)
2．林業　　6．医療・福祉　　10．その他
3．製造業　　7．複合サービス業　　（具体的に:　　）
4．卸売業・小売業　　8．宿泊業・飲食サービス業　　□

問 4．昨年度（平成 30 年 4 月入社）に新卒採用された人数について、次の中から該当する番号を 1 つお選びください。（支社または単独事業所でお答えいただいている場合は、そちらでの採用数をお願いします）

1．1～4 名　　3．10～15 名　　5．20 名以上
2．5～9 名　　4．15～19 名　　6．採用していない

※番号で御回答ください　□

問 5．今後の人材採用について、どのようにお考えですか。お考えに近い番号を 1 つお選びください。

1．積極的に採用を増やしていくと思う
2．毎年、現状程度の人数を採用していくと思う
3．採用は減らしていくと思う
4．当面、採用は行わないと思う　　□

問 6．人材を採用する際に、貴社・貴施設ではどのようなことを重視していますか。該当する番号を第 2 位までお選びください。

1．農林業に必要な専門的知識・技術があること
2．幅広い知識・教養を備えていること
3．学び続ける探究心をもっていること
4．仕事に対する意欲や熱意をもっていること
5．あらゆる場面で柔軟な対応ができること
6．円滑なコミュニケーション能力を備えていること
7．礼儀作法や常識的な振る舞いを備えていること
8．温かな心をもっていること
9．その他（具体的に:　　）

第 1 位　□
第 2 位　□

⇒ 次のページへお進みください ⇒

ここからは、同封のリーフレット
「静岡県立　農林環境専門職大学（仮称）、農林環境専門職大学短期大学部（仮称）」
を御覧になりながらお答えください。

【　4 年制の静岡県立農林環境専門職大学（仮称）についておたずねします。　】

問７．　設置を計画している４年制の静岡県立農林環境専門職大学（仮称）の社会的必要性について、どのようにお考えになりますか。次の中から該当する番号を 1 つお選びください。

1. 社会的必要性が高い分野である
2. 一応、社会的必要性を感じる
3. あまり必要性を感じない
4. 必要性はない
5. わからない
6. その他（具体的に:　　）

□

問８．　設置を計画している４年制の静岡県立農林環境専門職大学（仮称）の特徴や目指している事柄について、興味のあるものはどれですか。興味の高い順に第 2 位までお選びください。

1. 実践的な農林業経営を学ぶための教育
2. 経営課題を発見し、解決する実践力を学ぶための教育
3. 経営展開につながる加工・流通・販売を学ぶための教育
4. 農林業経営に必要な基礎的生産技術を学ぶための教育
5. 農山村の景観や環境、地域社会について学ぶ教育
6. 経営者に必要な幅広い教養を学ぶ教育
7. 高度な生産技術への対応力など農林業の高度化に対応できる人材の養成
8. その他（具体的に:　　）

第 1 位 □
第 2 位 □

問９．　設置を計画している４年制の静岡県立農林環境専門職大学（仮称）の卒業生の将来的な採用意向についておたずねします。次の中から該当する番号を 1 つお選びください。

1. 採用したい
2. 採用を検討したい
3. 採用は考えない

1、2 を選ばれた方は問 10 へお進みください
3 を選ばれた方は問 11 へお進みください

□

問 10．　問９で「1.採用したい」「2.採用を検討したい」を選択した方におたずねします。選択した４年制の静岡県立農林環境専門職大学（仮称）の卒業生を毎年何人程度採用したいと考えますか。次の中から該当する番号を 1 つお選びください。

1. 1 人
2. 2 人
3. 3 人
4. 4 人
5. 5 人以上
6. 人数は未確定

※番号で御回答ください　□

【　2 年制の静岡県立農林環境専門職大学短期大学部（仮称）についておたずねします。　】

問 11．設置を計画している２年制の静岡県立農林環境専門職大学短期大学部（仮称）の社会的必要性について、どのようにお考えになりますか。次の中から該当する番号を 1 つお選びください。

1. 社会的必要性が高い分野である
2. 一応、社会的必要性を感じる
3. あまり必要性を感じない
4. 必要性はない
5. わからない
6. その他（具体的に:　　）

□

問 12．設置を計画している２年制の静岡県立農林環境専門職大学短期大学部（仮称）の特徴や目指している事柄について、興味のあるものはどれですか。興味の高い順に第 2 位までお選びください。

1. 実践的な生産技術を学ぶための教育
2. 生産現場の課題を見つけ、解決する能力を身につけるための教育
3. ICT や IoT など先端技術を学ぶ教育
4. 加工・流通・販売の基礎知識を学ぶ教育
5. 生産現場のリーダーに必要な教養を学ぶ教育
6. 高度な生産技術への対応力など農林業の高度化に対応できる人材の養成
7. その他（具体的に:　　）

第 1 位 □
第 2 位 □

問 13．設置を計画している２年制の静岡県立農林環境専門職大学短期大学部（仮称）の卒業生の将来的な採用意向についておたずねします。次の中から該当する番号を 1 つお選びください。

1. 採用したい
2. 採用を検討したい
3. 採用は考えない

1、2 を選ばれた方は問 14 へお進みください
3 を選ばれた方は問 15 へお進みください

□

問 14．問 13 で「1.採用したい」「2.採用を検討したい」を選択した方におたずねします。２年制の静岡県立農林環境専門職大学短期大学部（仮称）の卒業生を毎年何人程度採用したいと考えますか。次の中から該当する番号を 1 つお選びください。

1. 1 人
2. 2 人
3. 3 人
4. 4 人
5. 5 人以上
6. 人数は未確定

※番号で御回答ください　□

問 15．構想している静岡県立農林環境専門職大学（仮称）、静岡県立農林環境専門職大学短期大学部（仮称）の設置計画にあたり、御意見・御要望がありましたら、御自由にお書きください。

◆◆　御協力ありがとうございました　◆◆

資格免許取得等について

○授業の中で取得に取り組める資格・免許（予定）

大型特殊自動車運転免許（農耕用）、茶手揉技師補、日本茶アドバイザー、家畜人工授精師免許、
フォークリフト運転技能講習修了証、伐木（大径木等）特別教育、狩猟免許、簿記検定など

※4年制、2年制ともに取得が可能です（資格分野によって取得できないものがあります）。また、取得費用は別途必要です。

○農林業の担い手を目指す学生の就農を支援する給付金制度

・農業次世代人材投資事業（準備型）　・緑の青年就業準備給付金事業

※卒業後1年以内の就農などの給付要件があります。給付要件を満たさなくなった場合全額を返還しなければなりません。

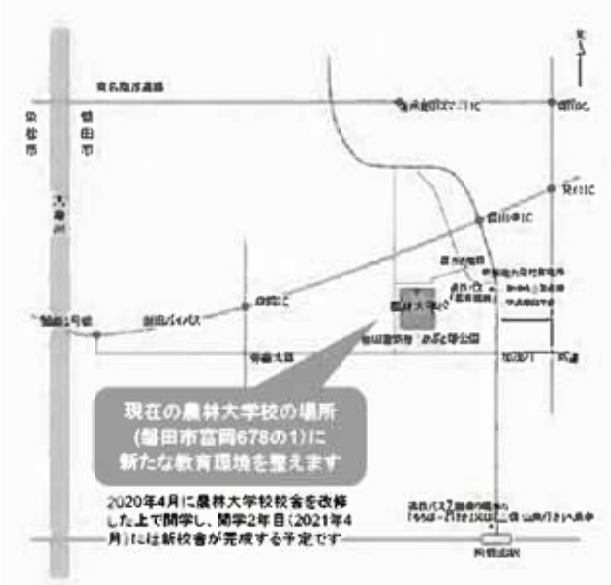
○共同生活を通じて協調性を養う寮生活

・4年制、2年制ともに、1年生は原則全寮制とすることを検討しています。

○現在の農林大学校の男女比

・学生の男女比は男性：女性＝2：1で、3人に1人は女性の学生です。

交通アクセス



【電車・バスでの来校】

●東京方面より　新幹線「JR掛川駅」下車－乗換え－東海道本線「JR磐田駅」下車

●名古屋方面より　新幹線「JR浜松駅」下車－乗換え－東海道本線「JR磐田駅」下車

JR磐田駅北口　バスロータリーより遠州鉄道バス（10分）－徒歩（10分）

お問い合わせ

静岡県経済産業部農業局農業ビジネス課　専門職大学整備班　TEL:054-221-2734

〒420-8601　静岡市葵区追手町9番6号　県庁東館9階　FAX:054-221-3688

※設置構想中のため、このリーフレットの記載内容は変更となる可能性があります。

静岡県立
農林環境専門職大学（仮称）
農林環境専門職大学 短期大学部（仮称）

2020年4月
開学予定
〈設置構想中〉

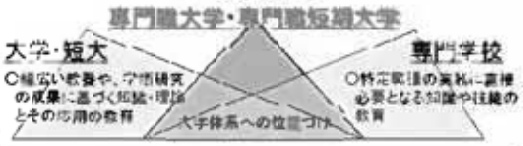
静岡県では、静岡県立農林大学校を、農林業者を養成する専門学校として、本県の農林業の発展に貢献してきましたが、近年の農林業経営の規模拡大や多様化に対応するため、このたび4年制の専門職大学と2年制の専門職短期大学への移行を検討しています。

専門職大学とは？

2019年4月から新たに創設される実践的な職業教育を行う新しい高等教育機関です。

今後の成長産業分野（農業や観光、情報など）において、専門職業人材を養成する実践的な教育のニーズが高まる中で、新たに創設化された大学です。

特に、企業での長期実習や関係の経営分野に関する教育等を通じ、高度な「実践力」や豊かな「創造性」を培う教育に重点を置く点が特徴となっています。



■設置者

静岡県が設置する、公立の専門職大学及び専門職大学短期大学部です。

■学部・学科名

4年制	生産環境経営学部（仮称） 生産環境経営学科（仮称）	入学定員 24名（予定）
2年制	短期大学部（仮称） 生産科学科（仮称）	入学定員 100名（予定）

■開学時期

2020年4月の開学を目指し、大学設置認可申請の準備を進めています。

■学位等

専門職大学の卒業者には、「学士（専門職）」、専門職短期大学の卒業者には「短期大学士（専門職）」の学位がそれぞれ授与されます。
これらは、4年制大学や短期大学の卒業生に与えられる「学士」「短期大学士」と同等のものです

※設置構想中のため、このリーフレットの記載内容は変更となる可能性があります。

○「耕土耕心（大地を耕し、心を耕す）」の理念のもとに、多くの実習を行い、農林業のプロフェッショナルを養成します

農林大学校の校訓「耕土耕心」＝「ひたいに汗し、土にまみれて大地を耕すことにより、自分を知り、自分の心を成長させ、立派な人間性をつくりあげることができる。大地を耕すことは自らの心を耕すことである」という理念を引き継ぎ、実学を生成し、校舎に隣接する畑で年間を通した栽培等の実習や、先進的企業でのインターンを実施するとともに、豊かな人間性を養い視野を広げる教養教育を充実します。

○人々の食やくらしを支え、新たな可能性が広がる農林業の、あらゆるシーンに対応できる力を養います

・農林業現場における経営規模の拡大や新しい技術の導入などに柔軟に対応できるよう、基礎的な生産知識や技術に加え、農林業を取り巻く多様なシーンについて学べます。
・農山村の新しい役割として注目を集めている、美しい景観の形成や自然環境の保全などについて学び、農林業を通じて自然と共生しながら地域を支えていく農林業人を養成します。

○全国初の農林業分野の専門職大学です

農林業分野では全国初の公立の専門職大学及び専門職短期大学となる見込みです。専門職大学卒業生には「学士（専門職）」、専門職短期大学卒業生には「短期大学士（専門職）」の学位がそれぞれ授与されます。

農林環境専門職大学（仮称）

生産環境経営学部（仮称）　**生産環境経営学科**（仮称）　**4年制**

入学定員　24名（予定）

POINT 1　農林業経営の現場で生まれる課題に柔軟に対応しながら、経営の中心として自らの夢を実現できる農林業者の養成を目指します。

○高度な生産技術に加え、マーケット・イン※の視点に立った食の安全性や機能性の追求、6次産業化など、生産物の付加価値化の手法を学べます。
○農林業経営体等でのインターンを通じ、実際の経営課題の解決手法を提案する、実践的なプロジェクト実習を行います。

POINT 2　景観・環境や地域の文化を守り、自然と共生していくことのできる、豊かな人間性を持った農林業者の養成を目指します。

○景観や環境など、近年注目を集めている農山村の多面的な役割を学べます。

実践的な農林業経営を学ぶカリキュラム

★経営者に必要な幅広い教養を学びます。
学びのキーワード：技術者倫理／日本文化、語学／環境／一般教養

★農林業経営に必要な経営管理能力と生産技術を習得するとともに、農山村が持つ機能や役割について理解を深めます。
学びのキーワード：経営戦略、マーケティング、記帳／生産マネージメント、先端技術／農山村、コミュニティー、多面的機能

★経営展開につながる流通・加工・販売を学びます。
学びのキーワード：フードシステム／食品加工／木材加工／6次産業化

★経営課題を発見し、解決する実践力を身につけます。
学びのキーワード：経営課題／課題発見／課題解決力

農林業経営のプロフェッショナルを目指す

新しい視点でチャレンジする農林業経営体後継者や幹部、農林業経営体の立上げ、農林業へ参入する企業へ就職、技術指導・普及を行う公務員、JA・森林組合の職員　等

農林環境専門職大学 短期大学部（仮称）

生産科学科（仮称）　**2年制**

入学定員　100名（予定）

POINT 1　確かな生産知識と技術を持つ、生産現場で即戦力として活躍するスペシャリスト農林業者の養成を目指します。

○作目別（野菜・花き、お茶、果樹、林産、畜産等）に実践的な生産知識と技術力を修得できます。

POINT 2　生産現場のリーダーに必要な豊かな人間性と、現場の課題に対応できる先進的な生産知識・技術と応用力を身に付けます。

○農林業経営体等でのインターンを通じ、生産現場で貴重な経験を積むことができます。
○ICTやIoTなど、農林業現場に導入が進んでいる先端技術を学べます。

実践的な生産技術を学ぶカリキュラム

★生産現場のリーダーに必要な教養を学びます。
学びのキーワード：コミュニケーション／語学／一般教養

★生産現場で必要な実践的な生産技術を身につけます。
学びのキーワード：圃場・実習林実習／企業実習／先端技術、GAP

★生産現場から消費者に繋がる加工・流通・販売の基礎知識を学びます。
学びのキーワード：流通加工／食品加工／木材加工／販売実習

★生産現場の課題を見つけ解決する能力を身につけます。
学びのキーワード：生産課題／課題発見／課題解決力

生産現場のプロフェッショナルを目指す

確かな生産技術・知識を持った農林業後継者、農林業経営体生産現場のリーダー、農林業関連企業（食品・種苗等）への就職　等

※設置構想中のため、このリーフレットの記載内容は変更となる可能性があります。

【資料 20】

農林業法人ヒヤリング調査報告

静岡県立農林環境専門職大学（仮称）生産環境経営学部（仮称）及び静岡県立農林環境専門職大学短期大学部（仮称）生産科学科（仮称）の設置に係るヒヤリング結果

１．法人名
株式会社　ハラダ製茶農園

２．出席者
株式会社　ハラダ製茶農園　工場長　北川清様
静岡県経済産業部農業ビジネス課　課長　田中宣幸、主査　竹内淑子

３．実施内容
日時：平成 30 年８月９日（木）　午後 0 時 50 分～１時 50 分
場所：株式会社　ハラダ製茶農園

４．ヒヤリング結果
（１）　設置の趣旨・養成する人材像について

４年制大学が出来るのは大歓迎。４年間で専門的なマネジメントをしっかり覚えてくる教育を行う大学はありがたい。経営者となるような人材は必要である。当社の経営者（社長）は、当社の親会社の経営者（社長）であるが、親会社の方が中心となっている。社員が使用人という意識でいると、この会社は潰れてしまうので社員が経営感覚を持っていないといけない。

弊社には栽培の指導部門があるが、指導部門の社員には、担当する作物の栽培だけでなく、農業全般を浅く広く、全体が分かっている人材が必要。農業は品目が違ってもつながっているので、農業に関する幅広い勉強をして知識を蓄えてくる、農業全般を勉強してくる人材は必要。

（２）　卒業生の採用について

全国で農業参入の企業は約 3,300 企業であり、専門職大学の人材を狙ってくるだろう。弊社としては、大学と短期大学の両方の人材を採用したい。何を聞いても答えられる、やることも基本どおり的確にやっているとプロ集団に見えるので、そのような人材が欲しい。

（３）　進学について

お茶はティーバックやドリンク原料などの下級茶の需要が高まっており、高級茶の需要は減少している。お茶だけでは経営が成り立たなくなっているので、複合経営が必要である。秋冬野菜や水稲など色々な組み合わせを考えなければならない。複合経営を実践するためには、何種類かの露地野菜や施設園芸などいくつかのパターンを基本どおり覚える学校形式のゼロからの学びが良いと思うので、これらを学ばせるための社員の派遣はあり得る。給料を払いつつ、費用を会社が負担することもあり得る。

静岡県立農林環境専門職大学（仮称）生産環境経営学部（仮称）及び
静岡県立農林環境専門職大学短期大学部（仮称）生産科学科（仮称）の設置に係る
ヒヤリング結果

１．法人名
静岡県農業共同組合中央会

２．出席者
静岡県農業共同組合中央会　部長　杉山和陽　様、嘉茂佑亮　様
静岡県経済産業部農業局農業ビジネス課　課長　田中宣幸、主査　竹内淑子

３．実施内容
日時：平成 30 年８月 15 日（水）　午前９時 55 分～11 時
場所：静岡県農業共同組合中央会担い手支援部

４．ヒヤリング結果
（１）設置の趣旨・養成する人材像について
大学及び短期大学ともに農業後継者、農業法人就職、ＪＡ職員の人材育成機関として期待している。
最近、農業への新規参入者の支援は手厚いが、後継者の支援は薄いという意見もある。後継者育成に力を入れて欲しい。農家の子弟が農業後継者として農業経営を継承して一本立ちしていくことが大事だと思っているので、大学の方では、そのための教育を親からどのように経営継承していくのか学べると良い。

（２）卒業生の採用について
大学及び短期大学の卒業生は、農業後継者になるだけでなく、農業法人やＪＡグループに就職していただけるとありがたい。
農業法人は短大の方がターゲットになると思う。
ＪＡは４大卒の採用も行っているが、営農指導員としてなど目的別採用を行っているところはない。

（３）進学について
見込みがある人材にはもう一度学びの場を与えたいという法人もあると思う。専門職大学へ入学するのは難しいと思うが、学び直しのための社会人向けの講座があると良いのでは。技術の部分は日々触れていると思うので、特に経営の部分だと思う。

静岡県立農林環境専門職大学（仮称）生産環境経営学部（仮称）及び
静岡県立農林環境専門職大学短期大学部（仮称）生産科学科（仮称）の設置に係る
ヒヤリング結果

１．法人名
朝霧メイプルファーム有限会社

２．出席者
朝霧メイプルファーム有限会社　取締役　丸山純　様
静岡県経済産業部農業局農業ビジネス課　田中宣幸、主査　竹内淑子

３．実施内容
日時：平成 30 年８月 15 日（水）午後１時 20 分～２時
場所：朝霧メイプルファーム有限会社事務室

４．ヒヤリング結果
（１）設置の趣旨・養成する人材像について
農業に必要なことが４大の設置趣旨に書いてあるが、あとは実現できるかである。
大学と現場・農家のつながりが希薄だと思っているので、有機的につながると良い。強い酪農家を作ることのできる、相互の影響が及ぶような大学になって欲しい。

（２）卒業生の採用について
規模拡大を考えているので、大学、短期大学を問わず、いい人材がいれば採用したい。

（３）進学について
社員の派遣は分からない。

静岡県立農林環境専門職大学（仮称）生産環境経営学部（仮称）及び
静岡県立農林環境専門職大学短期大学部（仮称）生産科学科（仮称）の設置に係る
ヒヤリング結果

１．法人名
静岡県森林組合連合会

２．出席者
静岡県森林組合連合会　代表理事常務　望月鉄彦　様、部長兼総務課長　渡辺英彰　様
静岡県経済産業部農業局　　農業ビジネス課　室長　佐野一弘、主査　竹内淑子
同　　森林林業局　森林計画課　　技監　大石　剛

３．実施内容
平成 30 年 8 月 17 日（金）　午前 10 時～10 時 30 分

４．ヒヤリング結果
（１）設置の趣旨・養成する人材像について
林業の専門知識に特化した人材が育成できるとよい。経営の知識があると更に良いかとは思う。林業分野では現場も出来て、経営も出来る人材が欲しい。木が切れて、パソコン（経営の数字がわかる）が出来て、林学がわかる三能職員が必要。

（２）卒業生の採用について
林業業界はマイナーなので、林業に就業したいと考える方は山に対する思い入れがある人なので、採用する場合は、そういった人を選択すると思う。
地元の人間で、山のことを勉強して、地元に就職したいという人が、連合会としても森林組合としても採用したい人材なので、そのような人材なら短大・４大を問わず採用したい。

（３）進学について
森林組合などを退職後に、地域で農業を始める人もいるので、林業ではなく、短大の方で農業について学びなおすニーズはあるかもしれない。

静岡県立農林環境専門職大学（仮称）生産環境経営学部（仮称）及び
静岡県立農林環境専門職大学短期大学部（仮称）生産科学科（仮称）の設置に係る
ヒヤリング結果

１．法人名
株式会社　カクト・ロコ

２．出席者
株式会社　カクト・ロコ　代表取締役　野末信子　様
静岡県経済産業部農業ビジネス課　室長　佐野一弘、主査　竹内淑子

３．実施内容
日時：平成 30 年８月 17 日（金）　午後２時～５時 10 分
場所：株式会社　カクト・ロコ店舗

４．ヒヤリング結果
（１）設置の趣旨・養成する人材像について
専門職大学が実現できるならば、素晴らしいことだと思った。原点に戻って人間が生きていくためには何が必要か、子供たち教育する必要がある。大学が設置されることで、大学が核となり大地を耕して守っていくということが出来ればそれが基本になる。また、情報を発信することで地域が落ち着いたものになっていくのでは。
大学が環境を守っていくことには意義があると思う。今までは農林大学校がそのような役割を果たしてきたと思うが、世界に触手を伸ばしていく考え方も必要だと思うし、農業の最先端の技術や情報を伝えていける場があるとよい。
経営陣を育てるなら、最後の１年間くらい、どこかの法人の現場でみっちり経営の仕方を学ぶくらいしてもよいのでは。
農業は生産現場があるので、みんなが経営陣になると困る。現場に入るならば、短大で２年間学んできてくれれば良い。

（２）卒業生の採用について
経営状況によって、採用したい人材は異なる。現場を担う人材、経営を担う人材も両方欲しいが、経営の方は沢山はいらない。当社には番頭がいないので、社長がいなくても采配を振るってくれる人材が２人は欲しい。

（３）進学について
人手不足や人件費が高騰するなかで、短大で２年間、もしくは大学で４年勉強させる余力が会社にはないので、現状では社員を派遣することは難しい。社員は日々の作業に追われており、頭を柔らかくさせるために本当は良いとは思うので、費用的な支援があれば考えてみたい。将来的にはあり得るかもしれない。

５．その他
農林大学校から今年は２名採用した。大変期待している。２年間だけだが、植物とともに生活してきた学生は、お勉強ばかりの子とは違う。以前採用した農大の卒業生は、生産の責任者で課長になっているが、来年は外部取締役になる。生産の主になってくれる子がいなくなるので、今年入社した卒業生にお願いすることになる。また、もう一人は営業を任せる予定。

静岡県立農林環境専門職大学（仮称）生産環境経営学部（仮称）及び
静岡県立農林環境専門職大学短期大学部（仮称）生産科学科（仮称）の設置に係る
ヒヤリング結果

１．法人名
有限会社　高橋水耕

２．出席者
有限会社　高橋水耕　代表取締役　高橋和晃　氏
静岡県経済産業部農業局農業ビジネス課　田中宣幸、主査　竹内淑子

３．実施内容
日時：平成 30 年８月 20 日　午後１時 15 分～２時 30 分
場所：有限会社　高橋水耕　事務室

４．ヒヤリング結果
（１）設置の趣旨・養成する人材像について
大学に対する期待はある。しかし、大学を卒業した 24 人がどのようになっていくのか、不明。農協の TAC（地域農業の担い手に出向く JA 担当者）なのか。県内農業法人の社員候補として人気は出るとは思うが、経営幹部を求めている法人は、まだ少数である。独立就農を目指す学生が大学の方に来るかもしれない。
一方、短期大学は、卒業後にどのようになっていくのか、想像がつく。生産規模の拡大をしているので、現場を支える人材を育成する短期大学の方を期待している。

（２）卒業生の採用について
当社では、短大生の方を採用したい。
幹部候補は求めていないが、トマト販売を行っているグループ会社の方で、これから大卒のニーズが出てくる可能性はある。

（３）進学について
社員に派遣はありうる。大学の方の３年次編入ならばあり得る。

５．その他
最近は、高卒の採用を行っているが、農林大学校の卒業生と比較すると違いがある。２年間の学びは意味がある。

静岡県立農林環境専門職大学（仮称）生産環境経営学部（仮称）及び
静岡県立農林環境専門職大学短期大学部（仮称）生産科学科（仮称）の設置に係る
ヒヤリング結果

１．法人名
株式会社　春野コーポレーション

２．出席者
株式会社　春野コーポレーション　代表取締役　鳥居　英剛　様
静岡県経済産業部農業ビジネス課　室長　佐野一弘、主査　竹内淑子

３．実施内容
日時：平成30年８月21日　午後０時55分～１時40分

４．ヒヤリング結果
（１）設置の趣旨・養成する人材像について
大学の設置の趣旨は賛成である。人やカネ、生産などのマネジメントを行う人材の育成を行うことを目的としていると思うが、あとは、本当にそれが実践できるのかではないか。ヒトや金、生産マネジメントを行う人材ならば、結果が出せるのかが評価のポイントとなる。
正社員は、作業者ではなく責任者や管理者になってもらいたいので、ある程度の教育をされた人材はありがたい。当社には現場の技術力が十分にあるので、生産技術の教育は特に求めていない。

（２）卒業生の採用について
ヒトやカネ、生産技術をマネジメントについて学んだ人材ならばぜひ欲しい。上昇志向のある、幹部を志すような学生を採用したい。

（３）進学について
戦略、マーケティング、経営課題などについて学ばせるために、社員の派遣はぜひしたい。

５．その他
大学の学生の学び、学生との交流につながるような協力は、ぜひ行いたい。

静岡県立農林環境専門職大学（仮称）生産環境経営学部（仮称）及び
静岡県立農林環境専門職大学短期大学部（仮称）生産科学科（仮称）の設置に係る
ヒヤリング結果

１．法人名
株式会社　とやま農園

２．出席者
株式会社　とやま農園　代表　外山徳彦
静岡県経済産業部農業ビジネス課　室長　佐野一弘、主査　竹内淑子

３．実施内容
日時：平成 30 年 8 月 27 日　午後 0 時 50 分～１時 30 分
場所：株式会社　とやま農園事務室

４．ヒヤリング結果
（１）設置の趣旨・養成する人材像について
経営の知識を最初から身につけ、幹部として最初から経営に関わってくれる人がいると良い。最近、経営が分かる人材を求める経営体は増え始めていると感じる。
法人になる農家が増えている。目的を持って法人にしていると思うが、経営規模の拡大を目指している農家は必ず従業員と従業員を管理する人が必要となってくる。そういう人が増えてくる中で、短期大学を出て、現場ですぐに仕事ができる人と、経営者として現場に出ながら従業員を管理していく人たちが必要となってくる。経営者を育てる専門職大学は必要だと思う。
現場の人材を育てる短期大学と、経営者を育てる大学の両方があることは意味がある。

（２）卒業生の採用について
生産現場ではチームに分かれて仕事をするが、チームをまとめる人が欲しい。また、自分の後継者になるような人材に加え、もう一人右腕になるような人を採用したい。

（３）進学について
社員が学び直しのために大学へ行くことはあり得る。本人のやる気次第。以前、農大の講座に行かせたことはある。

５．その他
農林大学校の卒業生を去年採用した。現場に出ているので仕事には慣れていると思うが、即戦力までではない。専門的な部分は、もう少し突っ込んで勉強をすると良いかと思う。そうすれば、１年目から即戦力になる。

静岡県立農林環境専門職大学（仮称）生産環境経営学部（仮称）及び
静岡県立農林環境専門職大学短期大学部（仮称）生産科学科（仮称）の設置に係る
ヒヤリング結果

１．法人名
富士森林組合

２．出席者
富士森林組合　代表理事専務　古川日出男、参与　遠藤康由
静岡県経済産業部農業ビジネス課　室長　佐野一弘、主査　竹内淑子

３．実施内容
日時：平成 30 年 8 月 30 日　午前 10 時～11 時 10 分
場所：富士森林組合事務室

４．ヒヤリング結果
（１）設置の趣旨・養成する人材像について
コンセプトに沿った、地域に沿った人材育成を行ってほしい。林業の施業が大きく変わっていることを感じられる人でないといけない。新しい人材をいれていかないと、林業は持続的に発展しない。これから林業分野では、経営を行う人材を求めるようになる。林業の将来を見通せるリーダーが必要である。受入側と育成側がどのように連携して人材育成をおこなっていくのか、考えてほしい。

（２）卒業生の採用について
林業現場を担う人材と森林施業プランナーと両方が必要である。現場を担うのか、プランナーになるかは、本人次第だが、現場だけでいい人は短期大学でよい。大学ならば、林業の実務を学ぶだけでなく、森林施業プランナーを育成することが必要である。プランナーは、現場がわかっていて、プランを作成するものなので、短期大学の+２年の教育が必要である。

（３）進学について
大学への職員の派遣はあり得る。負担をどのようにするかが課題ではある。

静岡県立農林環境専門職大学（仮称）生産環境経営学部（仮称）及び
静岡県立農林環境専門職大学短期大学部（仮称）生産科学科（仮称）の設置に係る
ヒヤリング結果

１．法人名
農事組合法人　ジャパン・ベリー

２．出席者
農事組合法人　ジャパン・ベリー　代表理事組合長　上山優
静岡県経済産業部農業ビジネス課　班長　田林大介、主査　竹内淑子

３．実施内容
日時：平成 30 年９月 13 日　午前 11 時 40 分～午後 0 時 20 分
場所：農事組合法人　ジャパン・ベリー事務室

４．ヒヤリング結果
（１）設置の趣旨・養成する人材像について
専門職大学、専門職短期大学は期待している。ぜひ、コンセプトにある人材を育成してほしい。

（２）卒業生の採用について
専門職大学の卒業生を採用したい。右腕となるような、経営を考えられる人を入れていきたい。
専門職短期大学の卒業生は、継続して採用したい。施設園芸や野菜の知識、幅広い知識、バイタリティーを備えた人材が欲しい。

（３）進学について
職員の派遣は将来的にはあり得る。どちらかというと短期講座をやってもらった方が職員を参加させやすい。

５．その他
現在の農林大学校卒業生は良く働いてくれる。イチゴの知識があるので助かる。今後は、現場をまかせるようにしていきたい。

【資料21】

平成 30 年 7 月 17 日

経済産業部理事（林業・森の防潮堤推進担当）

西島　潔 様

平成31年度　森林・林業施策に係る要請書

静岡県森林組合連合会　　会長　　中谷 多加士

静岡県木材協同組合連合会　　会長　　滝浪 龍司

公益社団法人 静岡県山林協会　　会長　　鈴木 康友

静岡県山林種苗協同組合連合会　　会長　　大杉 好基

静岡県椎茸産業振興協議会　　会長　　菊地 豊

公益社団法人静岡県林業会議所　　会頭　　大富部 喜彦

はじめに

静岡県におかれては、スギ・ヒノキ人工林資源が十分に成熟したことを背景に県産材の需要と供給を一体的に創造する**「ふじのくに森林・林業再生プロジェクト第２ステージ」**を重点的に進めていただきました。その結果、平成29年には素材生産量46.3万立方メートルを達成するまでに至りました。また、本年度からは、新たな総合計画のもとで**「ふじのくに林業成長産業化」**に取り組んでいただいていることから、本県の森林・林業・木材産業に明るい展望が開けてきていることに心より感謝申し上げます。

また、温暖化の影響等により全国的に異常な豪雨による山地災害が頻発しているなか、災害の誘因ともなりかねない荒廃森林につきましては**「森の力再生事業」**などにより、整備が着実に進められていることに重ねて感謝申し上げます。

さて近年、東海地域では新たな大型合板工場、製材工場などの新設が相次ぎ木材需要が急激に増加する中、来年度から**「新たな森林管理システムと森林環境譲与税（仮称）」**の開始が決定されるなど、森林・林業界を取り巻く環境は大きく変革しています。我々はこれを契機として林業・木材産業や中山間地の振興を一層進める所存です。

しかしながら現状では需要増加に対応する集約化や生産性の高い技術の導入の遅れ、専門技術者や作業員の不足、シカ等による造林木食害などの問題が山積みになっています。また一方では山地災害の発生や松くい虫被害による海岸防災林の機能低下、高波による防潮堤侵食の進行など、県民の生活は依然として脅かされています。

このように森林・林業・木材産業や中山間地を取り巻く環境は依然として厳しい状況にあります。**私ども森林･林業･木材産業関係６団体は、本県の森林の多面的機能を持続的かつ高度に発揮させて、県民福祉の増進と県勢の発展に貢献するため、多くの関係者と相協力しながら、森林の保全・整備、林業・木材産業の振興、森林整備の担い手の育成等に鋭意努めていく所存であります。**

つきましては、平成31年度森林･林業施策に係る要請事項を以下のとおり取り纏めましたので、「治山事業」「森林整備事業」「木材産業振興」「山村振興」等の各種施策について、特段の御配慮のもと県独自の強力な施策を講じていただけますようお願い致します。

公益社団法人静岡県山林協会

1．県土の保全、森林・林業・木材産業関係予算の確保

・県土の64%を占める森林は、木材の産出機能をはじめ、水源涵養・防災機能など県民にとって何ものにも代えることができない多面的な機能を有しています。
・我々はこれをよく理解し、各団体の連携や県との連携により森林の適正な整備や保全に努力しているところでありますので、下記項目にご配慮願います。

① 治山・林道、林業・木材産業の成長産業化に関する予算の確保

【特に確保を要望する予算】

・東京2020オリンピック・パラリンピック（自転車競技）や世界遺産に関連した道路沿線等の森林景観整備に関する予算
・“ふじのくに森の防潮堤づくり”に関する予算
・山間地の荒廃森林における治山事業に関する予算

2．森林環境譲与税事業（仮称）の円滑な実施に向けた指導助言

・平成31年度から森林環境譲与税（仮称）による事業が開始されますが、市町では専門技術者が不足しており円滑な執行に支障が生じる可能性があります。
・また森林環境譲与税事業（仮称）の実施にあたり市町間の連携や県実施の森の力再生事業との調整により公益的機能の早期発揮が期待できます。
・このため下記項目について指導・助言等の支援を要望します。

② 森林環境譲与税（仮称）を活用した事業の円滑な実施に向けた市町、事業体への指導・助言等の支援

③ 森林の公益的機能の早期発揮に向けた森林環境譲与税事業（仮称）と森の力再生事業との調整

3．森林・林業を託す人材の育成

・林業事業体の技術者不足が深刻化しており、技術者の安定的な養成・供給に向け技術者教育機関の再整備を進めることが緊急かつ重要です。
・また、本県有効求人倍率が昨年4月以降1.5倍を超え各業界で新規就業者確保が困難となる中、林業への新規就業者の着実な確保が重要です。
・さらに、技術者や経営者の能力向上を図るためにビジネス林業促進事業の拡充が必要です。以上のことから下記事項を要望します。

④ 専門職大学の創設

⑤ 新規就業促進事業の拡充

⑥ ビジネス林業促進事業の拡充